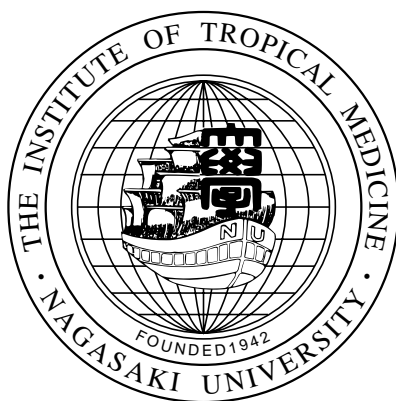


長崎大学熱帯医学研究所

# 年 次 要 覽

平成16年度  
(2004)



長崎大学熱帯医学研究所

平成17年(2005) 12月

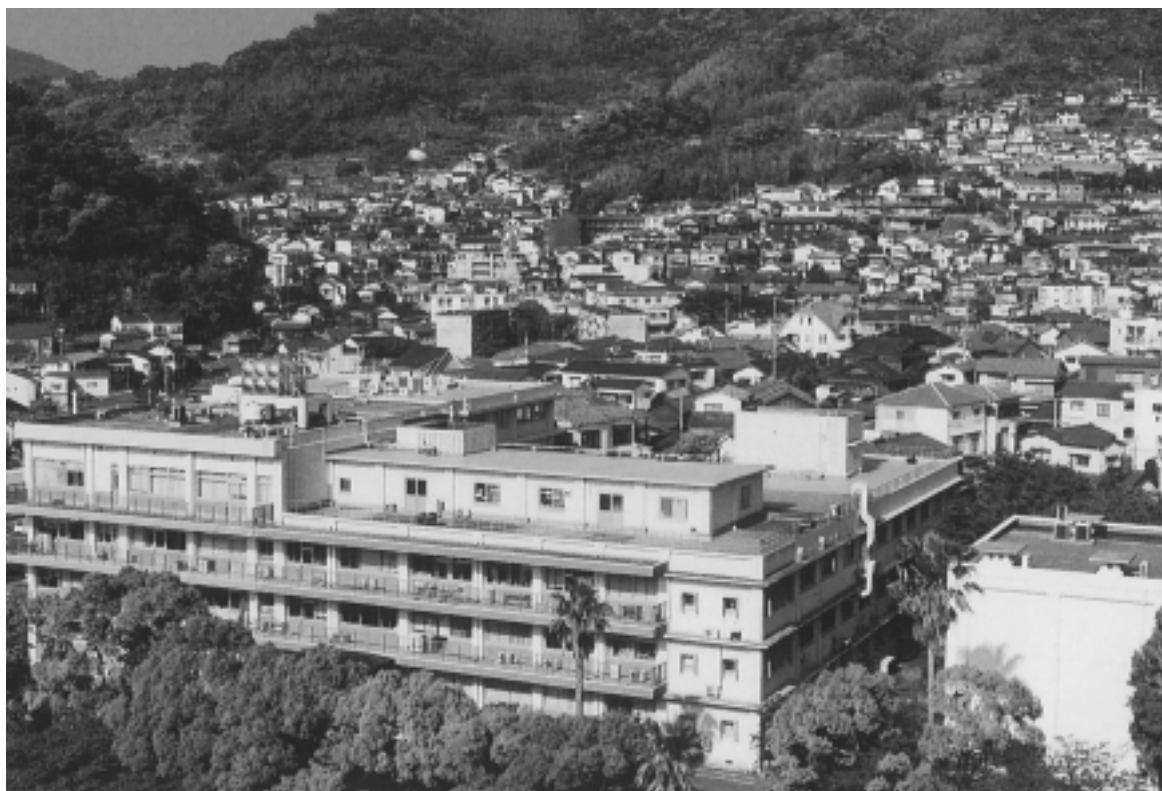
## 長崎大学熱帯医学研究所

### 総合目標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

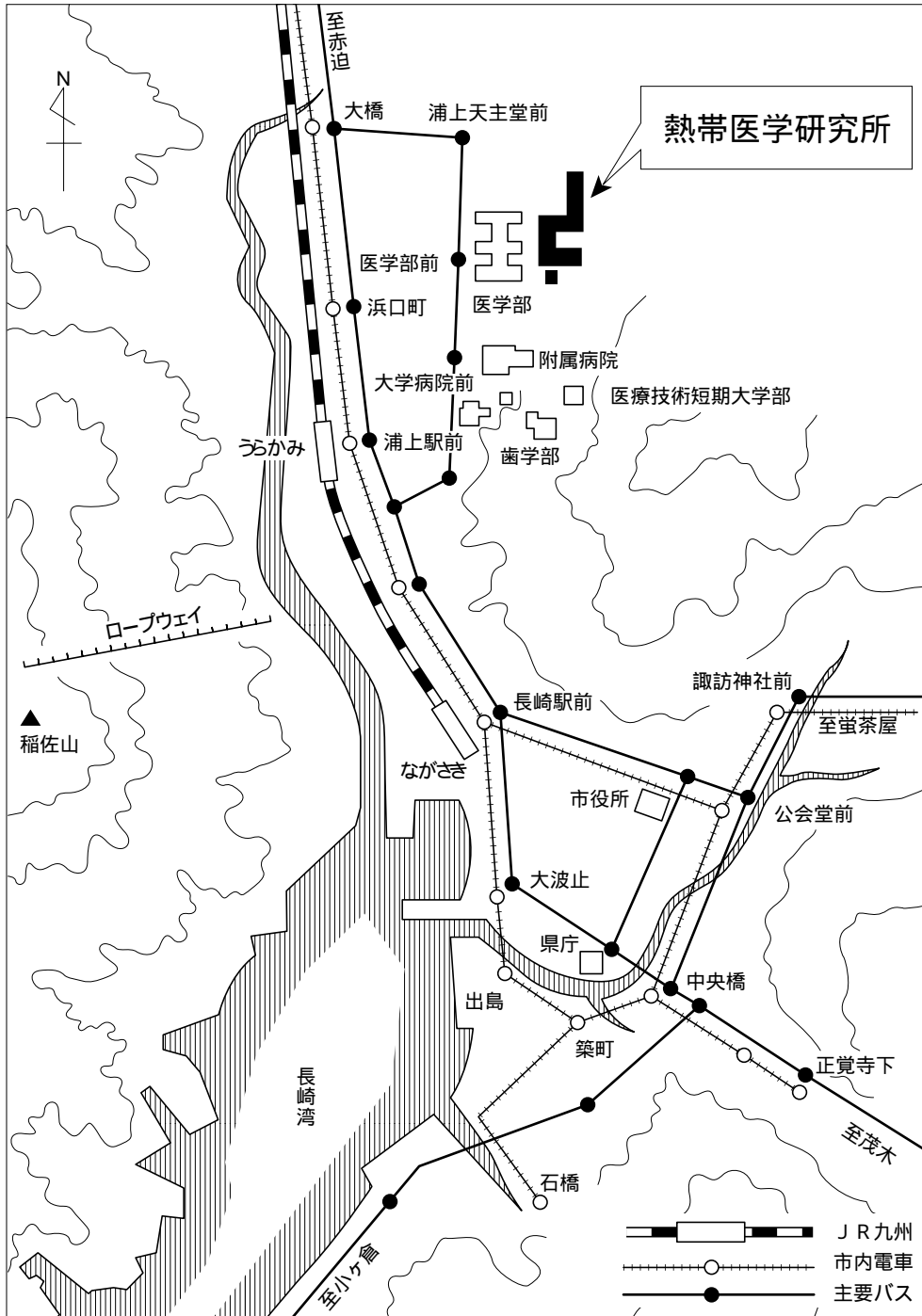
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

- 1．熱帯医学及び国際保健における先導的研究
- 2．研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
- 3．上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

# 長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4 (〒852-8523)  
 電話 095-849-7800 (総合案内)  
 敷地面積 3,305m<sup>2</sup>  
 建物面積 延8,354m<sup>2</sup>

新築年月 昭和36年(1961)3月  
 増築年月 昭和42年(1967)2月  
 増築年月 昭和55年(1980)3月  
 増築年月 昭和60年(1985)8月  
 増築年月 平成6年(1994)3月  
 増築年月 平成15年(2003)3月

# 序

長崎大学熱帯医学研究所は、昭和17年に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され、沿革に記載された経緯の後、昭和42年に「熱帯医学に関する学理および応用の研究」を設置目的とする長崎大学附置熱帯医学研究所となった。以後今日まで、日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活躍してきた。平成元年に医学系国立大学附置研究所として初の共同利用研究所に、平成6年度には大部門制に改組され、平成7年度には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越せる研究拠点（Center of Excellence = COE）に指定された。平成13年度には文部科学省による4大学の免疫・感染症研究の連携推進体制の整備の一環として熱帯感染症研究センターが独立し、現在の組織は3大部門（11研究分野、1客員分野、1外国人客員分野を含む）、1センター、1施設、1診療科からなる。

本誌の表紙をめくった頁に研究所の総合目標 - Mission Statement - が記されている。これは平成8年度に行われた外部評価の提言に基づき研究所が平成11年5月に策定したものである。研究所は総合目標を達成するために、種々の研究教育活動を行っている。

熱帯医学研究所は研究教育活動の大要を昭和44年以来、年度毎にまとめて要覧として発刊している。平成11年度までは、要覧の中で最も重要な項目である研究活動の項目は、各分野毎の研究活動として紹介されていた。しかし熱帯医学研究所の総合目標の中で最も重要な「熱帯医学及び国際保健における先導的研究」がどのように熱帯医学研究所で行われているのかを読者に理解して貰うには、古い編集方法は適切でないと判断し、この点を改善する為、平成12年度以後の要覧の編集においては、各研究分野で行われている研究活動を主たる熱帯病毎にまとめなおして、研究活動として報告している。

近年、熱帯医学研究所は文科省の支援により3つの大型研究プログラムを開始した。21世紀COEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」(平成15年)、ケニアおよびベトナムにおける「熱帯病・感染症研究拠点形成プログラム」である。これらの採択理由の一つに研究所の長年に亘る熱帯医学領域での実績があげられているので、これまでに研究所が発刊してきた要覧にも目を通していただきたい。

熱帯医学研究は熱帯病が流行する現場での研究と分野横断的・学際的研究で特長づけられる。研究所全体として、また各研究分野が総合目標を達成するためにどのような視点で、熱帯医学の研究に取り組んでいるかを、読者の方々がこの要覧をざらんになり理解していただければ幸いである。

平成17年12月5日

長崎大学熱帯医学研究所 所長 青木克己

# 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成16年度（2004）

## 目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1	沿革 .....	1
2	組織及び規模 .....	3
2.1	組織 .....	3
2.2	職員 .....	3
2.3	経費 .....	10
2.4	敷地と建物 .....	10
3	共同利用研究 .....	11
3.1	共同研究 .....	11
3.2	研究集会 .....	17
4	研究活動 .....	21
4.1	マラリア .....	21
4.2	住血吸虫症 .....	23
4.3	フィラリア症 .....	24
4.4	トリパノソーマ症 .....	24
4.5	寄生蠕虫症 - 腸管寄生原虫症 .....	26
4.6	デング熱および日本脳炎 .....	27
4.7	コレラに代表される細菌性下痢症 .....	28
4.8	呼吸器感染症 .....	29
4.9	その他世界的に問題になっている感染症 ~ エイズを含む.....	30
4.10	細胞からのアプローチ .....	32
4.11	社会および人間からのアプローチ .....	34
5	特別事業費による事業 .....	37
5.1	熱帯医学研修課程 .....	37
6	文部科学省科学研究費補助金等による研究 .....	40
6.1	文部科学省科学研究費補助金（平成16年度採択分） .....	40
6.2	文部科学省科学研究費補助金（平成17年度内定分） .....	42
6.3	受託研究費（平成16年度分） .....	44

7	海外活動 .....	45
8	外国人研究者の受け入れ .....	53
8.1	熱帯医学研究コース .....	53
8.2	平成16年度に受け入れた外国人研究者 .....	54
9	研究成果の発表状況 .....	57
9.1	研究業績 .....	57
9.2	学会発表演題 .....	69
9.3	国際会議における研究活動 .....	80
9.4	報告書等印刷物 .....	88
10	講演会 .....	90
10.1	熱帯医学研究所における所外講師による講演 .....	90
10.2	熱帯医学研究所教官による講演 .....	92
11	主要な研究設備 .....	98
12	刊行物 .....	99

# 1 沿 革

昭和17年 3月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和53年 4月	熱帯医学研修課程の新設
昭和20年 8月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和54年 4月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格
昭和21年 4月	長崎医科大学風土病研究所に改称	昭和55年 3月	本館の第二次増築竣工
昭和21年 5月	諫早市に移転し，研究活動再開	昭和58年 4月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設
昭和24年 5月	新制長崎大学に附置され，長崎大学附置風土病研究所に改称	昭和59年 4月	原虫学部門の増設
昭和32年 7月	諫早大水害により，施設，機器，研究資料等に壊滅的な被害	昭和60年 8月	本館の第三次増築竣工
昭和34年 3月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	昭和62年 4月	病害動物学部門の増設
昭和36年 3月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成元年 4月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和36年 4月	新庁舎に移転	平成 3年 4月	感染生化学部門の増設
昭和39年 4月	疫学部門の増設	平成 6年 3月	本館の第四次増築竣工
昭和40年 4月	寄生虫学部門の増設	平成 6年 4月	大部門制に改組（3大部門12研究分野）
昭和41年 4月	ウイルス学部門の増設	平成 7年 4月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和42年 2月	本館の第一次増築竣工	平成 8年 4月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和42年 6月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成 9年 4月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い，附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和42年 6月	熱帯医学研究所内科として，医学部附属病院に設置	平成13年 4月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い，附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和49年 4月	附属熱帯医学資料室設置	平成15年 3月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和49年 4月	病原細菌学部門の増設		
昭和53年 3月	感染動物隔離実験棟竣工		
昭和53年 4月	防疫部門（客員部門）の新設		

# 歴 代 所 長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角 尾	晋	自 昭和17年(1942) 5月4日 至 昭和20年(1945) 8月22日
古 屋 野	宏 平	自 昭和20年(1945) 12月22日 至 昭和23年(1948) 1月23日
高 瀬	清	自 昭和23年(1948) 1月24日 至 昭和23年(1948) 8月31日
登 倉	登	自 昭和23年(1948) 9月1日 至 昭和24年(1949) 5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登 倉	登	自 昭和24年(1949) 5月31日 至 昭和33年(1958) 8月31日
大 森	南 三 郎	自 昭和33年(1958) 9月1日 至 昭和38年(1963) 11月30日
福 見	秀 雄	自 昭和38年(1963) 12月1日 至 昭和42年(1967) 5月31日

(長崎大学熱帯医学研究所)

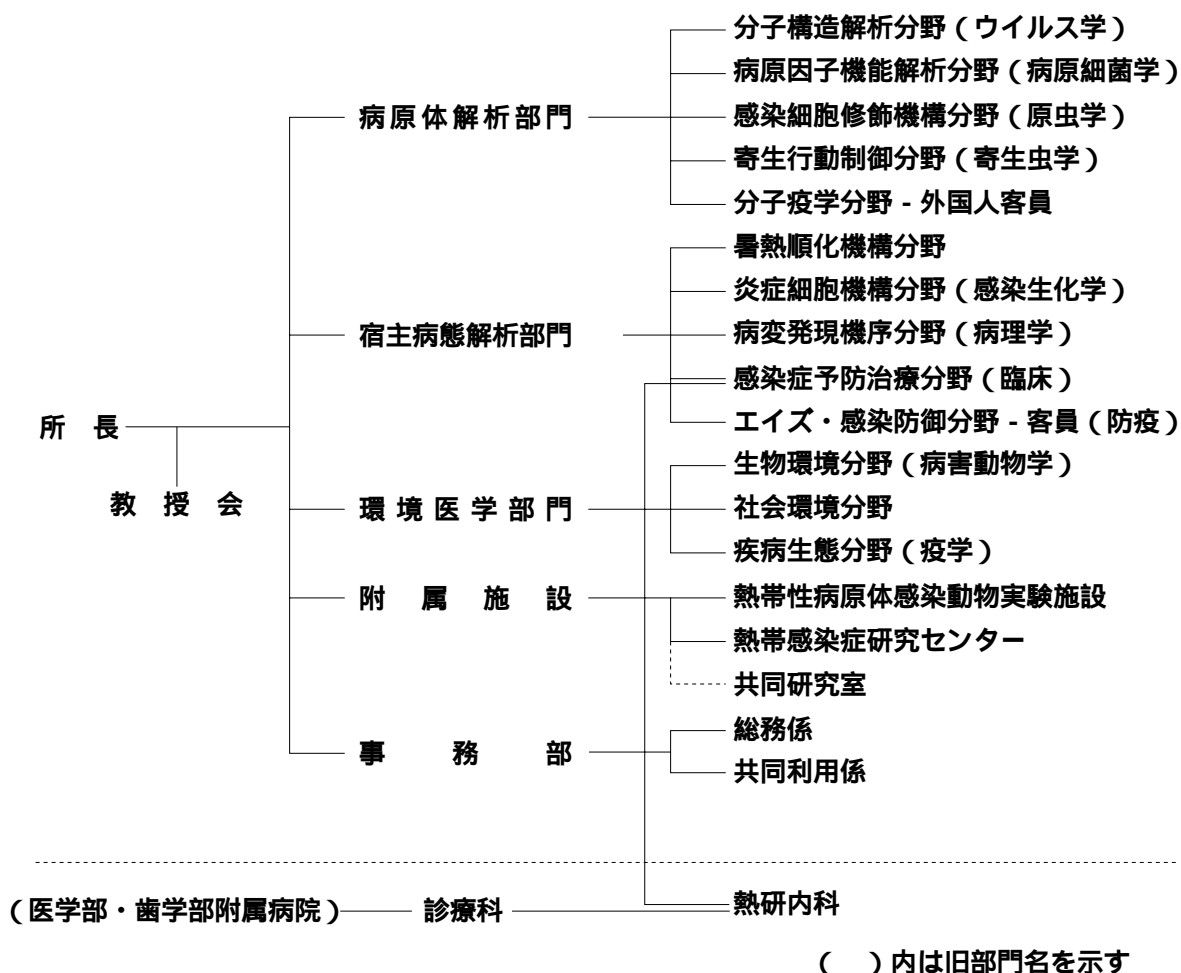
福 見	秀 雄	自 昭和42年(1967) 6月1日 至 昭和44年(1969) 11月30日
片 峰	大 助	自 昭和44年(1969) 12月1日 至 昭和48年(1973) 11月30日
林	薫	自 昭和48年(1973) 12月1日 至 昭和52年(1977) 11月30日
内 藤	達 郎	自 昭和52年(1977) 12月1日 至 昭和54年(1979) 11月30日
片 峰	大 助	自 昭和54年(1979) 12月1日 至 昭和56年(1981) 4月1日
松 本	慶 蔵	自 昭和56年(1981) 4月2日 至 平成3年(1991) 4月1日
板 倉	英 吉	自 平成3年(1991) 4月2日 至 平成5年(1993) 4月1日
小 坂	光 男	自 平成5年(1993) 4月2日 至 平成9年(1997) 4月1日
五 十 嵐	章	自 平成9年(1997) 4月2日 至 平成13年(2001) 3月31日
青 木	克 己	自 平成13年(2001) 4月1日 至 現 在



## 2 組織及び規模

### 2.1 組織

平成17年10月1日



### 2.2 職員

平成17年10月1日

#### 1) 定員内職員

区分	教 員					その他の職員	合計
	教授	助教授	講師	助手	計		
現員	13	4	4	18	39	8	47

#### 2) その他の職員

非常勤講師 32名 外国人研究員(客員教授) 3名 COE研究員 6名  
 COE技術員 1名 研究支援推進員 8名 研究機関研究員 1名  
 事務補佐員及び技能補佐員 29名







	大 学 院 生 大 学 院 生 J I C A 研 修 員			トウラン・ブ・フォン 前 川 芳 秀 イサク・ムワンギ・ケマニ
社 会 環 境 分 野	教 授 助 手 研究支援推進員 技 能 補 佐 員 ( 実 験 助 手 ) 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 J I C A 研 修 員	医 理 学 博 士 学 学 修 士 士		溝 田 勉 谷 村 晋 池 田 知 美 今 岡 奈 津 子 鈴 木 千 鶴 子 秦 亮 志 依 田 健 志 フ ラ テ イ ン
疾 病 生 態 分 野 ( 疫 学 )	教 授 助 教 授 助 手 C O E 研 究 員 C O E 研 究 員 技 能 補 佐 員 ( 実 験 助 手 ) 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 J I C A 研 修 員	医 工 医 農 医 学 学 博 士 学 学 博 士 学 学 博 士 学 学 博 士		平 山 謙 二 大 渡 伸 大 菊 池 三 穂 子 石 井 一 成 奥 田 尚 子 早 嶋 順 子 ドゥッダウ ソンタムワット 高 木 明 子 エクス ハド アデル ハーフィズ アドゥ グエン ティ フォン ラン 山 崎 朗 子 ソウ ウット モン
熱帯性病原体感染動物 実 験 施 設	施設長(命)教授 助 手 技 能 補 佐 員 ( 実 験 助 手 )	医 農 医 科 学 博 士 医 農 医 科 学 博 士 医 農 医 科 学 博 士		神 原 廣 二 柳 哲 雄 川 嶋 順 子
熱帯感染症研究センター	センター長(命)教授 教 授 教 ( 有 期 ) 授 教 ( 有 期 ) 授 助 教 授 講 ( 有 期 ) 師 助 手 技 能 補 佐 員 ( 研 究 支 援 推 進 員 )	医 保 理 医 農 医 工 体 医 学 学 博 士 健 学 学 博 士 理 学 学 博 士 理 学 学 博 士 理 学 学 博 士 工 体 医 学 博 士		嶋 田 雅 曉 門 司 和 彦 皆 川 昇 聰 金 子 久 本 田 純 久 竹 中 伸 一 金 田 英 子 崎 谷 恭 子

	技能補佐員 (研究支援推進員)		荒須	木田	一清	生美
	技能補佐員 (実験助手)		駒	澤	暁	子
	事務補佐員		木	須	友	子
	大学院生		浜	田	芳	樹
	大学院生		大	野	晃	生
	大学院生		中	尾	優	子
	大学院生		中	村	禎	子
	大学院生		蔡		国	喜
	大学院生		阿	部	朋	子
	大学院生		中	尾	理	恵子
	大学院生		マガフ	ムガイワ	ダマス	
	大学院生		駒	沢	大	佐
	大学院生		野	村	亜	由美
	研究生		錦	織	信	幸
共同研究室	室長(命)教授	医学士・医学博士	平	山	謙	二
	助手(命)		一ノ	瀬	昭	豊
	技能補佐員 (研究支援推進員)		堀	江	仁	美
非常勤講師	大分大学・教授	医学博士	牧	野	芳	大
	埼玉医科大学・講師	医学博士	名	和		優
	琉球大学・教授	医学博士	森		直	樹
	大阪大学微生物病研究所・教授	医学博士	本	田	武	司
	国立感染症研究所・副所長	医学博士	渡	邊	治	雄
	京都大学大学院医学研究科・教授	医学博士	光	山	正	雄
	長崎大学医歯薬学総合研究科・教授	医学博士	河	野		茂
	おおり医院・院長	医学博士	大	野	利	昌
	三和中央病院・部長	医学博士	坂	本		信
	長崎大学医歯薬学総合研究科・教授	医学博士	由	井	克	之
	清原龍内科・院長	医学博士	藤	卷	康	教
	(株)エフエクター細胞研究所・所長	医学博士	清	原	龍	夫
	同上・研究員 兼 東大 特任助手	医学博士	金	ヶ	崎	朗
	大阪大学微生物病研究所・教授	医学博士	山	内		明
	藤田保健衛生大学・助手	医学博士	塩	田	達	雄
	国立感染症研究所・室長	医学博士	守	口	匡	子
		農学	津	田	良	夫

	国立感染症研究所・室長	農	学	士	澤	邊	京	子
	楽得病院・部長	農	学	士	楽	得	康	之
	長崎大学生産科学研究科・教授	医	学	士	後	藤	惠	輔
	東京医科歯科大学難治疾患研究所・教授	医	学	士	木	村	彰	方
	琉球大学遺伝子実験センター・助教授	医	学	士	新	川		武
	国立国際医療センター研究所・教授	医	学	士	狩	野	繁	之
	群馬大学大学院・助教授	医	学	士	中	野		港
	筑波大学医学部・教授	医	学	士	我	妻	ゆき	子
	京都大学生態学研究センター・助教授	理	学	士	山	内		淳
	長崎県西彼保健所・所長	医	学	士	一	瀬	休	生
	外務省経済協力局開発計画課・課長補佐	医	学	士	山	本	太	郎
		農	学	士	鈴	木		博
	結核予防会結核研究所・主任研究員	医	学	士	野	内	英	樹
	チュービンゲン大学医学部	医	学	士	西	浦		博
	英国ケンブリッジ大学・教授	理	学	士	CGN	Mascie-Taylor		
事	事務部長	事	務	員	牧	山	謹	一
務	総務係長	事	務	員	原	田		司
部	総務主任	事	務	員	山	村	直	幹
	総務係員	事	務	員	野	田	亜	美
	総務係員	事	務	員	金	井		祐
	総務係員	事	務	員	末	永	純	子
	総務係員	事	務	員	松	尾	明日	香
	総務係員	事	務	員	竹	之	智	子
	総務係員	事	務	員	平	野	ま	り
	総務係員	事	務	員	内	田	悦	世
	総務係員	事	務	員	赤	木	真	美
	総務係員	事	務	員	清	水	久	美
	共同利用係長	事	務	員	坂	中	保	夫
	共同利用主任	事	務	員	橋	口	文	子
	共同利用係員	事	務	員	松	本	由	美

## 2.3 経費

### 年度別歳出決算額（平成7 - 平成16年度）

年度	区分	人件費	物件費	合計
平成7年		414,972,193 円	566,076,492 円	981,048,685 円
" 8年		423,863,566	406,226,075	830,089,641
" 9年		431,756,359	294,963,427	726,719,786
" 10年		473,414,781	412,687,773	886,102,554
" 11年		471,498,613	307,109,233	778,607,846
" 12年		450,088,155	307,804,552	757,892,707
" 13年		448,975,931	443,188,323	892,164,254
" 14年		436,287,495	446,435,378	882,722,873
" 15年		436,856,514	329,800,442	766,656,956
" 16年		566,026,173	352,687,470	918,713,643

## 2.4 敷地と建物

敷地 長崎市坂本1丁目12-4 長崎大学医学部構内 3,305m<sup>2</sup>

### 建物

建物名称	構造	建面積m <sup>2</sup>	延面積m <sup>2</sup>	所在地	備考
本館	鉄筋コンクリート 3階, 1部4階建	1,710	6,135	坂本1丁目 12-4	昭36.3 建築 " 42.2 増築 " 55.3 " " 60.8 " 平6.3 "
熱帯性病原体集中研究 管理棟	鉄筋コンクリート 4階建	329	1,328	"	平15.3 建築
熱帯性病原体感染動物 実験施設	鉄筋コンクリート 3階建	190	490	"	" 53.3 新築 " 63.3 増築
薬品庫	ブロック建	20	20	"	" 47.3 新築
保管庫	プレハブハウス	133	133	"	平16.3 改築
計		2,382	8,106		



## 3 共同利用研究

### 3.1 共同研究( は研究代表者)

#### 1. 日本脳炎ウイルス・デングウイルスのレセプターの同定

(ウイルス結合性糖鎖誘導体によるウイルス感染阻害効果の検討)

長崎大・熱研 森田 公一, 長谷部 太, A. Islam, E. G. Mathenge  
静岡県立大・薬 鈴木 康夫, 左 一八

#### 2. SARS ウイルスの診断、予防、治療の研究

長崎大・熱研 森田 公一, 井上 真吾, 余 福勲  
国立感染研・ウイルス1部 森川 茂

#### 3. フラビウイルス RNA 合成機構

国立感染研 清水 博之, 高崎 智彦  
長崎大・熱研 森田 公一, 長谷部 太, 井上 真吾, Yu Fuxun  
大分大・医 牧野 芳大, 馬 紹平

#### 4. ヘリコバクター・ピロリの病原性に関する研究

長崎大・熱研 平山 壽哉, 和田 昭裕  
千葉大・医 野田 公俊, 八尋錦之助  
岡山大・医 倉園 久生, 木村 美幸  
九州大・工 新留 琢郎  
長崎大・医歯薬 河野 茂  
大阪府立大・農 山崎 伸二

#### 5. 住血原虫症の宿主適応と疫学

長崎大・熱研 神原 廣二, 上村 春樹, 中澤 秀介, 柳 哲雄  
久留米大・医 福間 利英, 井上 雅広, 原 樹  
徳島大・総合科学 大橋 眞  
藤田保健衛生大・医 前野 芳正  
愛媛大・無細胞センター 坪井 敬文

## 6 . 消化管寄生原虫の疫学

長崎大・熱研	神原 廣二, 上村 春樹, 中澤 秀介, 柳 哲雄
神戸大・医	宇賀 昭二
金沢大・大学院医	井関 基弘, 所 正治
奈良女子大・理	吉川 尚男
東海大・医	橘 裕司
大阪市大・大学院医	寺本 勲
琉球大・医	岩永 正明

## 7 . 開発途上国における土壌伝播寄生虫の伝播疫学

神戸大・医	宇賀 昭二
長崎大・熱研	青木 克己, 藤巻 康教
徳島大・医	太田 房雄
愛知医大	木村 英作

## 8 . ビルハルツ住血吸虫症の病態像：これまで注目されなかった病変

長崎大・熱研	青木 克己, 渡部 幹次, 藤巻 康教, 嶋田 雅暁, 門司 和彦
長崎大・医歯薬	金武 洋, 野俣浩一郎, 野口 満
鹿児島大・多島研	野田 伸一
一橋大・社	浜本 満

## 9 . 新奇 GT ミスマッチ結合タンパク質の解析

長崎大・熱研	中村三千男
長崎大・医歯薬	伊藤 敬, 岡市 協生

## 10 . 重症神経系ウイルス感染症の発症機序の解明と予防法の確立

長崎大・熱研	岩崎 琢也, 吾郷 昌信
札幌医科大・医	横田 伸一, 岡林 環樹
筑波大・人間総合科学研	竹内 薫, 門田 伸一
東京大・医	野本 明男, 吉河 智樹
岐阜大・獣医	源 宣之, 山田健太郎, 武藤 淳二, 清水 健太
岡山大・医	荒尾雄二郎, 木村 美幸

九州大・医	柳 雄介, 皆川 洋子, 竹田 誠, 大野 真治, 関 文緒
国立感染研・ウイルス3部	加藤 篤, 久保田 耐, 板村 繁之
国立感染研・感染病理部	永田 典代
国立感染研・寄生動物部	遠藤 卓郎
東京都神経科学総合研	小池 智
東京都臨床科学総合研	藤田 尚志, 米山 光俊
国立・仙台医療センター	西村 秀一
長野赤十字病院	羽田 悟

#### 11. 薬物などによる重症肝障害の臨床病理学的研究

長崎大・熱研	鳥山 寛, 千馬 正敬
長崎大・医歯病	濱崎 圭輔
長崎大・保健管理センター	中尾 一彦

#### 12. 微生物感染における自然・獲得免疫機構に関する研究

長崎大・熱研	大石 和徳, 平山 壽哉
東京大・医	松島 綱治
京都大・医	河村伊久雄
東邦大・医	松本 哲哉
東北大・加齢医学研	菊地 利明

#### 13. C×CR4 標的化遺伝子治療用レトロウイルスベクターの開発

長崎大・熱研	久保 嘉直
理化学研	天沼 宏

#### 14. 蚊媒介性感染症の分布域拡大はあるか

国立感染研	津田 良夫, 澤辺 京子
長崎大・熱研	高木 正洋, 川田 均, 都野 展子
琉球大・医	當間 孝子

#### 15. 現場を想定した疾病媒介蚊防除技術、効果判定、モニタリングの再検討

長崎大・熱研	高木 正洋, 川田 均, 都野 展子
--------	--------------------

名古屋女子大・短	杉山 章
国立感染研・昆虫医科学部	津田 良夫
住友化学工業(株)	庄野 美德，久保田俊一

#### 16. 開発途上国における保健・医療環境の社会的基盤の研究

長崎大・熱研	溝田 勉，古川 孝明，秦 亮
九州大	信友 浩一
明治大	新美 育文
東北大	上原 鳴夫
早稲田大	和田 仁孝
国立保健医療科学院	長谷川敏彦
長寿科学新興財団	小林 秀資
長崎純心大	鈴木千鶴子
東南大(中国)	夏 芸
東京大	井上まり子

#### 17. 熱帯性疾患の対策・予防と社会環境要因の診断

長崎大・熱研	溝田 勉，谷村 晋
大阪国際大	山本 勇次
神戸大・国際協力センター	川端 真人
医療法人永敏会楽得内科	楽得 康之
浜松医科大	佐藤 弘明
神戸大・発達科学部	藤田 大輔
国立国際医療センター	狩野 繁之

#### 18. 熱帯病に対するヒト感受性抵抗性遺伝子解析

長崎大・熱研	平山 謙二，中澤 秀介，菊池三穂子
長崎大・医歯薬	河野 茂
国立国際医療センター	狩野 繁之
独協医科大・医	松田 肇，千種 雄一，加藤 尚子，関澤 麻友
国立成育医療センター	中村 秀文
順天堂大・医	奈良 武司
新潟大・医	佐藤 博

名古屋市立大・医	太田 伸生
愛知医科大・医	木村 英作
滋賀医科大	松井 健志
兵庫医科大・医	中西 憲司
愛媛大・無細胞センター	坪井 敬文
徳島大医・臨床試験センター	楊河 宏章
産業医科大・医	金澤 保
琉球大・遺伝子実験センター	新川 武, 竹村 保範

#### 19. 紫外線 (UV-B) 照射と生体免疫能の関連

長崎大・熱研	大渡 伸, 藤巻 康教, 熊取 厚志, 鳥山 寛,
	金田 英子
長崎大・医歯薬	奥村 寛

#### 20. 熱帯病の数学モデルの構築と予防制圧への応用

長崎大・熱研	嶋田 雅暁, 門司 和彦, 浜田 芳樹
ロンドン大・インペリアルカレッジ	西浦 博
東京大・数理	稲葉 寿
東京大・医	竹内 昌平
国立感染研	大日 康史
群馬大・医	中澤 港
理化学研	増田 直紀
産業技術総合研	加茂 将史

#### 21. 熱帯地での地域プロスペクティブ研究

長崎大・熱研	門司 和彦, 金田 英子, 嶋田 雅暁, 鈴木 博
ケンブリッジ大	後藤 利江
ロンドン大	錦織 信幸
国際下痢症研究所	我妻ゆき子
山形市立病院	駒澤 大佐
昭和大	正木 基文

## 22 . アジア・オセアニアの人口・健康・栄養転換の統合的研究

東京医科歯科大	梅崎 昌裕
長崎大・熱研	門司 和彦, 嶋田 雅暁, 安高 雄治
佐賀大	稲岡 司
東京大	山内 太郎, 夏原 和美
新潟医療福祉大	村山 伸子

## 3.2 研究集会

### 1. 生体における酸素の功罪

開催日：平成16年7月8日～平成16年7月9日

場 所：長崎大学医学部 ポンペ会館

代表者：炎症細胞機構分野 中村 三千男

発表者：(1)。「ミトコンドリアにおける酸素」

九州大学大学院

助教授 康 東 天

(2)。「DNA と酸素」

京都大学大学院

教 授 米井 脩治

(3)。「活性酸素と疾患」

大阪市立大学

教 授 井上 正康

(4)。「植物における酸素」

名古屋大学大学院

助教授 吉岡 博文

(5)。「動物における NOX ファミリーの役割」

九州大学

教 授 住本 英樹

### 2. 感染症制圧をめざしたベンチャービジネス

開催日：平成16年7月8日～平成16年7月9日

場 所：長崎大学医学部 ポンペ会館

代表者：炎症細胞機構分野 中村 三千男

発表者：(1)。「あらためて物理的バリアーを考える」

現：応用医学研究所取締役，京都大学名誉教授

桂 義元

(2)。「独創性とベンチャービジネス」

エフェクター細胞研究所取締役，東京大学名誉教授

金ヶ崎士朗

### 3. 熱帯感染症の病態形成

開催日：平成16年12月17日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：感染症予防治療分野 大石 和徳

発表者：(1)。「マラリアの病態形成」

長崎大学熱帯医学研究所 感染細胞修飾機構

神原 廣二

- (2) .「マラリアの病態形成 - 熱帯熱マラリアの原虫感染赤血球の細胞接着に関する研究」

国立国際医療センター研究所 適正技術開発移転研究部

狩野 繁之

- (3) .「レコンビナント SERA によるマラリアワクチン開発」

大阪大学微生物病研究所 分子原虫学分野

堀井 俊宏

- (4) .「メフロキンによるマラリア予防内服に関するアンケート調査」

東京大学医科学研究所 感染免疫内科

中村 哲也

- (5) .「血小板減少と PAIgG 値が病勢に一致して変動を認めた三日熱マラリアの三症例」

長崎大学熱帯医学研究所 感染症予防治療

石田 正之

- (6) .「デングウイルス感染症の病態形成」

長崎大学熱帯医学研究所 感染症予防治療

大石 和徳

- (7) .「デングウイルス感染症により誘導される肝細胞アポトーシスの分子生物学的機序」

琉球大学大学院医学研究科病原生物学分野

森 直樹

#### 4 . 開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応

開催日：平成16年 8月26日～平成16年 8月28日

場 所：長崎大学医学部 ポンペ会館 ほか

代表者：社会環境分野 溝田 勉

発表者：(1) .「基調講演 開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」

(財)AIDS 予防財団

島尾 忠男

- (2) .「Mitigation of HIV/AIDS in the workplace:a strategy to deal with HIV/AIDS in Nigeria」

長崎大学熱帯医学研究所 JICA 研修員・ナイジェリア

Idowu Dele Araoyinbo



- (3) . 「Measures of Combating against HIV/AIDS in Mainland China」  
 長崎大学熱帯医学研究所 大学院生  
 Liang Qin
- (4) . 「HIV/AIDS in Fiji」  
 長崎大学熱帯医学研究所 JICA 研修員・フィジー  
 Mike Nacovunnisaqa
- (5) . 「タイ王国におけるエイズ対策の現状と課題」  
 女子栄養大学大学院 佐久間 充
- (6) . 「ザンビア国におけるエイズ流行と ART の現状ならびに我が国の対応」  
 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究所  
 山本 直樹
- (7) . 「リプロダクティブ・ヘルスと HIV/AIDS」  
 国連人口基金・UNFPA 池上 清子
- (8) . 「先進国と途上国におけるエイズ診療のギャップ」  
 長崎大学熱帯医学研究所 大石 和徳
- (9) . 「グローバル化と新興感染症」  
 早稲田大学大学院 西川 潤
- (10) . 「Epidemiology and Natural History of HIV/AIDS in USA」  
 長崎大学熱帯医学研究所 大学院生  
 依田 健志
- (11) . 「AIDS 患者の地理的分布とその地域要因に関する検討 - ホンジュラス共和国の事例から」  
 長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野  
 谷村 晋
- (12) . 「HIV/AIDS と医療経済」  
 長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野  
 古川 孝明
- (13) . 「日本の HIV/AIDS の現状と課題」  
 (財)AIDS 予防財団 橋本 幹雄
- (14) . 「エイズと結核に関する Multidisciplinary Field Research - タイ国最北端チェンライ県での国際共同研究の10年」  
 結核予防会結核研究所 野内 英樹
- (15) . 「JICA 技術協力を通じた HIV/AIDS 対策の現状とこれから」

- JICA 国際協力総合研究所 高橋 央
- (16) .「学校におけるエイズ教育」  
文部科学省 岩崎 容子
- (17) .「日本のエイズの現状と対策」  
厚生労働省健康局 高岡 志帆
- (18) .「長崎県における HIV/AIDS および性感染症の現状と対策」  
長崎県福祉保健部 大塚 俊弘
- (19) . サテライト研究会
- 1 .〔一般公開〕山本勇次グループ  
(山本・溝田・佐久間・楽得・石崎・依田・秦)  
「熱帯性疾患の対策・予防と社会環境要因」
- 2 .〔一般公開〕信友浩一グループ  
(信友・新美・和田・夏芸・古川)  
「途上国における保健・医療環境の社会的基盤の研究」
- 3 .〔研究班班員のみ〕山本秀樹グループ  
(山本・鈴木・高橋・谷村)  
「我が国の国際協力を担う国内の人材育成および供給強化並びに  
キャリアパス拡充のために医学教育が果たすべき役割の研究」

## 4 研究活動

### 4.1 マラリア

マラリアはハマダラ蚊が病原体であるマラリア原虫を媒介する蚊媒介性疾患である。視点を変えると「土着の慢性感染症」と言える。「土着」は自然環境と人々の暮らしぶりを背景にこの疾患が成立することを意味する。「慢性感染症」の部分は自然の状態では病原体と宿主の両者がともに生存するために人類とマラリア原虫が折り合いをつけた状態を意味する。幾度か感染発症を繰り返して防御が成立する。一方、防御が成立してもマラリア原虫はすぐには宿主体内から根絶されない上に、発症はしないが新たな感染を繰り返すこともある。人類は全員がヒトマラリアや一部のサルマラリアに対して感受性を有すると推測される。防御の成立していない個体は発症して、しばしば重篤な状態に陥ることがある。これらの記述中に、マラリアの学問上の興味やコントロール上の課題がある。マラリア原虫は宿主内で半数体として栄養生殖を繰り返すステージの一部が有生殖世代に分化し、蚊の体内で受精し2倍体となり、減数分裂をして再度半数体となって、蚊が吸血した時にこの半数体が宿主に侵入する。有性、無性生殖に分化する機序、増殖の際に宿主の攻撃を逃れるマラリア原虫の生存戦略が学問的に興味深い。他方、マラリアコントロールの成功は主にベクターコントロールに負う。

そこで、生物環境分野では新規開発忌避剤メトフルスリンを紙に染まして掛け、蚊に対する忌避効果を研究室では *An. balabacensis*、野外では数種のハマダラ蚊とアカイエ蚊を用いて調べた<sup>4639</sup>。ついで、その効果を壁のない建家の中で調べた<sup>4642</sup>。メトフルスリンは常温で気化し、忌避効果を示す結果が得られた。媒介蚊が吸血源を探し吸血する行動のフィールド研究はヒトないし動物、トラップに止まったところを観察採集することが合理的である。過大な労力と時間を要し、時に感染の危険があるため、自動化することが期待されて来た。蚊がその上方を飛翔通過すると通過した蚊の数をカウントするセンサーを用いて自動記録系を構築し、CO<sub>2</sub>ガスを誘引物質に用いて、熱、明るさ、背景の色に対する反応を実験室で飼育している蚊と野外採集蚊について記録した。自動記録系が蚊の行動の研究に有用であることが示された<sup>4640</sup>。*An. minimus* はこれまで A と C の sibling species が認められていた。別に E と暫定的に鑑別されていた sibling species について、rDNA の配列を調べるだけでは C が地理的に隔離されて E となったという可能性が否定できないので、E と C との異同を交雑試験や戻し交配時の出生数、性比、染色体の形態、精子の生産率によって確認した<sup>4643</sup>。蚊の数の変化がマラリア伝播の消長の大きな要素となるか確認するために、23年間に亘って蓄積されたハマダラ蚊採集のデータを解析した。主要3種、*An. minimus* s.l., *An. dirus* s.l. と *An. macu-*

\* 文中の4桁の上付数字は長崎大学熱帯医学研究所「業績番号」を示す。(参照 p 57)

*latus* complex についてサンプリングの時期を1977 - 1989と1990 - 1999の2期にわけ、各期に対して雨期乾期それぞれの家屋内ヒト罔、家屋外ヒト罔、家畜罔をもちいて蚊の採集数を比較した。各種において期別、季節別、採集方法によって有意な増加がみとめられた<sup>4637</sup>。

感染細胞修飾機構分野では、薬剤耐性熱帯熱マラリア原虫の研究が行われた。ペルーで患者から分離後、培養系で樹立した分離株を用いて耐性試験を行い、耐性試験の結果とクロロキン耐性遺伝子、多剤耐性遺伝子の検討がなされた<sup>4582</sup>。耐性試験ではクロロキン耐性、キニーネ軽度耐性、メフロキン感受性であり、遺伝子の解析によりクロロキン耐性にはクロロキン耐性遺伝子の関与が明らかであり、クロロキン耐性遺伝子の塩基配列の72番目から76番目には2種類の配列が認められた。インドネシア、ロンボク島で採取された熱帯熱マラリア原虫48例について薬剤体制マーカーを調べた結果、多剤耐性を示唆する点突然変異が18例、クロロキン耐性を示唆する変異が47例について認められた。クロロキン耐性を示唆する変異はパプアニューギニア型が主であった<sup>4584</sup>。抗原性を有する、すなわち、ワクチンの候補となりうるマラリア原虫が生産するタンパク質はアミノ酸配列が異なる多型を有する。伝播阻止ワクチン候補においても同様である。このため、ワクチンとしてどのようなアミノ酸配列を選択するか重要な課題である。患者から分離される原虫のワクチン候補の抗原がどのタイプか決定する必要がある。三日熱伝播阻止ワクチンの候補、Pvs25、Pvs28に対して遺伝子の迅速タイピング法を確立した<sup>4583</sup>。さらに、タイ人患者から採取した原虫の SSUrRNA 遺伝子の塩基配列を調べ、猿マラリアの *Plasmodium knowlesi* がタイでも自然界でヒトに感染することを示した<sup>4585</sup>。

疾病生態部門では、中近東・アフリカで罹患しやすい寄生虫症の解説を日本語で行った<sup>4658</sup>。

抗癌効果を発揮する DNA ワクチンの効果をマウスメラノーマと B6 マウスを用いて確かめた。免疫系を活性化するメラノーマ細胞の抗原が多数報告されているがその中で TRP-2 がヒトでもマウスでもエピトープとして T 細胞を活性化することが判っている。ところが免疫トレランスが生じる。そこで、TRP-2 をコードする DNA の末端に GFP をコードする DNA を結合して免疫したところ、TRP-2 単独、TRP-2 と GFP を結合しないで免疫した場合に比較して抗癌効果が高いことが、in vivo ではワクチン投与後にメラノーマ細胞をチャレンジしてそのサイズを比較すること、in vitro ではワクチン投与後の脾臓細胞の標的細胞に対する細胞毒性を比較することによって明らかにした。免疫マウスでは抗 GFP 抗体が産生されていること、免疫後に CD4 細胞、CD8 細胞に対する抗体を投与してこれらの細胞を除去すると抗癌効果も低下することを示した。GFP ないし GFP-TRP-2 を遺伝子導入した COS-7 細胞にプロテアソームの機能を障害する MG-132 を加えて GFP の蓄積を示した。TRP-2 を切り離すユビキチン - プロテアソーム活性が欠失したマウスに B6 マウスと同様に免疫をして in vivo, in vitro の抗癌効果が低いこと、B6 マウスに比べ転移が多いこと、抗 GFP 抗体の産生

量は B6 と代わらないことを示した。以上の結果は CTL エピト - プに別のタンパクを結合させると制癌効果を高めるところができることを示している<sup>4653</sup>。

(文責：中澤秀介)

## 4 . 2 住血吸虫症

住血吸虫症はマラリアに次ぐ代表的な熱帯寄生虫病のひとつである。熱帯，温帯に棲息する特定の淡水貝（伝播貝，中間宿主）から水中に放出されたセルカリアが経皮的に人体に侵入して感染が成立するため，安全な水の供給が得られず，川，池，湖などの水を使わざるを得ない特に熱帯地の途上国農村部住民の風土病として知られる。伝播貝が存在し得る特有の風土と貧困なインフラストラクチャーが主な原因とされる蠕虫感染症である。推定患者数は約 2 億人，感染の危険に曝されているものは 5 億人にのぼる。

日本住血吸虫症，マンソン住血吸虫症，ビルハルツ住血吸虫症が世界の 3 種の主要な住血吸虫症として知られている。日本住血吸虫症とマンソン住血吸虫症は糞便中に虫卵が排泄され主要な病変は肝硬変，ビルハルツ住血吸虫症は尿中に虫卵が排泄され主要な症状として血尿が知られており，膀胱癌の原因ともなる。

熱帯医学研究所も基礎研究から対策研究まで幅広い研究を行っている。平成 16 年度に発表された業績の概要を記す。

Watanabe らは日本住血吸虫（症）の動物モデルとしてのミニブタの有用性をはじめて報告した<sup>4590</sup>。ミニブタは感染 5 週で糞便に虫卵が検出され，8 - 20 週で EPG は最高値を示す。剖検により各内臓器官に虫卵結節が観察された。

住血吸虫感染は Th 2 の免疫応答を誘導する。Watanabe らはグレーブス病の発症機序研究に用いられるマウスモデルに住血吸虫を感染させると Th 2 が誘導され，マウスの Th 1 type anti TSHR 免疫反応が抑制され，グレーブス病の発症を抑えられることを報告した<sup>4592</sup>。

アジアの研究者から報告された寄生虫の論文の中には，国際誌に発表されなかったために，世界の注目をあびない論文が多くある。これらの論文を世界に紹介するために，論文の要旨をまとめた Asian Parasitology（全 6 巻）が千葉大学の矢野明彦教授により編集・発刊された。Hirayama は Vol 5 Schistosomiasis in Asia を編集した<sup>4659</sup>。

また Hirayama は住血吸虫感染に伴う肝硬変の免疫学的研究のレビューを発表した<sup>4652</sup>。

(文責：青木克己)

### 4.3 フィラリア症

フィラリア症はリンパ系に寄生するバンクロフト系状虫とマレー系状虫の感染によっておこる重篤な疾患である。主として開発途上国に流行し(76ヶ国),感染者の数は8千万人,感染の危険にさらされている人は7億人と推定されている。近年 WHO により集団治療による撲滅対策(Elimination of Filariasis)が世界各地で推奨され,実施されているので,近い将来,フィラリア症は公衆衛生上の問題はなくなると期待されている。

しかし,発症機序の解明,抗成虫薬の開発など未解決の研究課題は多い。

熱帯医学研究所は主として疫学と対策につながる基礎研究と応用研究を行っている。

平成16年度に発表された業績の概要を記す。Kawadaらはバンクロフト系状虫の媒介蚊 *Culex quinquefasciatus* と *Culex pipiens pallens* に対する pyrethroid 系の合成殺虫剤 metofluthrin のすぐれた殺虫効果を報告した<sup>4641</sup>。metofluthrin は常温で気化し効力を発揮するので実用性が高く,他の pyrethroid 系の殺虫剤より LD<sub>50</sub>が低い。

Fujimakiらはスナネズミを用いて Diethylcarbamazine (DEC) が抗 *Brugia pahangi* 成虫作用を有すことを明らかにした<sup>4589</sup>。DEC の殺成虫効果は投与後8週以後にあらわれる。これまで DEC の抗成虫効果が動物実験で明らかにされなかった理由は,用いた DEC の効果測定法が適切でなかったためであろう。

アジアの研究者から報告された寄生虫の論文の中には,国際誌に発表されなかったために世界の注目をあびていない論文が多くある。これらの論文を世界に紹介するために,論文の要旨をまとめた Asian Parasitology (全6巻)が千葉大学の矢野明彦教授により編集・発刊された。Aokiらは Vol 3 Filariasis in Asia and Western Pacific Islands の Basic studies on Filaria and Filariasis のレビューを担当した<sup>4591</sup>。(文責:青木克己)

### 4.4 トリパノソーマ症

血液・組織寄生鞭毛虫のトリパノソーマ科 (Family Trypanosomatidae) 原虫は,トリパノソーマ属 (Genus *Trypanosoma*) とリーシュマニア属 (Genus *Leishmania*) に分類され,アメリカトリパノソーマ症(シャーガス病),アフリカトリパノソーマ症(睡眠病),リーシュマニア症の病原体である。

シャーガス病は,メキシコからチリ,アルゼンチンまで,広くアメリカ大陸に分布し,地域によって病態や原虫種に違いがあることが報告されており,心筋障害や消化管自律神経叢障害による合併症など多様な病態を示す<sup>4656</sup>。従来から九州大学と熱帯医学研究所のグループ

では、病原原虫 *Trypanosoma cruzi* の多様性解析を行っているが、今回さらにサンプル数を146と増やしたアイソザイム解析について報告している<sup>4651</sup>。18領域を解析して系統樹を作成し、全体として44の異なる原虫株が認められることを示した。それらは単離された地域を基準に大きく二つのグループ(*T. cruzi* I と *T. cruzi* II) に分類出来ること、後者はさらにサブグループに分類出来るという従来の主張を指示する結果であった。また、ポリビア、グアテマラの小さい村で両方のグループの原虫を検出しており、*T. cruzi* では遺伝子交換が非常にまれであることを示唆していると述べている。

疾病生態分野平山謙二教授は、寄生虫病の現状を紹介するシリーズの一つとして、中南米に分布するシャーガス病について解説している<sup>4656</sup>。その中で、自らのこの寄生虫病との出会いとコントロール活動の経験を交えて、病原体であるクルーズトリパノソーマへの感染から慢性期における心臓や消化管への障害の概説、有効な治療薬の無い現状、WHO と各国政府による対策の現状と問題点を説明し、感染の実態の把握、病態の観察、媒介昆虫の生態を含めた理解、病気に対する住民の意識と行動、治療と予防の方法、公衆衛生からのアプローチ、国家の政策における位置づけ、国際協力の必要性、そしてこれらの包括的対策の必要性を強調している。

リーシュマニア症には、感染が自然治癒して免疫を獲得する皮膚リーシュマニア症と、免疫が防御に働かないで致死的となる内蔵リーシュマニア症があり、病原原虫 *Leishmania major* に対するマウスの系統による Th 1 または Th 2 応答の違いは免疫学的に重要な実験系となっている。外来抗原は抗原提示細胞 (APC) のエンドソーム/リソソームで処理されて MHC クラス II 分子上に示され、CD 4<sup>+</sup> T 細胞を活性化する。リーシュマニア抗原の処理には幾つかのプロテアーゼの関与が推測されるが、カテプシン L の関与をその特異的な阻害剤 CLIK 148を用いた実験で示した<sup>4654</sup>。さらに *L. major* を感染させたマウスを CLIK148で処理すると、感受性の BALB/c マウスでも、本来 Th 1 タイプの応答をして非感受性の DBA/2 マウスでも、Th 2 タイプの応答が誘起されて感染が増悪することが認められ、Th1、Th 2 応答にエンドソーム/リソソームのカテプシン L が関わっていることを明らかにした。

トランスシアリダーゼ (TS) は、トリパノソーマ原虫に特徴的に酵素であり、薬剤開発の標的として感染細胞修飾機構分野で研究を行っている。シャーガス病の病原原虫 *Trypanosoma cruzi* において、原虫は宿主細胞に侵入しなくては増殖することが出来ない。TS は宿主由来のシアル酸を原虫表面に転移させ、原虫はシアル酸を介して細胞に接着して侵入する。今回、ブラジルの研究グループとの共同研究で、TS と宿主細胞の結合について報告している<sup>4676</sup>。*T. cruzi* に感染したマウスの心筋を TS 特異的な抗体で染めると、感染細胞と周辺の非感染細胞が反応することが認められた。さらに、非感染マウスの心筋組織に TS が結合することを示し、TS が *T. cruzi* の細胞侵入に際して直接に宿主細胞との接着に働いている可能性、

様々の細胞の状況を変化させて侵入を容易にするように働いている可能性，さらにその宿主細胞の変化が病態と関連している可能性について考察している。

また，アフリカトリパノソーマの病原体 *Trypanosoma brucei* におけるトランスシアリダーゼ (TS) の役割について，阪大微研グループとの共同研究の報告<sup>4675</sup>がある。阪大微研グループは，精力的にトリパノソーマ原虫の GPI アンカー蛋白質の役割を研究している。その過程で GPI アンカー蛋白質が出来ない変異体を作成して，それが媒介昆虫ツェツェバエの中腸内での生存に影響を与えることを見つけた。表面蛋白質のプロサイクリン，トランスシアリダーゼを含む多くの蛋白質が，GPI アンカーを介して原虫表面に結合しているが，特に TS 活性の検出出来ない変異体では，ほとんど生存が出来ないことがわかった。この変異体に TS を分泌させて発現出来るように遺伝子導入を行うと生存率が改善した。これは，TS の働きで原虫表面にシアル酸を取りこむことが *T. brucei* のツェツェバエの中での生存に必須であることを意味している。 (文責：上村春樹)

## 4 . 5 寄生蠕虫症 - 腸管寄生原虫症

腸管内寄生虫 (蠕虫，原虫を含む) は発展途上国においては非常に高率に認められる。一部のものを除いてヒトへの適応が進んでおり，急性な病気を引き起こすものは稀である。このうち糞線虫は自然界における自由生活と，ヒトへの寄生生活を行うユニークな寄生虫である。経皮的に感染し一度感染を受けると，長期にわたる寄生を続けるため，感染者の免疫能が低下した場合に重症化してさまざまな障害をもたらす。このためこの寄生虫症の鋭敏で確実な診断は重要な課題である。タイ北東部において寒天平板培養法と ELISA 法の有効性が検討され，従来の糞便の顕微鏡検査に比し，非常に鋭敏であることが示された。ELISA 法はより高い陽性率を示すが，その時寒天平板培養法で感染の確かめられた症例にも陰性を示すものが認められるため，著者らは糞線虫感染の診断のために寒天平板培養法の導入を勧めている<sup>4586</sup>。一方ペルーにおいてはネズミ糞線虫から抽出した抗原を用いて，血清学的診断法として ELISA 法とゲラチン粒子間接凝集反応法を，異なる症状の糞線虫症患者に適用して，それらの有効性を評価している<sup>4581</sup>。無症候性および消化器症状のある虫卵陽性者に対しては，どちらの反応も高い陽性率を示し，その有効性が支持されたが，ゲラチン法がより鋭敏であった。全身症状を示す高濃度感染者 (すべてが HTLV-1 感染者であった) においてもゲラチン法は高い陽性率を示すが，ELISA 法では HTLV-1 感染者で大部分が陰性となった。血清反応としてはゲラチン粒子間接凝集法がすぐれている。さて寄生虫感染はヒト側の免疫反応を Th 2 優位に導く。結果的に他のアレルギー反応の抑制あるいは亢進に関連すること，感染抑



制に Th 1 タイプ免疫の重要な感染症を悪化させることなどが想定されている。この線にそって北西エチオピアにおいて結核患者における血清 IgE レベルの変動が、寄生虫感染、HIV 感染に関連づけて調査された<sup>4587</sup>。その結果寄生虫と HIV の両者の同時感染のある結核患者では、その一方あるいはどちらの感染もない者に比し有意に高い IgE レベルが示された。また抗結核療法は、HIV 陰性の結核患者の IgE レベルを有意に減少させた。一方ベトナムの田舎および都市近郊の学童におけるアレルギー罹患状況を、質問表調査により医師によるアレルギーの指摘があるかどうかで判断し、アレルギー保有が彼らの栄養摂取状況および腸管寄生虫罹患状況と関連性があるかどうかを追求められた<sup>4588</sup>。しかしながら栄養状態、食事、寄生虫感染のアレルギーへの関与は検出できなかった。ただしボフラビン摂取量の少ない学童がアレルギー罹患の可能性が高いことが指摘されている。他にインド旅行からの帰国者で、抗生物質の投与が効果を示さなかった下痢症患者に、同時に 3 種の原虫（クリプトスポリジウム、ランブル鞭毛虫、プラストシスチス）の感染を認めた症例報告がある<sup>4633</sup>。その他寄生虫症の治療に関する解説がある<sup>4593, 4595</sup>。（文責：神原廣二）

## 4.6 デング熱および日本脳炎

昆虫やダニなどの節足動物で媒介され脊椎動物に感染するウイルスを総称してアルボウイルス（節足動物媒介性ウイルス）と呼ぶ。アルボウイルス感染症は熱帯地域はもとより世界各地において発生しており、公衆衛生学的に非常に重要な問題となっている。アルボウイルスは実に400種以上にも及び、その中でもデングウイルスはデング出血熱を発生させるため熱帯地域で最重要の病原性アルボウイルスである。一方、日本脳炎ウイルス感染により熱帯アジアで毎年数万人の脳炎髄膜炎患者が発生しており世界保健機関（WHO）も重要課題の1つに掲げている。分子構造解析分野、感染症治療予防分野、生物環境分野ではこれらのウイルス感染症の病原性や感染伝播様式をより深く理解し適切な診断法、予防法を開発して疾病対策に利することを目的とした研究を実施した。

日本脳炎ウイルス、デングウイルスの病原性についてのウイルス側要因を分子レベルで明らかにするため、両ウイルスの遺伝子の一部を遺伝子工学的手法により入れ換えたキメラウイルスを用いた研究がなされた<sup>4538, 4557</sup>。その結果、デングウイルスと日本脳炎ウイルスの PrM - E 蛋白遺伝子が病原性や感染性において重要な役割を有することが示された。また、デング 4 型ウイルス PrM - E 蛋白質を日本脳炎ウイルスの同部位と入れ換えたキメラウイルスはマウスの脳内に接種した場合に日本脳炎よりはるかに病原性は弱いもののデング 4 型ウイルスが本来持っていない神経毒性を有することが明らかになった。

デングウイルス感染の重症化におけるホスト側の要因の研究も実施された<sup>4609 4632</sup>。その結果、急性デングウイルス 2 次感染において発生したデング出血熱においては血小板に結合している IgM と IgG の量が患者の重症度と相関していることが明らかにされ、デング重症化の 1 つの原因としての可能性が示唆された。そのほか、デング感染における詳細な臨床症状や治療法における検討も実施された<sup>4533 4554 4564</sup>。

デングウイルスの分子疫学的調査も実施した<sup>4567</sup>。フィリピン国において1995年から2002年までに分離されたデング 2 型ウイルスの遺伝子を比較した結果、1996年以前にはフィリピン固有種の Asian 2 型が流行していたが1997年以降に外部から侵入した Cosmopolitan 型に置き換わり、2001年以降この型が主流になったことが発見され、デングウイルスがアジア地域をダイナミックに移動していることが明らかとなった。

デングウイルス診断技術の開発も実施された<sup>4563 4568</sup>。新たなウイルス遺伝子増幅技術である RT - LAMP 法を用いた診断技術によりデングウイルスの患者血清からの検出が 1 時間以内で可能となりまた同時に起因ウイルスの血清型の判定も同時に可能となった<sup>4563</sup>。また血清診断法として患者血清からのデング特異的 IgA 抗体の検出は特異的 IgM の検出と同様に有用であることがしめされ<sup>4568</sup>、唾液中に分泌される IgA を利用したデング抗体検査の可能性が示唆された。

デングウイルスの媒介蚊の防除を目的として開発した携帯用の装置（殺虫剤をしみこませた多層紙）によるヒトスジシマカの防除効果を検討した<sup>4638</sup>。新開発の殺虫剤である metofluthrin をしみ込ませた装置では 6 週以上にわたり 80% 以上の防除効果が確認された。特に 6 週までは 94.7% - 100% の高い防除効果を示した。一方、transfluthrin をしみ込ませた装置においては 5 週以降に効果の減弱が見られた。この結果、新開発の殺虫剤をつかった携帯用媒介蚊防除装置はデング感染症の予防方法として有効である可能性が示唆された。

（文責：森田公一）

## 4.7 コレラに代表される細菌性下痢症

コレラ菌 (*Vibrio cholerae* O1) は重篤な下痢症の原因となる。病原因子機能解析分野は 1995年、2000年、2002年にベトナムにおいて分離された *Vibrio cholerae* O1 の薬剤感受性をしらべるとともに薬剤耐性遺伝子の検出を行った<sup>4576</sup>。その結果、1995年分離株においては streptomycin 耐性に関与する aadA 1 をコードする Class I integron を有していた。2000年の分離株では Class I integron の代わりに SXT constin を持っていたが、2002年の分離株ではいずれも streptomycin 感受性であった。一方、琉球大学との共同研究により1993年から2000年に

おけるラオスでの *Vibrio cholerae* O1 の薬剤感受性をしらべた。1997年以前に分離された streptomycin 耐性菌26株中24株に Class I integron が検出されたがその後に分離された24株では SXT constin が認められ streptomycin 以外( chloramphenicol, Tetracycline および sulfamethozazole ) にも耐性を示していた<sup>4577</sup>。(文責：平山壽哉)

## 4.8 呼吸器感染症

呼吸器感染症はウイルス，細菌，マイコプラズマ，結核，真菌，原虫，寄生虫などの様々な病原微生物によって発症し，急性上気道炎，急性気管支炎，肺炎，肺化膿症，膿胸などの病型がある。感染症予防治療分野では呼吸器感染症の臨床と発症メカニズムなどの研究を通してその制圧をめざしている。

肺炎球菌は肺炎，中耳炎，髄膜炎など様々な感染症を引き起こす病原性の高い細菌であるが，本菌の病原性，および予防としてのワクチンについて概説した<sup>4614 4615 4616 4631</sup>。また，適切な抗菌薬使用のために日本呼吸器学会が作成した市中肺炎に対するガイドラインの評価について報告し<sup>4612</sup>，呼吸器感染症における抗菌薬の適切な使い方を示した<sup>4620 4621</sup>。

現在臨床の現場では耐性菌による難治性呼吸器感染症は大きな問題となっているが，難治化の一因としてバイオフィームがあげられる。原著として，インフルエンザ菌もバイオフィームを形成する能力を有しており，N-acetylneuraminic acid がバイオフィーム形成に重要な役割をはたしていることを報告した<sup>4606</sup>。また院内感染症の原因菌として問題となっているメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の病原性と対策について概説し<sup>4625</sup>，感染経路の一因として環境由来の MRSA が医療従事者を介して伝播している可能性があることを示した<sup>4611</sup>。高齢者の感染症も時に治療に難渋するが，高齢者感染症の病原体やその感染対策についても概説した<sup>4626 4627</sup>。

2003年は新興感染症である SARS が世界的に大流行した。当科は中国の SARS 流行時に中国の WHO に2名の医師を短期専門家として派遣し，インフェクションコントロールの仕事にあたったが，その際の経験をふまえ，SARS の臨床像について概説した<sup>4628 4629 4630</sup>。

海外との共同研究としてはタイ北部地域の HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の実態を報告した<sup>4622 4624</sup>。

呼吸器感染症の症例報告として寄生虫であるアニサキスが胸膜炎を起こした稀な症例を報告した<sup>4613</sup>。(文責：渡邊 浩)

## 4.9 その他世界的に問題になっている感染症～エイズを含む

### 原著 その1 (ウイルス感染) :

#### SARS

分子構造解析分野(ウイルス)では, SARS coronavirus に感染したが臨床的に SARS に至らなかった不顕性感染について明らかにするために, 感受性と特異度の高い新しい抗体検査法を開発した。このアッセイを用いて, ベトナムハノイにある French Hospital にて SARS 患者と接触のあった医療従事者(149名)について検査を行ったところ, SARS と診断されたスタッフのほかにも, 臨床的に症状を呈さなかったスタッフのなかに頻度は少ないが陽性になるものがあり, SARS conoravirus にも不顕性感染が存在することが判明した<sup>4566</sup>。

#### 中枢神経系ウイルス感染

病変発現機序分野(病理)では中枢神経系ウイルス感染の病変発現機序について研究を展開している。北海道大学獣医学部との共同でヨーロッパからアジアまで広く分布する Tick-Borne Encephalitis virus (TBEV) の病原性を分子レベルで解析するために, TBEV Oshima 株のクローンウイルスの作成に成功した。このクローンウイルスを用いて TBEV の病原性について分子レベルで解明した複数の研究成果を発表した<sup>4598, 4603, 4604, 4605</sup>。

また, 1972年2月, 日本脳炎の自然宿主を検索する調査中に, 偶然, a horse-shoe bat から見つかった Oita virus296 / 1972株について, その病原性と系統樹解析を行い, このウイルスは, その病原性や形状から狂犬病ウイルスと同じ科(Family) *Rhabdoviridae* に属するウイルスであることが判明した。また, Nucleoprotein の系統樹解析から, 興味あることにこのウイルスは哺乳類に感染する報告された他のウイルスとは違った新しいタイプの Rhabdovirus であることが判明した<sup>4602</sup>。

#### EB ウイルス関連腫瘍

バーキットリンパ腫は, Epstein - Barr ウイルス感染が深く関与しているアフリカに多い癌である。病変発現機序分野(病理)では, バーキットリンパ腫に特徴的な病理所見である“Starry Sky”パターンがどのような機序で形成されるかについて, より深く解明するために, EBV の免疫組織化学的および in situ hybridization を実施した<sup>4600</sup>。

#### HIV・エイズ

感染症予防治療分野(臨床)では, ウガンダ Joint Clinical Research Center および東京大学との共同研究で, cDNA マイクロアレイ法により731の免疫反応関連遺伝子の発現プロファ

イルを比較検討し、このうち40の遺伝子が、エイズ進行速度に何らかの影響を及ぼしていることが示唆された<sup>4608</sup>。また、感染症研究センターでは、最新の数理モデル手法を用いて HIV 流行を規定する因子に関する解析結果が報告された<sup>4662</sup>。

## 原著 その2（細菌感染）：

### インフルエンザ菌

インフルエンザ菌 b 型（Hib）は、発展途上国における小児の髄膜炎および全身性感染の起因菌として、最も重要な細菌のひとつである。この細菌に対してワクチンを効果的に用いるには、菌の発生状況を正確に把握する必要がある。感染症予防治療分野（臨床）では、バングラディッシュの小児髄膜炎患者1412名および肺炎患者2434名を対象に調査を行った。1993年から2003年までに455株のインフルエンザ桿菌株が分離され、その大多数が Hib であった。さらに Ampicillin, Chloramphenicol, Cotrimoxazol に対する耐性菌がそれぞれ 32.5%、21.5%、49.2%と高率に見つかった。特に1歳以下の乳幼児の髄膜炎において Hib は最も重要な起因菌であり、耐性株の広がりが問題であることが判明した<sup>4610</sup>。

### ヘリコバクターピロリ菌

胃がんは熱帯地で遭遇する悪性疾患のなかでも最も重要なもののひとつである。ヘリコバクターピロリ菌感染と胃炎・胃潰瘍・胃がんとの関連は広く知られているが、ピロリ菌が消化管において炎症を来すメカニズムには不明な点が多い。病原因子機能解析分野（細菌）では、ピロリ菌炎症を来す機序として最も重要な病原因子のひとつである細胞空胞化致死毒素 VacA 毒素の作用に注目した。VacA 毒素は、細胞表面上の分子 RPTP $\alpha$  / RPTP $\beta$  を介して細胞傷害を来すことがわかっているが、さらに RPTP $\beta$  の細胞外ドメイン内の“QTTQP”配列が毒素作用発現に必須であることを示した<sup>4572</sup>。また、お茶・ワインなどに含まれ、その抗酸化作用（動脈硬化や脳梗塞を防ぐ）や抗癌作用等で近年知られているポリフェノールが VacA 毒素による胃傷害作用に対して抑制的に働くことを示した<sup>4580</sup>。さらに、臨床との関連では、ギランバレー症候群の亜型である Miller-Fisher 症候群患者の髄液中に、VacA 毒素に対する抗体が高頻度に認められ、VacA 毒素と宿主内のイオン輸送タンパクとの相同性があることから、これらの抗体が病態発現になんらかのかかわりがあることが示唆される論文を公表した<sup>4574</sup>。その他、細菌に対する非特異的宿主防御機構の一躍を担う Defensin に関する共同研究が行われ複数成果があった<sup>4570 4571 4573 4578</sup>。

### 下痢症を起こす細菌感染症

エロモナス属菌は成人および小児の下痢症を起こす細菌感染として、比較的近年に注目を

浴びるようになった。病原因子機能解析分野（細菌）は、エロモナスの病原因子のひとつであるヘモリシンの受容体について調べ、腸管由来 intestine407細胞に p66ヘモリシン受容体があることを発見したが、さらに質量分析法により同分子が placental alkaline phosphatase (PLAP)であることを突き止めた。また、この相同タンパクである Intestinal alkaline phosphatase (IAP) もヘモリシン受容体として作用することを発見した<sup>4579</sup>。

その他：

その他上記に分類されなかった発表論文として、Gravies' hyperthyroidism<sup>4607</sup>と肝臓病変の病態生理<sup>4596 4597 4599</sup>に関するものもある。

**総説：**

熱帯地で重要となるウイルス性疾患：ウイルス性出血熱<sup>4535</sup>、ウエストナイル熱<sup>4537 4539 4542 545 4550 4552 4556 4559 4560 4561 4562 4565 4569</sup>、デング熱・デング出血熱<sup>4534 4562</sup>、ニパウイルス<sup>4536 4540 4547 4549 4553</sup>、カリフォルニア脳炎<sup>4544</sup>、セントルイス脳炎<sup>4541</sup>やポリオ、ムンプス、コクサッキーウイルス抗原抗体検査データに関して<sup>4617 4618 4619</sup>、また、ピロリ菌毒素 VacA の分子レベルでの作用機序について<sup>4575</sup>、さらには、バイオセーフティについて<sup>4558</sup>、我が国における輸入感染症としての熱帯病について<sup>4623</sup>、総説・教科書への執筆がされた。

（文責：有吉紅也）

## 4 . 10 細胞からのアプローチ

Human immunodeficiency virus (HIV) は成人免疫不全症候群 (AIDS) を引き起こすレトロウイルスである。このウイルスは CD4 と CCR5、または CD4 と CXCR4 のセットに結合するので、これらの膜蛋白質を発現しているマクロファージや T リンパ球に感染し、その中で増殖する。まずウイルスのエンベロップに表出している蛋白質 gp120 / gp41 がこれらのセットに結合すると、gp41 の膜融合ペプチド部を宿主細胞膜の脂質二重層に挿入し、ウイルスのエンベロップと細胞膜を強く結合させて両方の膜融合をすすめる。その後、ウイルス遺伝子 RNA が細胞内に注入される。ウイルスが同時に 2 つの細胞に融合したり、ウイルスに感染した細胞がウイルスのエンベロップ (Env) 蛋白質を表出しいわば擬似ウイルスとなって他の細胞に融合すると、宿主細胞がお互いに融合する事態になり、大きな多核細胞 (syncytium) ができる。この細胞は死にやすくウイルスの増殖・伝播が悪くなる。gp41 のカルボキシル末端 (R peptide) には、しかしながらこのような細胞同士の融合を阻害する機構があ

る<sup>4636</sup>。この膜融合阻害の機構は近似の他のレトロウイルスでも見られる。

一方、宿主細胞側には、これらのウイルスの感染（結合 - 膜融合 - RNA 注入 - 増殖）の成否を決定づける機構があり、種が違えばウイルスの感染が起こらないのはその極端な例である。エイズ・感染防御分野では、同種指向性のマウス白血病ウイルス MLV であっても同種間で感染性に差があり、マウス由来細胞にはよく感染するが同じげっ歯類の仲間であるラットやハムスター由来細胞には感染しにくいことに着目しその機構を解析した<sup>4634</sup>。ウイルスの接着には Env 蛋白質が細胞側の受容体である陽イオン性アミノ酸トランスポータ CAT 1 の第 3 細胞外ループに結合する事が必須であるが、このループ構造はこれら同種の動物で少しずつ異なっている。これら同種の第 3 ループには共通して 2 本の N - 結合糖鎖があるが、これがラットとハムスターの細胞では接着阻害因子となっている。ラットの Env 蛋白質の第 3 細胞外ループからアミノ酸 3 個を除いてマウスの Env 蛋白質に近似させた変異蛋白質を発現させると、感染率が高まりしかも糖鎖があっても感染を阻害しないようになった。したがって、MLV の接着を決定する因子として、第 3 細胞外ループの糖鎖近傍のアミノ酸残基数が大事であり、これが少ないと糖鎖の有無にかかわらず接着できる事が明らかとなった。この事は、CAT 1 を介したウイルスの感染を阻害するには、その第 3 ループの糖鎖結合部位近傍にアミノ酸を挿入する必要があることを示している。逆に遺伝子導入にレトロウイルスを用いる手法を改良する場合には、この正反対のアプローチが有効であろう。

ヒト細胞へマウスレトロウイルスで同種指向性の Moloney murine leukemia virus をベクターとして用いて遺伝子導入する場合は、ヒト細胞へも感染できるように工夫し、両種指向性に変えないといけない。本分野では、この方法としてウイルスの Env 蛋白質の N 末端近くに（79 番目アミノ酸の下流）にサイトカイン SDF - 1 $\alpha$  を挿入した S 3 Env 蛋白質を発現させ、ヒト細胞のケモカイン受容体 CXCR 4 へも結合できるようにしたベクターを作製してきた。この変異ベクターがヒト細胞と融合する際、マウスの CAT 1 を介した融合と同じ機構を用いているかを調べる目的で、まず CAT 1 とはもはや結合できないような変異<sup>Asp84Lys</sup> を Env 蛋白質に導入した（S 3 - D84K）。CAT 1 を介した融合には前記 R peptide の機能解除が必須であり、これには Env 蛋白質の 8 番目のアミノ酸残基ヒスチジンが必須である。ここにさらに変異を導入した S 3 - H 8 R - D84K を発現するベクターを用いて遺伝子導入効率を調べたところ、殆どゼロになった。ただし接着はちゃんと起こっていた。したがって CXCR 4 にウイルスが SDF - 1 $\alpha$  で接着した後は、CAT 1 と Env 蛋白質結合ドメインで接着した後の融合のメカニズムを利用していることが明らかになった<sup>4635</sup>。

炎症細胞機構では、殺菌に必須な活性酸素を作る本態である gp91<sup>phox</sup> の遺伝子発現を解析してきた。好中球や単球ではその発現に転写因子 PU .1 が必須であるが、B リンパ球や樹状細胞ではこれがあるにもかかわらず gp91<sup>phox</sup> の発現が極めて低い。PU .1 やこれの属する Ets

ファミリーの蛋白質は、他の転写関連因子と複合体を作っていることが分かってきた。その機構を解析する過程で、PU.1と結合してその活性を制御する因子 IRF 4 ( Interferon Regulatory Factor 4 ) の重要性に気づき、IRF 4 ノックアウトマウスを作製した医学部感染防御講座松山俊文教授らとの共同研究を推進し、生体防御、特に抗原提示機能をもつ樹状細胞における IRF 4 の役割の解析を行った<sup>4601</sup>。樹状細胞は、抗原を提示する細胞であり、マクロファージのように貪食作用を持っている。

IRF は細胞外のインターフェロンに反応して細胞内の遺伝子発現を調節する因子であり、免疫系で重要な役割を果たしている。一方、場所により由来の異なる様々な樹状細胞が存在している。樹状細胞は大別して従来から知られている 2 種類の骨髄系の樹状細胞 ( CD11b<sup>high</sup>CD 8 α<sup>-</sup> , CD11b<sup>low</sup>CD 8 α<sup>+</sup> ) と B リンパ球系形質細胞様の樹状細胞 ( B220<sup>+</sup> ) に分類される。近年、IRF 8 が CD11b<sup>low</sup>CD 8 α<sup>+</sup> 骨髄系樹状細胞と形質細胞様樹状細胞の分化に重要である事が判明した。鈴木助手らは、IRF - / - と野生型マウスの骨髄細胞を試験管内で分化させる系を用い、種々の樹状細胞を発生させてその種類を表面マーカーで決定し、また T 細胞への抗原提示能を測定してその機能を解析した。その結果、IRF - / - マウス骨髄細胞からは選択的に CD11b<sup>high</sup>CD 8 α<sup>-</sup> が分化して来ず、GM - CSF で分化させた樹状細胞では抗原提示能も無かった。IRF 4 - / - ノックアウトマウスの脾臓では、CD11b<sup>high</sup>CD 8 α<sup>-</sup> 細胞の出現が殆ど見られず、CD11b<sup>high</sup>CD 8 α<sup>-</sup> の中でも特に CD 4 + CD 8<sup>-</sup> の表現型樹状細胞が激減していた。これらの現象は、他の細胞からの間接的な影響によるものではなく樹状細胞への分化を運命づけられた細胞が IRF 4 の機能を欠いているために起こったものであることも実験的に確認できた。本研究は、熱研の病変発現機序分野と電顕室、および医学部の医動物学講座や前述の感染防御講座などとの共同で行われた。この発見は、米国アカデミー雑誌 ( Proc Natl Acad Sic, USA ) でのトピック論文として見出しに掲載され、注目された。

( 文責 : 中村三千男 )

## 4 . 11 社会および人間からのアプローチ

熱帯感染症が猛威をふるう地域では、簡単な予防や治療で救える命が多く失われ続けている。これは、熱帯医学の知識や技術が地域医療に反映されていないためであると考えられる。そのため、熱帯医学の生物医学的研究または臨床医学的研究による知見を積み重ねることはもちろん重要であるが、その一方で、それらが実際に住民の健康につながるための方策を開発するアプローチが必要になる。熱帯医学の知見がどうすれば、住民の健康につながるのかを検討するには、多角的な検討が必要である。特に、人間とそれを取り囲む社会的環境を出



発点とした検討は、住民の行動変容や意識改革につながり、熱帯感染症の予防や受療動向の改善に効果があると期待される。

本項では熱帯医学研究所における社会および人間からのアプローチについて概観する。本年度に実施されたこのアプローチには、保健医療行政に関わるもの、緊急援助を含めて国際医療協力に関わるもの、その他がある。

保健医療行政の改善に関する研究は、社会的アプローチとして重要である。本年度も保健医療計画<sup>4644, 4645, 4646</sup>や保健医療システム<sup>4648</sup>の検討がなされた。<sup>4644</sup>は地域分析のための汎用的な新しい視覚化手法を考案し、それを実行するためのコンピュータプログラムを開発している。<sup>4645</sup>は人的医療資源配分問題における偏りの分析手法において、従来の方法の問題点である指標精度のばらつきを調整した新しい方法を提案している。保健医療行政関係者は保健医療情報の配信をつねに意識すべきであり、<sup>4646</sup>は WebGIS を通じた保健医療情報の配信について技術的な総括を行い、情報共有、リアルタイム配信、疾病流行動向の可視化、アウトブレイク発生時の自動早期警告システムの開発などを提言している。<sup>4644</sup>は SARS 問題で露呈した中国政府の保健システムにおける問題点を整理している。さらに、感染症対策で重要な役割を果たすと考えられている地理情報システムについて、それはどのように役に立つものであるのかを<sup>4647</sup>は示している。

国際協力は人間の安全保障を実現するための重要な手段である。保健医療分野の国際協力には、さまざまな問題が山積している。世界の国際保健医療協力活動における現状分析は、<sup>4671, 4673, 4674, 4667</sup>に見ることができる。世界の援助協力の潮流の中で日本はどのような役割を担っていけばよいのかが考察された<sup>4667, 4671, 4673</sup>。<sup>4667</sup>は、国際協力を取り巻く現状を分析しながら、日本の国際協力プロジェクトを各国の国別援助計画に則して連携・戦略化する必要性を説いている。さらに、<sup>4668, 4669, 4672</sup>は国際医療協力活動に従事することの意義に対する考察を行っている。

国際保健医療協力の1つに緊急援助がある。スマトラ地震津波の被災地において感染症対策プロジェクトが立ち上げられた<sup>4670, 4675, 4676, 4677</sup>。<sup>4670</sup>は、大津波災害の後に発生する可能性がある感染症を整理し、<sup>4675</sup>では迅速かつ大規模な対策により感染症流行のリスクは下げられたが、一方で衛生施設における問題を指摘している。<sup>4676</sup>では災害予防の重要性を説き、<sup>4677</sup>では過去の災害を含む災害地における感染症対策について総合的な考察を行い、具体的な対策について詳解した。

<sup>4650</sup>はタイ・ミャンマー国境付近における抗マラリア薬の効果を検討し、三日熱マラリアに対してはクロロキン、アルテスネートは感受性が高く、メフロキンに関しては抵抗性があったことを報告している。

日本は戦後に著しい復興を遂げた。<sup>4661</sup>は出生時の身長・体重・頭囲・胸囲における長期的

な変化を1962年から1988年まで観察し，社会経済的な環境改善が出生前の成長に影響を与えていること示唆した。

臨床研究における倫理問題は世界的に注目されており，世界各地で倫理問題を検討する組織が活発な活動を続けている。<sup>4655</sup>はアジア太平洋地域の医学研究における倫理審査機能の強化を目的とした FERCAP を紹介している。 (文責：谷村 晋)

## 5 特別事業費による事業

### 5.1 熱帯医学研修課程

熱帯医学研修課程は、研究所のミッションのひとつである教育・研修プログラムの中で、「専門家の育成」として位置付けられている。文部省（当時）により昭和53年度（1978）に本研究所に設けられた、現在我が国唯一の熱帯医学に関する専門的な研修課程である。毎年6月から8月の3ヶ月間行われる。定員は従来10名であったが、応募者数の増加と東大医科研の同種コースの閉鎖に伴い、平成12年から定員15名となった。

研修課程の目的は、熱帯医学に関する基本的かつ系統的な知識や技術を伝え、熱帯医学領域の理解を助け、この領域への参入を支援することであり、その対象者としては、現在の専門に熱帯医学の理解が重要と考える研究者、あるいは熱帯医学領域の活動を志す者、また国内における活動に熱帯医学の知識と技能を必要とする者など、広範な人材を想定している。

運営は、所外関連領域機関長および専門家14名に委嘱して構成されている熱帯医学研修課程運営委員会の指導の元に、実質的には所内の教務委員会が司っている。

平成16年度（第27回）熱帯医学研修課程は、平成16年6月1日から8月31日までの3ヶ月間にわたり定員15名で実施した。

運営委員会は、研修課程終了時の平成15年8月28日に本研究所において、研修生との交換会も兼ねて開催した。運営委員の出席は5名であった。

本年度は、運営委員会が歴史的な大型台風で中止となったため、運営委員が研修生と意見交換する機会がなく、外部からの評価は得られず、所内の教務委員会の意見を基に教授会が実施報告書を作成した。（本解説はその実施報告書に基づいている。）

#### 1. 応募者について（図1, 2）

本年度応募者は、定員15名に対し29名であった。競争倍率はここ数年、2倍程度で推移している。

#### 2. 研修生について

本年度の選考にも、海外経験のある者何点、ない者何点、終了後具体的な計画がある者何点、ないもの何点などと採点し、総合得点の高いものを選考するという「点数制」を取り入れたが、点数制といえども配点が恣意的であるため、その意義や公正さは不明である。選考方法の再検討に迫られている。

政府組織からの応募は本年度も検疫所から1名、自衛隊から1名あった。検討の結果、こ

図1 応募者内訳（男女別）

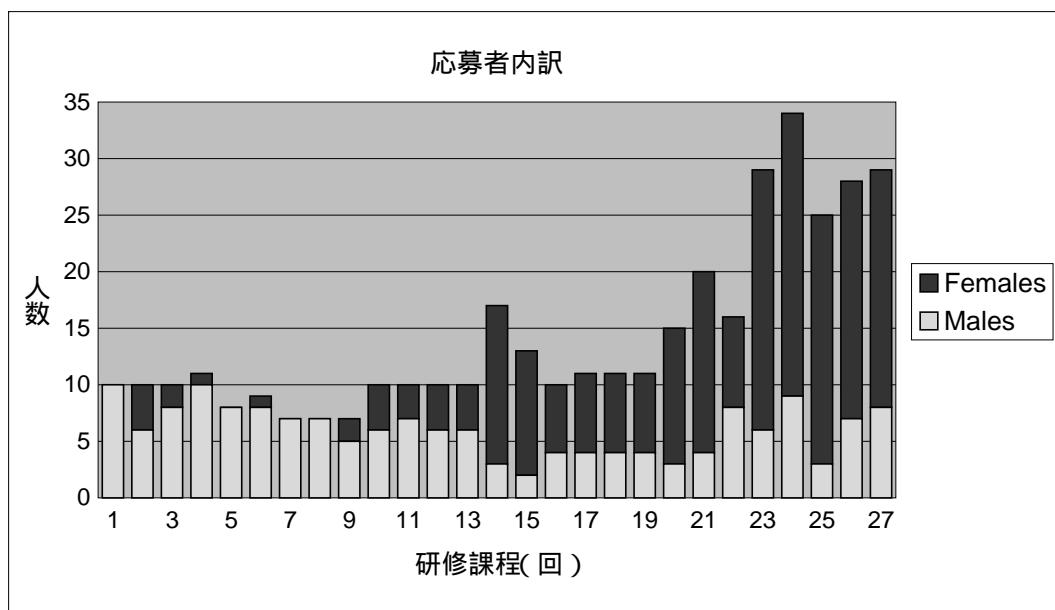
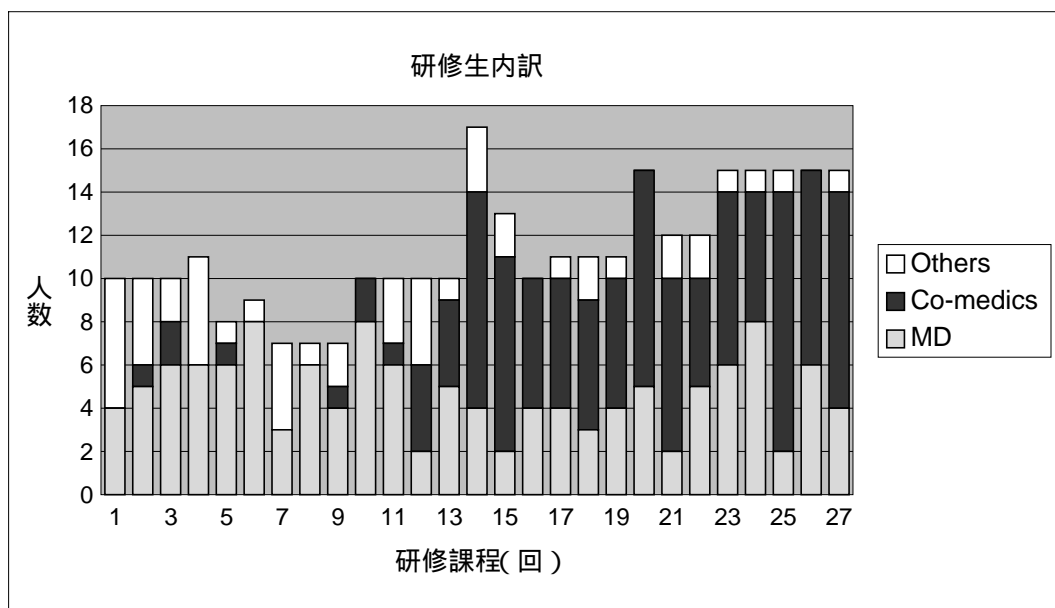


図2 研修生内訳（専門別）



これらの応募に対して本年度は無条件で受け入れることにした。従って、実質的に選考されて入学した者は13名である。

研修生の構成が、実践家指向の者が中心となる最近の傾向に変化はない。

### 3. カリキュラムについて

従来の方法を踏襲した。しかし、研修生の構成の変化に伴いカリキュラムの見直しが迫られている。

#### 4. 研修生による評価

平成16年8月30日の総合討論会の出席者13名に、支払った受講料に対して研修課程の内容が適切かどうか質問した。

受講して得をしたと思う 10人

適当と思う 2人

損をしたと思う 1人

重要と思われるその他の意見を羅列する。

- 1) 個人的なケアが不足している。個人面談が欲しい。
- 2) 資料やハンドアウトの紙媒体での配布は時代遅れ。すべて電子化すべきだ。
- 3) 研究するために来たわけではない。講師は総じて教育に熱心でない。
- 4) 自分の仕事に関係ないものもある。講義実習を選択制にして欲しい。
- 5) 外来講師による講義の多くは熱帯医学とは関係がない。
- 6) 研修課程のポリシー（どのような商品をどの程度の品質で排出するのか）が不明確である。
- 7) 入門編と考えれば、研修の中味は確かに幅広く、意味もある。
- 8) 選抜された研修生の興味があまりにも多様である。これには対処できないのではないか？

#### 5. 運営委員会

すでに記したように、研修課程終了時の平成16年8月30日、本研究所において開催する予定であったが、大型台風に襲われ中止となった。

#### 6. 次年度以降の検討課題と方針

次年度以降の研修課程においては下記の件を検討する必要がある。

- 1) 対象者と目的の明確化
- 2) 選抜方法の再検討
- 3) カリキュラムの全面的改善

(文責：嶋田雅暁)

## 6 文部科学省科学研究費補助金等による研究

### 6.1 文部科学省科学研究費補助金(平成16年度採択分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究 (2)	教授・平山壽哉	7,500	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現機序	16年～17年度 継続
特定領域研究 (2)	教授・平山謙二	6,400	デング出血熱の感受性遺伝子の解明	16年～17年度 継続
特定領域研究 (2)	教授・森田公一	3,500	西ナイルウイルスのワクチン開発	16年～17年度 継続
基盤研究(A) 海外(2)	教授・高木正洋	7,700 間接 2,310	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・鳥山寛	3,100	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	講師・上村春樹	2,000	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性地域性と時間的推移	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・岩崎琢也	4,200	東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助手・安高雄治	1,200	アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・平山謙二	3,900	南米のシャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析	15年～18年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・青木克己	4,000	ビルハイツ住血吸虫症：感染者の疾病認識に沿った調査により明らかになる多様な病害	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・森田公一	4,200	デング出血熱重症化に関与する宿主および病原体因子の解明	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・神原廣二	5,700	インドネシアにおけるマラリア薬剤耐性の起源と現状	16年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・大石和徳	6,600	デング出血熱の重症化機序の解明と治療戦略	16年～17年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	助手・江原雅彦	1,100	Non-01コレラ菌の組織侵入、敗血症増悪メカニズム	15年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	講師・熊取厚志	1,500	炎症時のインターフェロンによるシトクロム b558重鎖遺伝子発現誘導機構の解析	15年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	教授・中村三千男	2,600	新奇 GT ミスマッチ DNA 結合タンパク質の解析	16年～17年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(C) 一般(2)	講師・和田昭裕	2,100	病原性遺伝子群をもつヘリコバクター・ピロリによる宿主細胞への炎症誘導機構	16年～17年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	教授・岩崎琢也	2,200	アルファヘルペスウイルス感染の体内動態：侵入から神経への感染初期の伝播経路	16年～17年度 継続
萌芽研究	教授・大渡伸	700	水圧振動の共鳴・忌避周波数による水棲病害生物の選択的駆除と生態系影響評価	15年～17年度 継続
萌芽研究	教授・平山謙二	1,300	住血吸虫性肝線維化を調節するT細胞を刺激する虫卵抗原の同定	15年～16年度 継続
萌芽研究	教授・平山壽哉	1,200	ピロリ菌空胞化毒素を阻害する血清成分に関する研究	15年～16年度 継続
若手研究(B)	助手・都野展子	1,100	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	15年～17年度 継続
若手研究(B)	助手・鈴木章一	1,100	IRF-4欠損マウスを用いた樹状細胞の分化及び活性化機構の解析	15年～16年度 継続
特定研究促進費(2)	教授・國井修	15,000	スマトラ島沖地震津波後の感染症流行対策：基礎調査	16年度
合計	直接経費 間接経費	89,900 2,310		

## 6.2 文部科学省科学研究費補助金(平成17年度内定分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究	教授・平山壽哉	7,500	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現機序	16年～17年度 継続
特定領域研究	教授・平山謙二	6,400	デング出血熱の感受性遺伝子の解明	16年～17年度 継続
特定領域研究	教授・森田公一	3,500	西ナイルウイルスのワクチン開発	16年～17年度 継続
基盤研究 A 一般	教授・平山壽哉	18,200 間接 5,460	ヘリコバクター・ピロリが産生する VacA 毒素の受容体の機能と毒性発現	17年～18年度 継続
基盤研究 A 海外	教授・高木正洋	1,600 間接 480	東南アジアにおける蚊媒体性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度 継続
基盤研究 B 海外	教授・平山謙二	2,600	南米シャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析	15年～18年度 継続
基盤研究 B 海外	教授・青木克己	4,300	ビルハイツ住血吸虫症：感染者の疾病認識に沿った調査により明らかになる多様な病害	15年～17年度 継続
基盤研究 B 海外	教授・森田公一	2,200	デング出血熱重症化に関与する宿主および病原体因子の解明	15年～17年度 継続
基盤研究 B 海外	教授・神原廣二	4,800	インドネシアにおけるマラリア薬剤耐性の起源と現状	16年～17年度 継続
基盤研究 B 海外	助教授・大石和徳	6,600	デング出血熱の重症化機序の解明と治療戦略	16年～17年度 継続
基盤研究 B 海外	教授・國井修	3,200	エイズ遺児のケアに関するソーシャルネットワークと公的セクターの役割に関する研究	17年～20年度 継続
基盤研究 C 一般	教授・中村三千男	900	新奇 GT ミスマッチ DNA 結合タンパク質の解析	16年～17年度 継続
基盤研究 C 一般	講師・和田昭裕	1,300	病原性遺伝子群をもつヘリコバクター・ピロリによる宿主細胞への炎症誘導機構	16年～17年度 継続
基盤研究 C 一般	教授・岩崎琢也	1,400	アルファヘルペスウイルス感染の体内動態：侵入から神経への感染初期の伝播経路	16年～17年度 継続
基盤研究 C 一般	助手・本田純久	1,200	縦断的データ分析の方法を用いた原爆被害者検診データの解析	16年～17年度 継続
萌芽研究	助教授・大渡伸	700	水圧振動の共鳴・忌避周波数による水棲病害微生物の選択的駆除と生態系影響評価	15年～17年度 継続



研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
萌芽研究	教授・門司和彦	1,600	熱帯における人工・健康・栄養転換に差異をもたらす人類生体要因の検討	17年～18年度 継続
萌芽研究	教授・平山謙二	1,700	臍帯血造血幹細胞移植免疫不全マウスを用いたヒトマラリアモデルの作製	17年～18年度 継続
若手研究B	助手・都野展子	900	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	15年～17年度 継続
若手研究B	助手・谷村晋	2,000	子児人口の受療機会における不平等性の時空間分布	17年～18年度 継続
合計	直接経費 間接経費	72,600 5,940		

### 6.3 受託研究費（平成16年度分）

受託者等	職・氏名	研究課題	備考
PRESTO さきがけ研究21	講師・和田昭裕	ヘリコバクター・ピロリの空砲化致死毒素の作用機序解析と新しい治療戦略	
国際協力事業団開発パートナー事業	教授・神原廣二	インドネシア国ロンボックおよびスンバワ島におけるマラリア対策	プロジェクトマネージャー
国際医療協力研究委託費	教授・神原廣二	インドネシア国ロンボク・スンバワにおけるマラリアコントロールと住民教育効果	分担研究者
千葉大学ナショナルバイオリソースプロジェクト	教授・神原廣二	中核的拠点整備プロジェクト - 病原微生物 - 病原性原虫の収集，株保存と分析，その提供	協力業務担当者
厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業	助手・久保嘉直	HIVの増殖・変異の制御に関する研究	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業	教授・平山謙二	輸入蠕虫性疾患の監視と医療対応整備に関する研究（H15 - 新興 8）	分担研究者
国際医療協力研究委託費（国立国際医療センター）	教授・平山謙二	薬剤耐性化が進む国際的な重要な感染症の予防・治療のためのワクチン及び化学療法開発とその応用に関する研究（分担研究課題：マラリアワクチン及び薬剤開発に関する研究）（15公5）	分担研究者
日米医学協力計画アジア地域奨励研究事業	教授・平山謙二	住血吸虫性肝線維症の重症化に寄与する虫卵抗原の同定	主任研究者

## 7 海外活動

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山謙二	WHO主催による抗マラリアモニターの研究打合せ	タイ	H16.4.25 ～ H16.4.29	先方負担 (WHO)
教授	神原廣二	インドネシア,ロンボク及びスンバウ島のマラリアコントロール研究。保健所内の患者検出・治療チームの活動強化と本年度の計画の検討	インドネシア	H16.4.13 ～ H16.4.22	産学連帯等 研究費
産学官 連帯 研究員	吉永一末	インドネシア,ロンボク及びスンバウ島のマラリアコントロール研究。保健所内の患者検出・治療チームの活動強化と本年度の計画の検討	インドネシア	H16.4.13 ～ H16.4.20	産学連帯等 研究費
産学官 連帯 研究員	前川芳秀	JICAパートナーシップ事業「インドネシア・ロンボク及びスンバウ島におけるマラリア対策」を実施。マラリア媒介蚊対策の実施指導業務を行う	インドネシア	H16.4.4 ～ H16.6.17	JICA パートナー シップ事業
助手	安高雄治	アフリカにおける高解像度衛生画面データの熱帯感染症研究への応用のための現地調査	タンザニア	H16.5.11 ～ H16.6.1	科学研究費 補助金
助手	中澤秀介	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	ベトナム	H16.5.17 ～ H16.5.24	科学研究費 補助金
COE 研究員	砂原俊彦	マラリア媒介蚊の生態に関する共同研究	ベトナム	H16.5.17 ～ H16.8.1	COE
教授	平山壽哉	米国微生物学会出席とNIH,ジョージタウン大学での共同研究打ち合わせ	アメリカ	H16.5.22 ～ H16.5.30	自費
講師	川田均	拠点大学方式による学術交流事業	ベトナム	H16.5.23 ～ H16.5.29	JSPS
教授	神原廣二	インドネシア,ロンボク及びスンバウ島のマラリアコントロール研究。地域に密着型マラリアコントロール研究	インドネシア	H16.5.29 ～ H16.6.17	受託研究費 (JICA)
教授	平山壽哉	第6回ヘリコバクターにおける宿主反応に関する医療ワークショップ	デンマーク	H16.6.23 ～ H16.6.28	実費・ワー クショップ 委員会
教授	高木正洋	インドネシア・ロンボク及びスンバウ島におけるマラリア対策の実施	インドネシア	H16.6.3 ～ H16.6.11	JICA
助手	金田英子	研究プロジェクト「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態の総合的研究に関する調査・研究」の打ち合わせ	ラオス	H16.6.3 ～ H16.6.19	総合地球環 境学研究所
助手	都野展子	カンピエハマダラカ姉妹種の発生消長の調査及び資料収集	ケニア	H16.6.5 ～ H16.7.5	科学研究費 補助金
助手	江原雅彦	熱帯性新興,再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H16.6.8 ～ H16.6.18	JSPS

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助教授	大石和徳	デング熱プロジェクトの研究推進	フィリピン	H16.6.9 ～ H16.6.12	科学研究費 補助金
教授	平山謙二	デング出血熱の感受性遺伝子解明のための研究打ち合わせ	マレーシア ベトナム	H16.6.14 ～ H16.6.19	C O E
COE 研究員	石井一成	日本住血吸虫症の迅速的診断法確立のため中国寄生虫病研究所にて共同研究。実験に必要な具購入のため	中国	H16.6.25 ～ H16.6.28	C O E
教授	岩崎琢也	タイにおける脳炎の病原体について、タイ、チュラロンコン大学との共同研究	バンコク	H16.6.26 ～ H16.6.29	科学研究費 補助金
教授	高木正洋	拠点大学方式による学術交流事業	ベトナム	H16.6.28 ～ H16.7.3	J S P S
教授	門司和彦	①JICA 開発パートナー事業によるマラリア対策に参加 ②総合地球環境学研究所ラオスプロジェクト参加	タイ ラオス インドネシア	H16.6.5 ～ H16.6.19	J I C A 総合地球環 境学研究所
教授	森田公一	JICA 太平洋予防接種関連疾病対策プロジェクトを通して地域の感染症対策に関する調査	フィジー オーストラリア	H16.7.4 ～ H16.7.15	J I C A
助手	渡部幹次	ビルハイツ住血吸虫症感染による排尿困難の定量化を行う。ケニアにおいて感染者の調査	ケニア	H16.7.8 ～ H16.7.18	科学研究費 補助金
教授	平山謙二	江西省寄生虫病研究所で住血吸虫症患者の血液採取	中国	H16.7.13 ～ H16.7.16	C O E
教授	門司和彦	タイ国立衛生研究所での研究打ち合わせ	タイ	H16.7.15 ～ H16.7.18	大学運営 経費
教授	平山謙二	デング出血熱と重症型マラリアの共同研究	ベトナム	H16.7.19 ～ H16.7.22	先方負担 (国立衛生 研究所)
教授	神原廣二	インドネシア、ロンボク、スンパワ島におけるマラリアコントロール方法の検証	インドネシア	H16.7.20 ～ H16.7.29	J I C A
講師	上村春樹	「インドネシアにおけるマラリア薬剤耐性の起源と現状」に関する研究打ち合わせ	インドネシア	H16.7.21 ～ H16.7.27	科学研究費 補助金
助手	渡邊貴和雄	熱帯感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策の研究実施を行う	ベトナム	H16.7.22 ～ H16.7.29	先方負担 (J S P S)
教授	溝田勉	バングラディッシュのダッカ小児科病院において小児性髄膜炎に関する共同実験等の打ち合わせ	バングラディッシュ	H16.7.24 ～ H16.7.29	大学運営 経費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 手	柳 哲 雄	ナショナルバイオリソースプロジェクト，病原体原虫の株保存と分析・提供のための材料収集	ネパール	H16.7.24 ～ H16.8.8	受託研究等 収 入
教 授	高 木 正 洋	ファンリファンチェット灌漑事業計画地域における疾病媒介蚊調査	ベトナム	H16.8.1 ～ H16.8.17	自 費
助 手	金 田 英 子	「東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス心理学的解析」に関する研究打ち合わせ	タイ	H16.8.1 ～ H16.9.30	科学研究費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	マラリアワクチンに関する研究打ち合わせ WHO主催による会議に出席	タイ マレーシア	H16.8.3 ～ H16.8.21	受託研究費
助教授	鳥 山 寛	腫瘍ウイルス関連疾患の疫学及び病理学的研究を行い，発ガンの実態を把握する	タイ ラオス	H16.8.6 ～ H16.8.27	科学研究費 補 助 金
講 師	川 田 均	「熱帯病媒介昆虫の防除に関する共同研究」に対する資料収集のための第22回昆虫学学会に参加	オーストラリア	H16.8.16 ～ H16.8.21	共同研究費
教 授	森 田 公 一	21世紀の公衆衛生と産業保険に関する中日国際シンポジウムに出席のため	中 国	H16.8.19 ～ H16.8.22	C O E
教 授	高 木 正 洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	インドネシア	H16.8.19 ～ H16.9.1	科学研究 補 助 金
教 授	神 原 廣 二	インドネシア・ロンボク及びスンバワ島におけるマラリア対策の実施	インドネシア	H16.8.21 ～ H16.9.4	受託研究費
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	インドネシア・ロンボク及びスンバワ島におけるマラリア対策の実施	インドネシア	H16.8.21 ～ H16.9.30	受託研究費
助 手	中 澤 秀 介	拠点大学方式による学術交流事業	ベトナム	H16.8.31 ～ H16.10.22	先方負担 ( J S P S )
教 授	神 原 廣 二	日独原虫病シンポジウムにて発表及び司会その後 Heinrich Hein 大学にて研修	ド イ ツ	H16.9.18 ～ H16.9.29	自 費
教 授	高 木 正 洋	ファンリファンチェット灌漑事業計画地域における疾病媒介蚊調査	ベトナム	H16.9.27 ～ H16.10.7	自 費
教 授	嶋 田 正 暁	タンザニアの住血吸虫症流行地の住民調査	ケ ニ ア タンザニア	H16.9.2 ～ H16.9.17	科学研究費 補 助 金
教 授	高 木 正 洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価に関する研究	ベトナム	H16.9.6 ～ H16.9.11	科学研究費 補 助 金

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
COE 研究員	砂原俊彦	東南アジアにおけるマラリア媒介蚊の生態に関する調査	ベトナム	H16.9.6 ～ H16.9.16	委任経理金
助手	井上真吾	デングウイルス及び日本脳炎ウイルス感染症の海外学術共同研究を行う	フィリピン	H16.9.17 ～ H16.10.7	科学研究費 補助金
助手	渡部幹次	「東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス心理学的」に関する研究打ち合わせ	タイ ラオス	H16.9.10 ～ H16.9.24	科学研究費 補助金
助手	パリダ・マンモハン	デングウイルス診断薬の実施研究	インド	H16.9.12 ～ H16.10.7	COE
教授	平山壽哉	第17回国際消化器病理，ヘコリバクター学会議に出席	オーストリア	H16.9.21 ～ H16.9.27	科学研究費 補助金
教授	森田公一	デング出血熱の調査	スリランカ	H16.9.21 ～ H16.9.26	COE
教授	森田公一	WHO・PVDI 合同のデング会議に出席	スイス	H16.10.3 ～ H16.10.8	先方負担 (WHO)
COE 研究員	砂原俊彦	マラリア媒介蚊の生態に関する共同研究	ベトナム	H16.10.4 ～ H16.12.5	COE
教授	森田公一	国際・新興シンポジウムに出席	インド	H16.10.9 ～ H16.10.14	インド研究所
助手	金田英子	雲南大学でのセミナーに参加	中国	H16.10.10 ～ H16.10.19	総合地球 科学研究所
教授	神原廣二	マラリアコントロール研究の最終とりまとめと今後のコントロールの方針決定	インドネシア	H16.10.17 ～ H16.10.28	受託研究費
教授	國井修	「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」に関する研究打ち合わせ	タイ	H16.10.17 ～ H16.10.26	COE
教授	平山壽哉	第7回韓日微生物学シンポジウムに出席・発表	韓国	H16.10.21 ～ H16.10.23	科学研究費 補助金
教授	高木正洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の調査研究打ち合わせ	ベトナム	H16.10.23 ～ H16.11.1	科学研究費 補助金
教授	岩崎琢也	小児神経疾患の疫学的・臨床的・病理学的解析の共同研究	タイ	H16.10.24 ～ H16.10.27	科学研究費 補助金

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助手	久保嘉直	国際レトロウイルス病理学会参加	カナダ	H16.10.31 ~ H16.11.5	大学運営費
教授	國井修	WHO本部にて「言語診断によるモニタリング」に関する会議にコンサルタントとして出席	スイス	H16.10.31 ~ H16.11.5	先方負担(WHO)
助手	鈴木章一	貧食細胞におけるNADPHoxidaseやMyeroxidaseの役割を明らかにすると共にその実験技術を習得する	ニュージーランド	H16.11.13 ~ H17.9.30	自費
助手	都野展子	ケニア西部のマラリア疾病媒介蚊生態調査	ケニア	H16.11.29 ~ H16.12.11	自費
助手	マンモハン・パリダ	第53回ASTMH学会に出席	アメリカ	H16.11.5 ~ H16.11.13	委任経理金
教授	平山謙二	第54回ASTMH学会に出席及び研究打ち合わせ	アメリカ	H16.11.7 ~ H16.11.12	科学研究費補助金
教授	神原廣二	インドネシアマラリアプロジェクトシンポジウムに参加。マタラムにて新しい薬剤導入による患者対策の実施	インドネシア	H16.11.28 ~ H16.12.9	受託研究費
教授	國井修	COEプログラム「熱帯症・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」に関する研究打ち合わせ	インドネシア	H16.11.28 ~ H16.12.9	COE
教授	高木正洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価を行う	インドネシア	H16.11.28 ~ H16.12.1	科学研究費補助金
教授	門司和彦	インドネシアマラリアプロジェクトシンポジウムに参加	インドネシア	H16.11.28 ~ H16.12.1	COE
助手	安高雄治	調査打ち合わせ及び資料収集	タイ	H16.11.30 ~ H16.12.18	先方負担
教授	平山壽哉	共同研究打ち合わせ及び第44回米国細胞生物学会出席と発表	アメリカ	H16.12.1 ~ H16.12.6	大学運営費
助手	金田英子	アジア・熱帯モンスーン地球における地域生態史の総合的研究のため	タイ	H16.12.5 ~ H16.12.27	先方負担
教授	岩崎琢也	タイにおける脳炎の病原体についてチュラロンコン大学との共同研究を行うため	タイ	H16.12.11 ~ H16.12.15	科学研究費補助金
教授	門司和彦	アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の総合的研究のため	タイ	H16.12.12 ~ H16.12.18	京都大学

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山謙二	タマサート大学との交流協定の準備を進めるため会議に出席し、チェンマイの研修病院の視察を行う	タイ	H16.12.12 ～ H16.12.17	C O E
助教授	大石和徳	血小板のマクロファージクリアランスアッセイの技術指導及びサンラザロ病院における大量免疫グロブリン療法のための事前調整	台湾	H16.12.12 ～ H16.12.15	科学研究費補助金
助手	都野展子	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	ケニア	H16.12.12 ～ H16.12.31	科学研究費補助金
助手	マンモハン・バリダ	不明脳炎の原因調査のため	ベトナム	H16.12.15 ～ H16.12.28	C O E
教授	平山謙二	第46回米国血液学会出席	アメリカ	H16.12.20 ～ H16.12.23	C O E
助手	都野展子	ケニア西部のマラリア疾病媒介蚊生態調査	ケニア	H17.1.1 ～ H17.3.20	自費
教授	平山壽哉	H.Pylori VacA 毒素の解析に関する調査	フィリピン	H17.1.12 ～ H17.1.14	受託研究費
教授	國井修	スマトラ沖震災後の熱帯病・新興感染症の発症状況に関する調査研究	スリランカ	H17.1.16 ～ H17.1.29	C O E
助教授	大石和徳	2005 Gorgas Expert Course 熱帯感染症専門研修に参加のため	ペルー	H17.1.15 ～ H17.1.30	科学研究費補助金
教授	青木克己	KEMRI における住血吸虫症プロジェクト	ケニア	H17.1.22 ～ H17.1.29	科学研究費補助金
助教授	鳥山寛	疫学及び病理学的調査	タイ	H17.1.28 ～ H17.2.13	科学研究費補助金
助手	渡部幹次	住血吸虫感染における免疫応答について研究	アメリカ	H17.1.23 ～ H17.3.27	他機関負担 (ヒューマンサイエンス財団)
助手	柳哲雄	マラリア薬剤耐性の起源と現状に関する研究	インドネシア	H17.1.29 ～ H17.2.10	科学研究費補助金
COE 研究員	砂原俊彦	国際緊急援助隊 (JICA 派遣)	インドネシア	H17.1.23 ～ H17.1.31	他機関負担 (JICA)
教授	高木正洋	国際緊急援助隊 (JICA 派遣)	インドネシア	H17.1.23 ～ H17.1.31	他機関負担 (JICA)



渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	神原 廣二	国際医療協力研究委託事業実施	インドネシア	H17.1.29 ～ H17.2.10	受託研究費
講師	上村 春樹	「マラリア薬剤耐性の起源と現状」に関する研究	インドネシア	H17.2.3 ～ H17.2.19	科学研究費補助金
助手	錦織 信幸	スマトラ島地震津波後の感染症流行対策基礎調整に基づき調査研究を実施	スリランカ	H17.2.13 ～ H17.2.23	科学研究費補助金
教授	國井 修	スマトラ島地震津波後の感染症流行対策基礎調整に基づき調査研究を実施	インドネシア	H17.2.14 ～ H17.2.21	科学研究費補助金
教授	高木 正洋	疾病媒介蚊の調査研究打ち合わせ	スリランカ インド	H17.2.18 ～ H17.3.1	科学研究費補助金
助手	井上 真吾	自然災害時における人材スキルの必要性についての調査	スリランカ	H17.2.19 ～ H17.3.5	科学研究費補助金
助手	中澤 秀介	熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H17.2.20 ～ H17.3.23	先方負担 (日本学術振興会)
教授	岩崎 琢也	トルコにおける多剤耐性結核の臨床病理学的調査	トルコ	H17.2.20 ～ H17.2.25	C O E
COE 研究員	砂原 俊彦	マラリア媒介蚊の生態に関する共同研究実施についての調査研究	ベトナム	H17.2.20 ～ H17.3.30	C O E
助手	金田 英子	アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の総合的研究	ラオス	H17.2.22 ～ H17.3.19	総合地球環境学研究所
教授	國井 修	タンザニアにおいて調査研究及び研究打ち合わせ	タンザニア	H17.2.26 ～ H17.3.14	C O E
教授	嶋田 雅暁	住血吸虫症と HIV/AIDS に関する疫学的データ収集と研究調査	ケニア	H17.2.27 ～ H17.3.15	C O E
教授	門司 和彦	①ヒューマンセキュリティーに関する研究 ②人類生態学に関する研究 打ち合わせ	ケニア	H17.2.27 ～ H17.3.14	科学研究費補助金 大学運営経費
講師	川田 均	ガンビエハマダラカを対象にした実験試験打ち合わせ及び試験地視察	タンザニア	H17.3.7 ～ H17.3.14	科学研究費補助金
講師	藤巻 康教	土壌媒介寄生虫病、熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策の調査研究	ベトナム	H17.3.6 ～ H17.3.19	J S P S

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	高木正洋	拠点大学方式による学術交流事業	ベトナム	H17.3.8 ~ H17.3.12	J S P S
教授	神原廣二	2箇所の保健所マラリアコントロール活動に新しい薬剤を導入した場合のコントロール効果を確認	インドネシア	H17.3.8 ~ H17.3.15	受託研究費
教授	平山謙二	ガーナ大学とリバプール大学において研究打ち合わせ	ガーナ イギリス	H17.3.15 ~ H17.3.25	C O E
教授	國井修	被災現場視察及び調査研究	タイ スリランカ	H17.3.13 ~ H17.3.21	先方負担 (文部科学省)
教授	岩崎琢也	エイズ患者における結核の調査	タイ	H17.3.21 ~ H17.3.25	C O E
講師	川田均	拠点大学方式における学術交流事業	ベトナム	H17.3.21 ~ H17.3.26	J S P S

## 8 外国人研究者の受け入れ

### 8.1 熱帯医学研究コース

本集団研修コース（熱帯医学研究）は、国際協力事業団（JICA）の委嘱により昭和58年度（1983年）から毎年おこなわれており、研修生を通して熱帯現地の研究者との関係を深め、新しい研究テーマを発掘する可能性を持つユニークなコースと認識されている。第21回目にあたる昨年度（平成15年度）、本コースを熱帯医学研究 としてリニューアルした。

リニューアルしたコースでは、従来の目的が技能研修であったものを、研究活動そのものを目的として研究の成果を直接開発に反映させることとし、募集要項で「研究を実施することによって、最新の医学知識や技術を習得させること」と謳っていたものを「熱帯地における保健医療問題を具体的に解決できる成果を研究によって得る」と変更した。

そのため、本コース研修生は必ず、対象国で解決すべき熱帯医学に関連した具体的な研究課題、これまでの自身の研究活動で得られたデータを持って来日することとし、応募書類に解決すべき課題と解決のための研究プロポーザルの添付を義務づけている。

平成16年の第22回もこの枠組みで行われた。

これまで本コースで研修を受けた者は現在研修中の者も含めて168人で、出身国は39ヶ国に及ぶ。コースの期間は開設当時の6ヶ月から9ヶ月、12ヶ月と次第に延長され、研修期間が12ヶ月となった平成10年からは従来の certificate に代わり diploma を授与することになり、より一層の質的向上を果たしている。

1月の入所式の後、3月初めまでの約6週間は熱帯医学研究所内の各部門・分野による共通講義が研修生全員に対して行われ、熱帯医学に関する総合的・基礎的知識が与えられる。その後、研修生は各専門分野に所属し、研修生と各分野が事前に共同で用意したプログラムに沿った研修と課題による研究に専念する。また、研修生全員が参加して他の大学や研究所への研修旅行が行われ、個別にはそれぞれの研究テーマに沿った学会、研究会、調査などへ参加している。

本年度は、アジアから中国が1名、ミャンマーが1名、オセアニアからフィジーが2名、アフリカからタンザニアが2名、ギニア、ケニア、ウガンダそれぞれ1名の、計9名の研修生が受け入れられ、中南米からの研修生はいなかった。

本年度の入所式は平成17年1月18日に挙行された。共通講義は1月20日から2月24日まで行われ、研修旅行は5月、京都大学ウイルス研究所、大阪大学微生物学研究所、国立感染症研究所に実施された。

研究成果発表は12月6日、diploma 授与は12月9日に予定されている。（文責：嶋田雅暁）

## 8.2 平成16年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
分子構造解析	Maria delCarmen Pruget	アルゼンチン	H16.4.1~ H17.3.31	外国人客員 研 究 員	ヒューマンサイ エンス振興財団
	Padira Manmohan	イ ン ド	H16.4.1~ H17.3.31	助 手	
	Afjal Hossain Khan	バングラディシュ	H16.4.1~ H17.3.30	COE研究員	
	Nguyen Minh Nga	ベトナム	H16.5.10~ H16.6.6		ベトナム国立 衛生研究所
	Trinh Tuan Viet	ベトナム	H16.5.10~ H16.6.6		ベトナム国立 衛生研究所
	Edward Gitau Matumbi Mathenge	ケ ニ ア	H16.6.17~ H17.3.31		
	Md Alimul Islam	バングラディシュ	H16.8.4~ H17.4.26	外国人客員 研 究 員	CREST
	Doao Hai Yen	ベトナム	H16.11.1~ H16.11.28		JSPS
	Le Nhat Minh	ベトナム	H16.11.1~ H16.11.28		JSPS
	Vu Thi Que Huong	ベトナム	H16.11.1~ H16.11.28		JSPS
	Cao Minh Thang	ベトナム	H16.11.8~ H16.12.5		JSPS
	Zamree Ismail	マレーシア	H16.11.19~ H16.12.20		感染症研究 センター
	A C Mishra	イ ン ド	H16.11.23~ H16.11.28		COE
	Farshad Guirakhoo	アメリカ	H16.11.23~ H16.11.27		COE
	Vijayamalar Balasubramaniam	マレーシア	H16.12.11~ H16.12.18		科学 研究 補 助 金
	Yuming Jin	中 国	H17.1.4~ H17.12.12	外国人受託 研 究 員	国際 協力 機 構
	Nemani Talemaitoga	フィジー	H17.1.4~ H17.12.12	外国人受託 研 究 員	国際 協力 機 構
	Basu Dev Pandey	ネパール	H17.2.6~ H17.2.19		COE
Akanitt Jitmittraphap	タ イ	H17.2.19~ H17.3.20		大学 運 営 費	
病原因子機能解析	Tran Thi My Trinh	ベトナム	H16.11.3~ H16.11.30		JSPS
	Bartholomew akanmori	ガ ナ	H16.11.22~ H16.11.29		COE
	Foda Fofana	ギニア	H17.1.4~ H17.12.12		国際 協力 機 構
感染細胞修飾機構	Lu Duc Dao	ベトナム	H16.11.10~ H16.12.7		JSPS
	Nguyen Van Tuan	ベトナム	H16.11.10~ H16.12.7		JSPS

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
	Ali Takadir Mtoro	タンザニア	H17.1.4 ~ H17.12.12	外国人受託 研究員	国際協力 機構
	Sukmawai Basuki	インドネシア	H17.3.14 ~ H17.3.30		科学研究 補助金
寄生行動制御	Nguen Thi Viet Hoa	ベトナム	H16.11.6 ~ H16.12.2		JSPS
感染症予防治療	Judith Marasigan Reyes	フィリピン	H16.8.9 ~ H17.8.21		COE
	Arturo Bacalzo Cabanban	フィリピン	H16.8.19 ~ H16.8.21		COE
	Vu Thi Thu Huong	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.12.22		JSPS
	Maureen Nakazibwe Mulungi	ウガンダ	H17.1.4 ~ H17.12.12	外国人受託 研究員	国際協力 機構
生物環境	Temu Emmanuel Audrey	タンザニア	H16.6.1 ~ H17.3.31	外国人客員 教授	
	Luu Len Loan	ベトナム	H16.11.7 ~ H16.11.28		JSPS
	Hoang Thuy Long	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Dang Duc Anh	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Nguyen Binh Minh	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Vu Shin Nam	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Phan Thi Nga	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Phan Le Thanh Huong	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Nghiem Kim Ha	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Le Thi Quynh Mai	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Truong Uyen Ninh	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Nguyen Thi Hong Hanh	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Doan Hanh Nhan	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Nguyen Thi Kim Tien	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Phan Van Tu	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Truong Xuan Lien	ベトナム	H16.11.24 ~ H16.11.28		JSPS
	Isaac Mwangi Kimani	ケニア	H17.1.4 ~ H17.12.12	外国人受託 研究員	国際協力 機構
社会環境	Hla Thein	フィジー	H17.1.4 ~ H17.12.12	外国人受託 研究員	国際協力 機構

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考	
疾病生態	Reidar k Lie	ノルウェー	H16.7.25~ H16.7.29	講師	倫理に関するコース 米国国立衛生研究所	
	David Wendier	アメリカ	H16.7.26~ H16.7.28			
	Ekhals Hamed Abdel-Hafeez Abdou	エジプト	H16.8.1~ H16.9.30			
	Zhongdao Wu	中国	H16.11.23~ H16.11.28			COE
	Walther Helmut Wernsdorfer	ドイツ	H16.11.23~ H16.11.29			COE
	Adriano Aguzzi	イタリア	H16.11.23~ H16.11.26			COE
	Thira Sirisanthana	タイ	H16.11.25~ H16.11.28			COE
	Darshano Wickramasinghe	スリランカ	H16.11.14~ H16.11.20			Ruhuna大学
	Norazah Ahmad	マレーシア	H16.12.12~ H16.12.19			マレーシア国立医学研究所
	Saw Wut Hmone	ミャンマー	H17.1.4~ H18.12.12			外国人受託 研究員
	Juntra Karbwang	タイ	H17.1.18~ H17.1.23		COE	
熱帯感染症研究センター	Boungnong Bouphe	ラオス	H16.4.6~ H16.4.9		私費	
	Nao Boutta	ラオス	H16.4.6~ H16.4.9		私費	
	Joseph Eliza Chilongani	タンザニア	H17.1.4~ H17.12.12	外国人受託 研究員	国際協力 機構	

## 9 研究成果の発表状況

### 9.1 研究業績

#### - 分子構造解析分野 -

- 4533 森田公一：狂犬病．今日の治療と看護（改定第2版）. 966 967, 2004
- 4534 森田公一：デング熱・デング出血熱．今日の治療と看護（改定第2版）. 967 968, 2004 .
- 4535 森田公一：ウイルス性出血熱．今日の治療と看護（改定第2版）. 968 970, 2004 .
- 4536 森田公一：ニパウイルス．からだの科学，新興再興感染症，p.114 117（増刊），日本論評社，2004
- 4537 森田公一：西ナイルウイルス感染症．臨床とウイルス，Vol 32：7 12，2004
- 4538 Edward Gitau Matumbi Mathenge, Maria del Carmen Parquet, Yasutomo Funakoshi, Seiji Houhara, Pooi Fong Wong, Akitoyo Ichinose, Futoshi Hasebe, Shingo Inoue, Kouichi Morita.: Fusion PCR generated Japanese encephalitis virus / dengue 4 virus chimera exhibits lack of neuroinvasiveness, attenuated neurovirulence, and a dual-flavi immune response in mice. Journal of General Virology. Vol. 85: 2503-2513, 2004.
- 4539 森田公一：ウエストナイル熱・ウエストナイル脳炎．ナースのための感染症対策マニュアル（監修：増田剛太），p72 73，2004
- 4540 森田公一：ヘニパウイルス感染症．人獣共通感染症（木村哲，喜田宏 編），p60 61，2004 .
- 4541 森田公一：セントルイス脳炎．人獣共通感染症（木村哲，喜田宏 編），p84 85，2004 .
- 4542 森田公一：ウエストナイル熱．人獣共通感染症（木村哲，喜田宏 編），p86 88，2004 .
- 4543 森田公一：デング熱・デング出血熱．人獣共通感染症（木村哲，喜田宏 編），p89 91，2004 .
- 4544 森田公一：カリフォルニア脳炎．人獣共通感染症（木村哲，喜田宏 編），p92 93，2004 .
- 4545 森田公一：ウエストナイル熱・脳炎 - 最近の動向 - ，LBEAM, Vol .16：1 4，2004 .
- 4546 森田公一：日本脳炎．感染症，朝倉書店（竹田美文，木村哲編集）149 152，2004 .
- 4547 森田公一：Nipah ウイルス感染症．化学療法の領域，Vol 20：187 190，2004 .
- 4548 森田公一：人と動物の共通感染症，ブタと人（日本脳炎・ニパウイルス）. Pharma Medica, Vol 22：39 42，2004 .
- 4549 森田公一：Nipah ウイルス感染症．Virus Report, Vol .1：69 73，2004 .
- 4550 森田公一：ウエストナイル熱・脳炎．日本内科学会誌，Vol 93：2328 2333 . 2004 .
- 4551 森田公一：感染症の診断・治療ガイドライン2004，日本脳炎 .日本医師会雑誌 . 132：

148 151, 2004.

- 4552 森田公一：ウエストナイル熱．東京小児科医会報，Vol 23：19 23，2004．
- 4553 森田公一：ニパウイルス．Medical Science Digest, Vol 31：19 22，2005．
- 4554 森田公一：デング熱，デング出血熱．今日の治療指針2005，p143，2005．
- 4555 森田公一：国際感染症，日本脳炎．臨床看護，Vol 31，169 172，2005．
- 4556 森田公一：西ナイル熱・脳炎 - 最近の動向．長崎市医師会報，Vol 39，14 16，2005
- 4557 Wei-Feng Tang, Yuki Eshita, Masayuki Tadano, Kouichi Morita and Yoshihiro Makino.: Molecular basis for adaptation of a chimeric dengue type 4/Japanese encephalitis virus to vero cells. Microbiol. Immunol., Vol. 49: 285-294, 2005.
- 4558 森田公一：バイオセーフティー．標準微生物学（第9版），山西弘一 監修，医学書院，2005
- 4559 森田公一：ウエストナイル熱に対するワクチン．臨床とウイルス，Vol 33，28 32．2005
- 4560 森田公一：ウエストナイル熱．モダン フィジシャン，Vol 25，523 526．2005．
- 4561 森田公一：ウエストナイル熱とワクチン開発の現状．感染症，Vol 35，91 96．2005．
- 4562 森田公一：フラビウイルスによる疾患（ウエストナイル熱，デング熱を中心に）．カレントセラピー，Vol 27，722 724，2005．
- 4563 Manmohan Parida, Kouhei Horioko, Hiroyuki Ishida, Paban Kumar Dash, Parag Saxena, Asha Mukul Jana, Mohammed Alimul Islam, Shingo Inoue, Norimitsu Hosaka and Kouichi Morita.: Rapid Detection and Differentiation of Dengue Virus Serotypes by a Real-Time Reverse Transcription-Loop-Mediated Isothermal Amplification Assay. J. Clin. Microbiol. Vol. 43: 2895-2903, 2005.
- 4564 Celia C. Carlos, Kazunori Oishi, Maria T. D. D. Cinco, Cynthia A. Mapua, Shingo Inoue, Deu John M. Cruz, Mary Ann M. Pancho, Carol Z. Tanig, Ronald R. Matias, Kouichi Morita, Filipinas F. Natividad, Akira Igarashi, and Tsuyoshi Nagatake.: Comparison of Clinical Features and Hematologic Abnormalities Between Dengue Fever and Dengue Hemorrhagic Fever Among Children in the Philippines. Am. J. Trop. Med. Hyg., Vol. 73, 435-440, 2005.
- 4565 森田公一：「ウエストナイル脳炎」，Infectious Disease Report 2005，No28，2005．
- 4566 Fuxun Yu, Mai Quynh Le, Shingo Inoue, Hong Thi Cam Thai, Futoshi Hasebe, Maria del Carmen Parquet, Kouichi Morita.: Evaluation of Inapparent Nosocomial Server Acute Respiratory Syndrome Coronavirus Infection in Vietnam by use of Highly Specific Recombinant Truncated Nucleocapsid Protein-Based Enzyme-Linked Immunosorbent Assay. Clinical



and Diagnostic Laboratory Immunology. Vol. 12, 848-854, 2005.

- 4567 Leonora T.D. Salda, Maria D.C.Parquet, Ronald R. Matias, Filipinas F. Natividad, Nobuyuki Kobayashi, Kouichi Morita. Molecular Epidemiology of dengue 2 viruses in the Philippines: Genotype shift and local evolution. Am. J. Trop. Med. Hyg. Vol. 73, 796-802, 2005.
- 4568 Nawa M., Takasaki T., Ito M., Inoue S., Morita K., and Kurane I. Immunoglobulin A Antibody Responses in Dengue Patients: a Useful Marker for Sero diagnosis of Dengue Virus Infection. Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology. Vol.12, 1235-1237, 2005.
- 4569 森田公一：「ウエストナイルウイルス」, Drug Delivery System. Vol 20<sup>(5)</sup> . 556 557 , 2005 .

- 病原因子機能解析分野 -

- 4570 Harada, K., Ohba, K., Ozaki, S., Isse, K., Hirayama, T., Wada, A., Nakanuma, Y.: Peptide antibiotic human  $\beta$ -defensin-1 and-2 contribute to antimicrobial defense of the intrahepatic biliary tree. (2004) Hepatology 40: 925-932
- 4571 Isomoto, H., Mukae, H., Ishimoto, H., Date, Y., Nishi, Y., Inoue, K., Wada, A., Hirayama, T., Nakazato, M., Kohno S.: Elevated concentrations of  $\alpha$ -defensins in gastric juice of patients with *Helicobacter pylori* Infection. (2004) Am. J. Gastroenterol. 99: 1916-1923
- 4572 Yahiro, K., Wada, A., Yamasaki, E., Nakayama, M., Nishi, Y., Hisatsune, J., Morinaga, N., Sap, J., Noda, M., Moss, J., Hirayama, T.: Essential domain of receptor tyrosine phosphatase  $\beta$ (RPTP $\beta$ ) for interaction with *Helicobacter pylori* vacuolating cytotoxin. (2004) J. Biol. Chem. 279: 51013-51021
- 4573 Vora P, Youdim A, Thomas LS, Fukata M, Tesfay SY, Lukasek K, Michelsen KS, Wada A, Hirayama T, Arditi M, Abreu MT: Beta-defensin-2 expression is regulated by TLR signaling in intestinal epithelial cells. (2004) J Immunol. 173: 5398-405
- 4574 Chiba S, Sugiyama T, Yonekura K, Tanaka S, Matsumoto H, Fujii N, Yokota S, Hirayama T.: An antibody to VacA of *Helicobacter pylori* in the CSF of patients with Miller-Fisher syndrome. (2004) Neurology. 63: 2184-2186
- 4575 Wada A, Yamasaki E, Hirayama T.: *Helicobacter pylori* Vacuolating Cytotoxin, VacA, Is Responsible for Gastric Ulceration. (2004) J Biochem (Tokyo). 136: 741-746
- 4576 Ehara M, Nguyen B. M, Nguyen D.T, Toma C, Higa N and Iwanaga M.: Drug susceptibility and its genetic basis in epidemic *Vibrio cholerae* O1 in Vietnam. (2004) Epidemiology. Infect. 132: 595-600.

- 4577 Iwanaga M, Toma C, Miyazato T, Insisiengmay S, Nakasone N and Ehara M.: Antibiotic resistance conferred by a class I integron and SXT constin in *Vibrio Cholerae* O1 strains isolated in Laos. (2004) *Antimicrobial Agents and Chemotherpy*, 48: 2364-2369. 2004.
- 4578 Nishi Y, Isomoto H, Mukae H, Ishimoto H, Wen CY, Wada A, Ohnita K, Mizuta Y, Murata I, Hirayama T, Nakazato M, Kohno S.: Concentrations of alpha-and beta-defensins in gastric juice of patients with various gastroduodenal diseases. (2005) *World J Gastroenterol*. 11: 99-103
- 4579 Wada A, Wang AP, Isomoto H, Satomi Y, Takao T, Takahashi A, Awata S, Nomura T, Fujii Y, Kohno S, Okamoto K, Moss J, Millan JL, Hirayama T.: Placental and intestinal alkaline phosphatases are receptors for *Aeromonas sobria* hemolysin. (2005) *Int J Med Microbiol*. 294: 427-435
- 4580 Yahiro K, Shirasaka D, Tagashira M, Wada A, Morinaga N, Kuroda F, Choi O, Inoue M, Aoyama N, Ikeda M, Hirayama T, Moss J, Noda M.: Inhibitory effects of polyphenols on gastric injury by *Helicobacter pylori* VacA toxin. (2005) *Helicobacter*. 10: 231-239

**- 感染細胞修飾機構分野 -**

- 4581 Huaman M. C., Sato Y., Aguilar J. L., Terashima A., Guerra H., Gotuzzo E., Kanbara H.: Gelatin particle indirect agglutination and enzyme-linked immunosorbent assay for diagnosis of strongyloidiasis using *Strongyloides venezuelensis* antigen. *Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene* 97: 535-538, 2003.
- 4582 Huaman M. C., Roncal N., Nakazawa S., Ton T. A. L., Gerena L., Garcia C., Solari L., Magill A. J., Kanbara H.: Polymorphism of the *Plasmodium falciparum* multidrug resistance 1 and chloroquine resistance transporter genes and in vitro susceptibility to aminoquinolines in isolates from the Peruvian Amazon. *American Journal of Tropical Medicine & Hygiene* 70: 461-466, 2004.
- 4583 Tsuboi T., Kaneko O., Cao Y.-M., Tachibana M., Yakushijin Y., Nagao T., Kanbara H., Torii M.: A rapid genotyping method for the vivax malaria transmission-blocking vaccine candidates, Pvs 25 and Pvs 28. *Parasitology International* 53: 211- 216, 2004.
- 4584 Huaman M. C., Yoshinaga K., Suryanatha AAN, Suarsana N., Kanbara H.: Short Report: Polymorphisms in the chloroquine resistance transporter gene in *Plasmodium falciparum* isolates from Lombok, Indonesia. *American Journal of Tropical Medicine & Hygiene* 71: 40-42, 2004.
- 4585 Jongwutiwes S., Putaporntip C., Iwasaki T., Sata T., Kanbara H.: Naturally acquired *Plasmodium knowlesi* malaria in human, Thailand. *Emerging Infectious Diseases* 10 (12) :

2211-2213, 2004.

- 4675 Nagamune K., Acosta-Serrano A., Uemura H., Brun R., Kunz-Renggli C., Maeda Y., Ferguson M. A. J. and Kinoshita T.: Surface Sialic Acids Taken from the Host Allow Trypanosome Survival in Tsetse Fly Vectors. *J. Exp. Med.* 199, 1445-145, 2004.
- 4676 Alcantara-Neves NM, Ribeiro-dos-Santos R, Amor AL, Uemura H, Silva-Neto SJ, Eichinger D, Pontes-de-Carvalho L.: Parasite-derived *trans*-sialidase binds to heart tissue in *Trypanosoma cruzi*-infected animals. *Microb Pathog.* 37, 273-278, 2004.

- 寄生行動制御分野 -

- 4586 Sithithaworn P., Srisawangwong T., Tesana S., Daenseekaew W., Sithithaworn J., Fujimaki Y., Aoki Y.: Epidemiology of *Strongyloides stercoralis* in north-east Thailand: application of the agar plate culture technique compared with the enzyme-linked immunosorbent assay. *Trans. R. Soc. Trop. Med. Hyg.* 97: 398-402, 2003.
- 4587 Kassu A., Mohammed A., Fujimaki Y., Moges F., Bias D., Mekonnen F., Mengistu G., Yamato M., Wondmikun Y., Ota F.: Serum IgE levels of tuberculosis patients in a tropical set up with high prevalence of HIV and intestinal parasitoses. *Clinical and Experimental Immunology.* 138: 122-127, 2004.
- 4588 Quyen D. T., Irei A.V., Sato Y., Ota F., Fujimaki Y., Sakai T., Kunii D., Khan N C., Yamamoto S.: Nutritional factors, parasite infection and allergy in rural and suburban Vietnamese school children. *J. Medical Investigation.* 51: 171-177, 2004.
- 4589 Fujimaki Y., Sithithaworn P., Mitsui Y., Aoki Y.: Delayed macrofilaricidal activity of diethylcarbamazine against *Brugia pahangi* in Mongolian jirds. *J. Helminthol.*, 78, 293-295, 2004.
- 4590 Watanabe K., Kikuchi M., Ohno A., Mohamed T., Nara T., Ubalee R., Senba M., Iwasaki T., Chen H., Aoki Y., Hirayama K.: The miniature pig: a unique experimental model for *Schistosoma japonicum* infection. *Parasitology International.* 53, 293-299, 2004.
- 4591 Aoki Y., Fujimaki Y., Tada I.: Basic studies on filaria and filariasis. *Asian Parasitology Vol 3 Filariasis in Asia and Western Pacific Island* Edited by Kimura E., Rim H-J., Dejian S., Weerasooriya M. V. 131-136, 2004.
- 4592 Nagayama Y., Watanabe K., Niwa M., Mclachlan S.M., Rapoport B.: *Schistosoma mansoni* and alpha-Galactosylceramide: Prophylactic effect of Th 1 Immune suppression in a mouse model of Grave's hyperthyroidism. *J. Immunology* 173, 2167-2173, 2004.
- 4593 青木克己：線虫症，吸虫症，糸虫症，ダニ症．今日の治療と看護．第2版．南江堂，1007 1017，2004．
- 4594 青木克己：現代寄生虫病事情 住血吸虫症 貝の脅威 .医学のあゆみ．209(6)，387 392，

2004 .

4595 青木克己：鞭虫症 今日の治療指針 医学書院 2005年版，182，2005 .

- 病変発現機序分野 -

- 4596 Ohata K., Keisuke Hamasaki K., Toriyama K., Ishikawa H., Nakao K. and Eguchi K.: High viral load is a risk factor for hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis B virus infection. *J Gasrtoen Hepatol*, 19: 670-675, 2004.
- 4597 堀江一郎，大畑一幸，竹下茂之，桑原広永，松本幸二郎，佐伯 哲，福田麻里子，喜多由子，石川博基，濱崎圭輔，中尾一彦，鳥山 寛，江口勝美：Tegafur uracil( UFT ) によるトランスアミナーゼ正常の肝予備能低下を認めた一例．長崎医学会雑誌，79：16，2004 .
- 4598 Hayasaka D, Gritsun TS, Yoshii K, Ueki T, Goto A, Mizutani T, Kariwa H, Iwasaki T, Gould EA, Takashima I.: Amino acid changes responsible for attenuation of virus neurovirulence in an infectious cDNA clone of the Oshima strain of tick-borne encephalitis virus. *J Gen Virol*, 85: 1007-1018, 2004.
- 4599 Fujikawa K., Ohata K., Honda T., Miyazoe S., Ichikawa T., Ishikawa H., Hamasaki K., Nakao K., Toriyama K. and Eguchi K.: Nonalcoholic steatohepatitis with improved hepatic fibrosis after weight reduction. *Int Med*, 43: 289-294, 2004.
- 4600 Fujita S., Buziba N., Kumatori A., Senba M., Yamaguchi A. and Toriyama K.: Early stage of Epstein-Barr virus lytic infection leading to the “Starry Sky” pattern formation in endemic Burkitt lymphoma. *Arch Pathol Lab Med*, 128: 549-552, 2004.
- 4601 Suzuki S., Honma K., Matsuyama T., Suzuki K., Toriyama K., et al.: Critical roles of interferon regulatory factor 4 in CD 11 BhighCD 8 $\alpha$ - dendritic cell development. *Proc Natl Acad Sci USA*, 101: 8981-8986, 2004.
- 4602 Iwasaki T, Inoue S, Tanaka K, Sato Y, Morikawa S, Hayasaka D, Moriyama M, Ono T, Kanai S, Yamada A, Kurata T.: Characterization of Oita virus 296/1972 of Rhabdoviridae isolated from a horseshoe bat bearing characteristics of both lyssavirus and vesiculovirus. *Arch Virol*, 149: 1139-1154, 2004.
- 4603 Hayasaka D, Yoshii K, Ueki T, Iwasaki T, Takashima I.: Sub-genomic replicons of Tick-borne encephalitis virus. *Arch Virol*, 149: 1245-1256, 2004.
- 4604 Yoshii K, Konno A, Goto A, Nio J, Obara M, Ueki T, Hayasaka D, Mizutani T, Kariwa H, Takashima I.: Single point mutation in tick-borne encephalitis virus prM protein induces a reduction of virus particle secretion. *J Gen Virol*, 85: 3049-3058, 2004.
- 4605 Yoshii K, Hayasaka D, Goto A, Kawakami K, Kariwa H, Takashima I.: Packaging the

replicon RNA of the Far-Eastern subtype of tick-borne encephalitis virus into single-round infectious particles: development of a heterologous gene delivery system. *Vaccine*, 23: 3946-3956, 2005.

**- 感染症予防治療分野 -**

- 4606 Greiner LL, Watanabe H, Phillips NJ, Shao J, Morgan A, Zaleski A, Gibson BW, Apicella MA.: Nontypeable *Haemophilus influenzae* strain 2019 produces a biofilm containing N-acetylneuraminic acid that may mimic sialylated O-linked glycans. *Infection and Immunity*. 72: 4249-4260, 2004.
- 4607 Nagayama Y, McLachlan SM, Rapoport B, Oishi K.: Graves' hyperthyroidism and the hygiene hypothesis in a mouse model. *Endocrinology*. 145: 5075-5079, 2004.
- 4608 Motomura K, Toyoda N, Oishi K, Sato H, Nagai S, Hashimoto S, Tugume SB, Enzama R, Mugewa R, Mutuluza CK, Mugyeyi P, Nagatake T, Matsushima K.: Identification of a host gene subset related to disease prognosis of HIV-1 infected individuals. *International Immunopharmacology*. 4: 1829-1836, 2004.
- 4609 Saito M, Oishi K, Inoue S, Dimaano EM, Alera MT, Robles AM, Estrella BD Jr, Kumatori A, Moji K, Alonzo MT, Buerano CC, Matias RR, Morita K, Natividad FF, Nagatake T.: Association of increased platelet-associated immunoglobulins with thrombocytopenia and the severity of disease in secondary dengue virus infections. *Clinical and Experimental Immunology*. 138: 299-303, 2004.
- 4610 Saha SK, Baqui AH, Darmstadt GL, Ruhulamin M, Hanif M, El Arifeen S, Oishi K, Santosham M, Nagatake T, Black RE.: Invasive *Haemophilus influenzae* type B diseases in Bangladesh, with increased resistance to antibiotics. *The Journal of Pediatrics*. 146: 227-233, 2005.
- 4611 Asoh N, Masaki H, Watanabe H, Watanabe K, Mitsusima H, Matsumoto K, Oishi K, Nagatake T.: Molecular characterization of the transmission between the colonization of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* to human and environmental contamination in geriatric long-term care wards. *Internal Medicine*. 44: 41-45, 2005.
- 4612 Motomura K, Masaki H, Terada M, Onizuka T, Furumoto A, Asoh N, Oishi K, Nagatake T.: Usefulness of the Japanese Respiratory Society guidelines for community pneumonia: a retrospective analysis of community-acquired pneumonia between 2000 and 2002 in a general hospital. *Respirology*. 10: 208-214, 2005.
- 4613 Saito W, Kawakami K, Kuroki R, Matsuo H, Oishi K, Nagatake T.: Pulmonary anisakiasis presenting as eosinophilic pleural effusion. *Respirology*. 10: 261-262, 2005.

- 4614 大石和徳：成人における肺炎球菌ワクチンの今日的位置づけ．呼吸．23：257 263，2004．
- 4615 石田正之，永武 毅：今月の主題 ワクチン - その開発と将来展望 我が国で使用すべきワクチンとその展望 肺炎球菌ワクチン．臨床検査．48：423 429，2004．
- 4616 土橋佳子，水谷玲子，永武 毅：肺炎球菌肺炎をめぐる新しい展開 肺炎球菌の病原性．日本胸部臨床．63：423 430，2004．
- 4617 小山和彦，永武 毅：6．免疫学的検査 - ウィルス抗原・抗体 ムンプスウィルス抗原，抗体．Modern Physician．24：850 851，2004．
- 4618 小山和彦，永武 毅：6．免疫学的検査 - ウィルス抗原・抗体 ポリオウィルス抗原，抗体．Modern Physician．24：866 867，2004．
- 4619 小山和彦，永武 毅：6．免疫学的検査 - ウィルス抗原・抗体 コクサッキーウィルス抗原，抗体．Modern Physician．24：868 869，2004．
- 4620 大石和徳：抗菌薬をめぐるコントラバーシ 呼吸器感染症にニューキノロン薬を first choice にするか．医学のあゆみ．209：635 639，2004．
- 4621 渡邊 浩：抗菌薬をめぐるコントラバーシ 急性気管支炎に抗菌薬は必要か 必要とする立場から．医学のあゆみ．209：616 617，2004．
- 4622 麻生憲史：トピックス *Rhodococcus equi*．検査と技術．32：551 553，2004．
- 4623 増田剛太，大石和徳：我が国における輸入感染症としての熱帯病．Tropical Medicine and Health．32：207 208，2004．
- 4624 麻生憲史：タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討．Tropical Medicine and Health．32：209 211，2004．
- 4625 真崎宏則：特集 薬剤耐性菌感染症の抑制と治療 薬剤耐性菌の病原性と抑制策・治療策 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)．感染と抗菌薬．7：159 164，2004．
- 4626 渡邊 浩：高齢者感染症のすべて 高齢者感染症の病原体 *Haemophilus influenzae*，*Moraxella catarrhalis*．化学療法の領域．20：88 93，2004．
- 4627 真崎宏則：高齢者感染症のすべて 高齢者感染症の特徴 施設内感染対策．化学療法の領域．20：36 42，2004．
- 4628 大石和徳：SARS の臨床像．現代医療．36：2250 2255，2004．
- 4629 大石和徳：知っておきたい呼吸器感染症 SARS．呼吸器科．6：1 6，2004．
- 4630 大石和徳：肺炎球菌の診断と治療 - 新しい流れ 新しいウィルス性肺炎：SARS，鳥インフルエンザ．成人病と生活習慣病．34：1342 1347，2004．
- 4631 大石和徳：呼吸器感染症研究の最前線 肺炎球菌の病原性因子．最新医学．59：2543 3546，2004．

- 4632 大石和徳, 斎藤麻理子: 急性デングウイルス二次感染症において PAIgG, PAIgM の増加は血小板減少機序および重症度と相関する. VIRUS REPORT . 1 : 74-80, 2004 .
- 4633 石田正之, 古本朗嗣, 山領 豪, 大石和徳, 永武 毅, 柳 哲雄, 神原廣二: インド渡航にてランブル鞭毛虫, クリプトスポリジウム, プラストシスチスの3原虫感染を認めた1例. 日本臨床寄生虫学会誌 . 15 : 109-111, 2004 .

- エイズ感染防御分野 -

- 4634 Y.Kubo, A. Ishimoto, T. Ono, H. Yoshii, C. Tominaga, C. Mitani, H. Amanuma, and N. Yamamoto: Determinant for the inhibition of ecotropic murine leukemia virus infection by N-linked glycosylation of the rat receptor. Virology 330: 82-91, 2004.
- 4635 M. Katane, R. Fujita, E. Takao, Y. Kubo, Y. Aoki, and H. Amanuma: An essential role for the His-8 residue of the SDF-1 a-chimeric, tropism-redirected Env protein of the Moloney murine leukemia virus in regulating postbinding fusion events. J. Gene Med. 6: 260-267, 2004.
- 4636 Y. Kubo, A. Ishimoto, H. Amanuma, and N. Yamamoto: Control of membrane fusion activity by the C-terminal tail of retroviral envelope glycoprotein. Recent Res. Devel. Virol. 6: 1-12, 2004.

- 生物環境分野 -

- 4637 Suwonkerd, W., Tsuda, Y., Overgaard, H. J., Chawprom, S., Tuno, N., Prajakwong, S. & Takagi, M. : Changes in malaria vector densities over a twenty-three year period in Mae Hong Son Province, Northern Thailand. Southeast Asian J. Trop. Med. Pub. Hlt. 35(2): 316-324, 2004.
- 4638 Argueta, T. B. O., Kawada, H. & Takagi, M.: Spatial repellency of metofluthrin-impregnated multilayer paper strip against *Aedes albopictus* under outdoor conditions, Nagasaki, Japan. Med. Entomol. Zool. 55(3): 211-216, 2004.
- 4639 Kawada, H., Maekawa, Y., Tsuda, Y., & Takagi, M.: Laboratory and field evaluation of spatial repellency with metofluthrin-impregnated paper strip against mosquitoes in Lombok Island, Indonesia. J. Am. Mosq. Contr. Assoc. 20(3): 292-298, 2004.
- 4640 Kawada, H. & Takagi, M.: Photoelectric sensing device for recording mosquito host-seeking behavior in the laboratory. J. Med. Entomol. 41(5): 873-881, 2004.
- 4641 Argueta, T.B.O., Kawada, H., Sugano, M., Kubota, S., Shono, Y., Tsushima, K. & Takagi, M.: Comparative insecticidal efficacy of a new pyrethroid, metofluthrin, against colonies of Asian *Culex quinquefasciatus* and *Culex pipiens pallens*. Med. Entomol. Zool. 55(4): 289-294, 2004.
- 4642 Kawada, H., Maekawa, Y., Tsuda, Y. & Takagi, M.: Trial of spatial repellency of

metofluthrin-impregnated paper strip against *Anopheles* and *Culex* in shelters without walls in Lombok, Indonesia. J. Am. Mosq. Contr. Assoc. 20(4): 434-437, 2004.

- 4643 Somboon, P., Thongwat, D., Choochote, W., Walton, C. & Takagi, M.: Crossing experiments of *Anopheles minimus* species C and putative species E. J. Am. Mosq. Contr. Assoc. 21(1) : 5-9, 2005.

- 社会環境分野 -

- 4644 Susumu Tanimura and Tsutomu Mizota. : A graphic tool for displaying regional specialization coefficients. Japanese Journal of Computer Science, Vol. 9, No. 1, pp. 5-11, December 2004.
- 4645 Susumu Tanimura and Tsutomu Mizota: Regional difference in specialization coefficients of physicians in Nagasaki, Japan. Acta Medica Nagasakiensia, Vol. 49, pp. 99-105, September 2004.
- 4646 谷村 晋, 溝田 勉: 保健指標の WebGIS . コンピュータサイエンス , Vol 9 , No .1 , pp .19 26 , 12月 , 2004 .
- 4647 谷村 晋, 溝田 勉: 感染症対策における地理情報科学 ( GIS ) アプローチ . 保健の科学 , Vol 46 , pp 457 462 , 6月 , 2004 .
- 4648 Liang Qin, Hueiwang Jeng, Yasuyuki Rakue and Tsutomu Mizota: A deficient public health system as a contributing cause of severe acute respiratory syndrome (SARS) epidemic in mainland China..The southeast Asian journal of tropical medicine and public health, Vol. 36, No. 1, pp. 213-216.
- 4649 Takeshi Yoda, Yasuyuki Rakue, Charnchudhi Chanyasanha, Tsutomu Mizota: The effect of environmental infections on children's Growth in Developing Countries. Journal of Public Health vol. 34, No. 3, 2004.
- 4650 Takeshi Yoda, Yasuyuki Rakue, Tsutomu Mizota, Sornchai Looareesuwan: The efficacy of anti-malarial drugs against Plasmodium vivax on the Thailand-Myanmar border. The Journal of Tokyo medical University vol. 63, No. 2, 2005

- 疾病生態分野 -

- 4651 Higo H, Miura S, Horio M, Mimori T, Hamano S, Agatsuma T, Yanagi T, Cruz-Reyes A, Uyema N, Rojas de Arias A, Matta V, Akahara H, Hirayama K, Takeuchi T, Tada I and Himeno K.: Genotypic variation among lineages of *Trypanosoma cruzi* and its geographic aspects. Parasitology International 53: 337-344, 2004.
- 4652 Hirayama Kenji: Immunogenetic analysis of post-schistosomal liver fibrosis. Parasitology International 53(2): 193-196, 2004.



- 4653 Zhang M, Ishii K, Hisaeda H, Murata S, Chiba T, Tanaka K, Li Y, Obata, C, Furue M and Himeno K.: Ubiquitin-fusion degradation pathway plays an indispensable role in naked DNA vaccination with a chimeric gene encoding a syngeneic cytotoxic T lymphocyte epitope of melanocyte and green fluorescent protein. *Immunology* 112(4): 567-74, 2004.
- 4654 Onishi K, Li Y, Ishii K, Hisaeda H, Tang L, Duan X, Dainichi T, Maekawa Y, Katunuma N and Himeno K.: Cathepsin L is crucial for a Th1-type immune response during *Leishmania major* infection. *Microbes Infect.* 6(5): 468-474, 2004.
- 4655 Kenji Hirayama and Juntra Karbwang: Invitation to the Forum for Ethical Review Committees in Asia and Western Pacific Region (FERCAP). *Rinsyo Hyoka (Clin Eval)* 31(2): 443-447, 2004.  
( FERCAP の理念と活動 - アジア西太平洋地域倫理委員会フォーラム - . 臨床評価 : 31(2) : 443 447 , 2004 )
- 4656 平山謙二 : Chagas 病 - 中南米の厄病神 医学のあゆみ 210(3) : 222 227 , 2004 .
- 4657 平山謙二 : よくみられる吸虫症の疑いから治療まで [ 寄生虫症の実地診療 ], 特集 寄生虫症とペット病 - 新たな認識と実地診療 , 日医雑誌 131(11) : 1734 1738 , 2004 .
- 4658 平山謙二 : 中近東・アフリカでかかる寄生虫症 . 治療86(10) : 129 133 , 2004 .
- 4659 Kenji Hirayama: The war against the regional disease (Schistosomiasis japonica) History of the eradication of schistosomiasis in Japan. *Schistosomiasis in Asia. Asian Parasitology. Vol.5*, Ed by Ming-gang Chen, Xiao-nong Zhou, Kenji Hirayama. pp. 195-276, 2005, Published by AAA Committee The Federation of Asian Parasitologists, Department of Infection and Host Defense, Chiba University Graduate School of Medicine.
- 4660 平山謙二 : 住血吸虫症 : 2005 Today's Therapy , 今日の治療指針 , Ed by : 山口徹 , 北原光夫 , p .189 , 医学書院 , 2005 .
- 熱帯感染症研究センター -**
- 4661 Oishi K, Honda S, Takamura N, Kusano Y, Abe Y, Moji K, Takemoto T, Tahara Y, Aoyagi K. : Secular Trends of Sizes at Birth in Japanese Healthy Infants Born between 1962 and 1988. *J Physiol Anthropol Appl Human Sci* 23: 155-61, 2004.
- 4662 Yamamoto T, Hamada Y, Dotse AY, Ataka Y, Moji K. : A simulation sheds a light on the present HIV epidemic. *Tropical Medicine and Health* 32(3): 249-251, 2004.
- 4663 中尾優子 , 門司和彦 , 大石和代 , 松尾奈美子 , Mahmudur Rahman, Meejady Sabrina Flora , 後藤利江 : バングラデシュ・ダムライ郡の分娩・授乳状況 - 妊婦 , 乳幼児をもつ母親 , 伝統的産婆 , 地域家族福祉補助員 , 看護師への集団面接結果 - 民族衛生 . 70(3) : 112 122 , 2004 .

- 4664 Ohashi J, Naka I, Ohtsuka R, Inaoka T, Ataka Y, Nakazawa M, Tokunaga K, and Matsumura Y: Molecular polymorphism of ABO blood group gene in Austronesian and Non-Austronesian populations in Oceania. *Tissue Antigens*, 63: 355-361, 2004.
- 4665 國井 修：世界における保健医療援助の潮流と日本の役割・課題．日本国際保健医療学会誌，19(1)：39，2004．
- 4666 國井 修：国際保健 世界のために働くということ．医学と福音，56(10)；45-46，2004．
- 4667 國井 修：アフリカに馳せる夢．下野教育，栃木県連合教育会，第717号；12-15，2004．
- 4668 國井 修，錦織信幸，門司和彦：インド洋津波後の感染症アウトブレイク研究の意義．科学，岩波書店75(3)：274-276，2005．
- 4669 國井 修：国際保健医療協力の現状「国際保健医療のお仕事」(2刷) 南山堂 23-30，2005年2月刊
- 4670 國井 修：すべての道は国際協力につながる「国際保健医療のお仕事」(2刷) 南山堂 187-199 2005年2月刊
- 4671 國井 修：持続可能な開発と健康 安全医学，第2巻第1号，43-49，2005．
- 4672 國井 修：国際協力の担い手 日本国際保健医療学会編．国際保健医療学．第2版 杏林書院，91-98，2005．
- 4673 國井 修：緊急時における人口 - 課題・対応策 - ．人口と開発，第90号：14-19，2005．
- 4674 國井 修：災害地における感染症対策 - スマトラ島沖地震・津波に対する対策と課題 - ．感染症，35(5)：1-12，2005．

## 9.2 学会発表演題

- 1) 川辺芳子, 鈴木純子, 益田公彦, 原 弘道, 齋藤若菜, 永井英明, 赤川忍のぶ, 町田和子, 倉島篤行, 四元秀毅, 森 亨, 原田登之, 樋口一恵: 結核感染診断キット QuantiFERON-TB の有用性の検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P107
- 2) 池田秀樹, 小山 純, 大石和徳, 永武 毅, 鬼塚正三郎: 肺炎球菌の気道免疫における樹状細胞の動態と特異抗体( PspA 抗体, CPS 抗体 )誘導についての検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P109
- 3) 渡邊 浩, 大石和徳, 永武 毅: N-Acetylneuraminic Acid に関連した Nontypeable *Haemophilus Influenzae* のバイオフィルム産生についての基礎的検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P109
- 4) 小山 純, 鬼塚正三郎, 栗田伸一, 大石和徳, 永武 毅: インフルエンザ菌外膜蛋白抗原気管内反復接種による獲得免疫誘導. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P157
- 5) 光嶋博昭, 真崎宏則, 鬼塚智子, 倉本剛史, 寺田真由美, 古本朗嗣, 大石和徳, 永武 毅: 当院における高齢者院内肺炎の臨床的特徴. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P178
- 6) 川添金雄, 小山和彦, 黒木麗喜, 川上健司: 国立療養所川棚病院における細菌性呼吸器感染症の起炎菌に関する検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004年3月31日 - 4月2日. P178
- 7) 和田昭裕, 木村美幸, 木村貴弘, 八尋錦之助, 大串賢一, 平山壽哉: ヘリコバクター・ピロリの空胞化致死毒素( VacA )の空胞化作用と MAP キナーゼの活性化について. 第77回日本細菌学会, 大阪, 2004年4月1 - 3日.
- 8) 西 義人, 和田昭裕, 中山真彰, 大串賢一, 山崎栄樹, 河野 茂, 平山壽哉: 空胞化毒素を阻害するヒト血清糖蛋白の同定. 第77回日本細菌学会, 大阪, 2004年4月1 - 3日.
- 9) 中山真彰, 和田昭裕, 大串賢一, 西 義人, 山崎栄樹, 八尋錦之助, 平山壽哉: *H. pylori*-VacA の毒性発現における受容体と lipid raft の役割. 第77回日本細菌学会, 大阪, 2004年4月1 - 3日.
- 10) 上村春樹, 加藤美枝, 柳 哲雄, 中澤秀介, 神原廣二: *Trypanosoma cruzi* トランスシアリダーゼの宿主細胞侵入における役割. 第73回日本寄生虫学会大会, 群馬, 2004年4月3 - 4日.
- 11) 神原廣二, 吉永一未, 前川芳秀, 高木正洋, AAN Suryanata, H. L. Sekarningrat, I. K.

Gerudug : インドネシア , ロンボク・スンバワ島におけるマラリアコントロール . 第73回日本寄生虫学会大会 , 群馬 , 2004年 4月 3 - 4日 .

- 12) 前野芳正 , 中澤秀介 , Le Duc Dao , Bui Quang Phuc , 長嶋茂雄 , 佐々木 潤 , Le Khanh Tuan , 谷口孝喜 : 熱帯熱マラリア感染におけるオステオポンチンの Th 1 防御免疫への関与について . 第73回日本寄生虫学会大会 , 群馬 , 2004年 4月 3 - 4日 .
- 13) 渡部幹次 , 菊池美穂子 , 岩崎啄也 , Hoggen Chen , 青木克己 , 平山謙二 : 日本住血吸虫感染ミニブタにおける 線照射セルカリアのワクチン効果 , 第73回日本寄生虫学会大会 , 群馬 , 2004年 4月 3 - 4日 .
- 14) 藤巻康教 , Nguyen Thi Viet Hoa , 野田伸一 , 宇賀昭二 , 門司和彦 , Le Dinh Cong , 青木克己 : ベトナムハノイ近郊の村における家屋周囲の土壌と家屋内埃の *Toxocara sp* 虫卵汚染状況 第73回日本寄生虫学会大会 , 群馬 , 2004年 4月 3 - 4日 .
- 15) 高木秀和 , 伊藤 誠 , Mirani V. Weerasooriya , 藤巻康教 , Mohammad Z. Islam , 青柳武則 , 木村英作 : リコンビナント抗原を用いたバンクロフト糸条虫症の尿診断 . 第73回日本寄生虫学会大会 , 群馬 , 2004年 4月 3 - 4日 .
- 16) 永武 毅 : ランチョンセミナー 6 インフルエンザをめぐる最近の話題 ~ 予防から治療まで ~ . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 .
- 17) 渡邊 浩 : シンポジウム 2 1 薬剤耐性菌を含む呼吸器病原菌の家庭内伝播に関する分子疫学的検討 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P64 65
- 18) 吉嶺裕之 , 大石和徳 , 池田秀樹 , 本田章子 , 永武 毅 : 肺炎球菌性下気道感染症の現況 全国多施設共同研究結果報告 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P76
- 19) 麻生憲史 , 渡邊 浩 , 星野和彦 , 渡邊貴和雄 , 大石和徳 , 永武 毅 , 杉田麟也 : *Moraxella catarrhalis* の家庭内伝播に関する分子疫学的解析 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P76
- 20) 古本朗嗣 , 山領 豪 , 大石和徳 , 永武 毅 , 川上健司 , 真崎宏則 : 第 3 世代 ELISA を用いて慢性呼吸器疾患患者の肺炎球菌ワクチン接種前後での血清中肺炎球菌莢膜ポリサッカライド (CPS) IgG の検討 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P114
- 21) 齋藤麻理子 , 大石和徳 , 本田章子 , 永武 毅 : デングウイルス感染症における Platelet-associated IgG の臨床的意義 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P121
- 22) 本田章子 , 大石和徳 , 齋藤麻理子 , 永武 毅 : 最近のフィリピン・メトロマニラにおける小児デングの臨床像 . 第78回日本感染症学会総会 , 東京 , 2004年 4月 6 - 7日 . P194

- 23) 川上健司, 小山和彦, 川添金雄, 黒木麗喜: Bacillus cereus による敗血症11症例の検討. 第78回日本感染症学会総会, 東京, 2004年4月6 - 7日. P187
- 24) 小山和彦, 川添金雄, 黒木麗喜, 川上健司: 当院における Klebsiella pneumoniae 敗血症9症例の検討. 第78回日本感染症学会総会, 東京, 2004年4月6 - 7日. P187
- 25) 渡邊 浩, 星野和彦, 麻生憲史, 大石和徳, 永武 毅: 肺炎球菌, インフルエンザ菌の親子間伝播に関する分子疫学的検討. 第101回日本内科学会総会, 東京, 2004年4月8 - 10日. P151
- 26) 大石和徳: ランチョンセミナー IV. 呼吸器感染症ワクチン: その現在と未来. 第79回日本結核病学会総会, 名古屋, 2004年4月20 - 21日.
- 27) 一ノ瀬昭豊, カムルディンアハメド, 渡邊貴和雄, 大石和憲, 和泉伸一, 寺井陽子, 和田昭裕, 平山壽哉, 永武 毅: 細菌, ウイルスの観察手技法の一例. 第20回医学生物学電子顕微鏡技術学会学術講演会・微生物観察のための電顕技法シンポジウム, 大阪, 2004年4月23 - 25日.
- 28) 石田正之, 古本朗嗣, 山領 豪, 大石和徳, 永武 毅, 柳 哲雄, 神原廣二: 海外渡航後ランブル鞭毛虫, クリプトスポリジウム, プラストシスチスの3原虫感染を認めた1例. 第265回日本内科学会九州地方会, 沖縄, 2004年5月22日. P35
- 29) 石田正之, 麻生憲史, 土橋佳子, 調 漸, 大石和徳, 永武 毅: Pergolide 投与により胸水貯留を来したと考えられる Parkinson 病の1例. 第265回日本内科学会九州地方会, 沖縄, 2004年5月22日. P38
- 30) 栗田伸一, 寺田真由美, 池田喜彦, 劉 中誠, 永武 毅: 繰り返す閉塞性肺炎により発見された気管支内軟骨性過誤種の1例. 第265回日本内科学会九州地方会, 沖縄, 2004年5月22日. P40
- 31) 池田秀樹, 小山 純, 大石和徳, 永武 毅, 鬼塚正三郎: 肺炎球菌 (type 3) の気道免疫における特異抗体 (CPS 抗体, PspA 抗体) 誘導と樹状細胞の動態について. 第24回気道分泌研究会, 北海道, 2004年5月29日.
- 32) 鳥山 寛, 千馬正敬: ケニアにおける B 型肝炎ウイルス表面抗原亜型 (HBsAg subtype) の分布. 第41回日本アフリカ学会学術大会, 春日井, 2004年5月29 - 30日.
- 33) 渡邊貴和雄, 吉嶺裕之, 大石和徳, 渡邊 浩, 永武 毅: 呼吸器感染症患者より分離された肺炎球菌の各種抗菌剤に対する感受性及び血清型の検討. 第52回日本化学療法学会総会, 沖縄, 2004年6月3 - 4日. P118
- 34) 渡邊 浩, 渡邊貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: ベトナムにおける小児上気道由来と髄液由来インフルエンザ菌の薬剤感受性と分子疫学的検討. 第52回日本化学療法学会総会, 沖縄, 2004年6月3 - 4日. P124

- 35) 寺田真由美, 栗田伸一, 水城恒隆, 池田喜彦, 大石和徳, 永武 毅: CO<sub>2</sub>ナルコーシスを呈した僧帽弁腱索断裂の一例. 第52回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡, 2004年6月5日. P33
- 36) 土橋佳子, 本村和嗣, 渡邊貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: *Mycobacterium xenopi* による肺非結核性抗酸菌症の1例. 第52回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡, 2004年6月5日. P45
- 37) 石田正之, 土橋佳子, 大石和徳, 永武 毅, 安部邦子, 林徳眞吉, 北市正則, 宇野勝次: モンテルカストによる薬剤性好酸球性肺炎の一例. 第52回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡, 2004年6月5日. P47
- 38) 小山和彦, 黒木麗喜, 川添金雄, 川上健司: 経鼻胃チューブ抜去と嚥下訓練で鼻咽腔閉鎖不全が改善した1例. 第52回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡, 2004年6月5日. P69
- 39) 川上健司, 小山和彦, 川添金雄, 黒木麗喜: 間質性肺炎治療中に発症したノカルジア症の1例. 第52回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡, 2004年6月5日. P39
- 40) 重松和人, 西田教行, 中谷 晃, 入江準二, 田口 尚, 鳥山 寛, 高原 耕: プリオン感感染腎における特異遺伝子発現の検討. 第93回日本病理学総会, 札幌, 2004年6月9 - 11日.
- 41) 馬 紹平, 森田公一, 牧野芳大, 小河正雄: 北部九州で分離された日本脳炎ウイルス (GIII) 株の3 NCR に存在する欠損の variation. 第39回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 神戸, 2004年6月17 - 18日.
- 42) 井上真吾, マリアT .アロンゾ, フローレンシオP .タデナ, ロナルドR .マティアス, フィリピナスF .ナティビダド, 森田公一: フィリピンにおける日本脳炎発生の季節性について, 第39回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 神戸, 2004年6月17 - 18日.
- 43) 黒澤八重, 山本 晃, 木城きくか, 中山幹男, 小川哲郎, 井上真吾, 高崎智彦, 森田公一, 倉根一郎: ハイドロキシアパタイト - ナイロン複合ビーズを用いた抗 Dengue ウイルス IgM の検出, 第39回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 神戸, 2004年6月17 - 18日.
- 44) マンモハン パリダ, 堀岡宏平, 石田裕之, 井上真吾, 森田公一: リアルタイム RT-LAMP 法を用いた Dengue ウイルス各血清型別迅速診断法の開発, 第39回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 神戸, 2004年6月17 - 18日.
- 45) 石田正之, 古本朗嗣, 山領 豪, 大石和徳, 永武 毅: インド渡航後にジアルジア, クリプトスポリジウム, プラストシスチスの3原虫感染を認めた1例. 第15回日本臨床寄生虫学会, 東京, 2004年6月19日. P31
- 46) 大石和徳: ランチョンセミナー 新興呼吸器ウイルス感染症とその対応. 第40回日本小

- 児放射線学会，長崎，2004年6月25日。
- 47) 山崎栄樹，和田昭裕，中山真彰，西 義人，平山壽哉：*H. pylori* VacA の細胞特異性および作用機序に関する研究．第51回毒素シンポジウム，長崎，2004年7月7 - 9日．
- 48) 和田昭裕，八尋錦之助，平山壽哉：所属は別紙に添付 *H. pylori* が産生する VacA が結合するのに重要な RPTPβ の細胞外領域について．第51回毒素シンポジウム，長崎，2004年7月7 - 9日．
- 49) 大石和徳：ランチョンセミナー 慢性肺疾患の急性増悪と感染症．第44回臨床呼吸機能講習会，福岡，2004年8月26日．
- 50) 馬 紹平，森田公一，只野昌之，牧野芳大，小河正雄：日本で伝播している日本脳炎ウイルスの変遷1935 - 2002，第41回日本ウイルス学会九州支部総会，福岡，2004年9月3 - 4日．
- 51) Wei-Feng Tang, Yuki Eshita, Masayuki Tadano, Kouichi Morita, Yoshihiro Makino: Molecular basis for adaptation of a dengue type-4/Japanese encephalitis chimeric virus to Vero cells．第41回日本ウイルス学会九州支部総会，福岡，2004年9月3 - 4日．
- 52) 中村三千男，高田 八尋真希，藤井仁人：特異的塩基配列を求める GT ミスマッチ DNA 結合蛋白質．第77回日本生化学会大会，京都，2004年10月13 - 16日．
- 53) 馬 紹平，森田公一，只野昌之，小河正雄：日本で伝播している日本脳炎ウイルスの変遷1935 - 2002．第45回日本熱帯医学会大会，東京，2004年10月15 - 16日．
- 54) 井上真吾，Alonzo Maria Tet，Tadena florencio P.，Matias Ronald R.，Natividad Filipinas F，森田公一：フィリピンにおける日本脳炎について．第45回日本熱帯医学会大会，東京，2004年10月15 - 16日．
- 55) 菊地三穂子，Huong Vu Thi Que，Ngu Vu Thien Thu，Tham Vo Dinh，Dat Tran Van，Ha Do Quang，森田公一，平山謙二：デング出血熱の重症化を決定する宿主要因の解析．第45回日本熱帯医学会大会，東京，2004年10月15 - 16日．
- 56) Islam Mohammed A.，Ahmed Muzahed U.，Begum Nasima，Chowdhury Naseem A.，Khan Afjal H.，Parquet Maria del C.，Bipolo Sophie，Hasebe Futoshi，Suzuki Yasuo，Morita Kouichi: Status of Currently Circulating Dengue Virus Responsible for the Epidemic in Bangladesh in the Year 2002．第45回日本熱帯医学会大会，東京，2004年10月15 - 16日．
- 57) Parida Manmohan，Minekawa Harumi，Notomi Tsugunori，Inoue Shingo，Hasebe Futoshi，Morita Kouichi: Real-Time Reverse Transcription Loop Mediated Isothermal Amplification (RT-LAMP) Assay as a Rapid Diagnostic Tool for Emerging Viruses．第45回日本熱帯医学会大会，東京，2004年10月15 - 16日．
- 58) Yu Fuxun，Inoue Shingo，Le Mai Quynh，Thai Hong Thi Cam，Hasebe Futoshi，Morita

- Kouichi : N-Terminus Truncated Recombinant SARS Coronavirus Nucleocapsid Protein-Based ELISA is more Specific for Serodiagnosis of SARS .第45回日本熱帯医学会大会 ,東京 ,2004年10月15 - 16日 .
- 59) 神原廣二 , 吉永一未 , 高木正洋 , 前川芳秀 , Gerudug, I. K. , Suryanatha AAN , Yam Iskandar , Dachlan, Y. P. : インドネシア国ロンボク , スンバワ島におけるマラリア疫学 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 60) 神原廣二 , 吉永一未 , 高木正洋 , 前川芳秀 , Gerudug, I. K. , Suryanatha AAN , Yam Iskandar , Dachlan, Y. P. : インドネシア国ロンボク , スンバワ島におけるマラリアコントロール . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 61) 中澤秀介 , Le Duc Dao , Nguyen Van Tuan , Nguyen Duc Giang , Truong Van Hanh , 砂原俊彦 , 山本太郎 , 門司和彦 : ベトナム少数民族居住地における5週間のマラリア累積罹患リスク . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 62) 木村英作 , 伊藤 誠 , Weerasooriya Mirani V. , 藤巻康教 , Islam Mohammad Z , 青柳武法 , 磯貝芳徳 : リンパ系フィラリア症の低感染地における , 尿 ELISA による集団治療効果のモニタリング 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 ~ 16日 .
- 63) 藤巻康教 , Hoa Nguyen Thi Viet , 野田伸一 , 宇賀昭二 , Thuan Le Khanh , Cong Le Dinh , 青木克己 , 門司和彦 : ベトナムハノイ近郊における土壌媒介寄生虫の伝播疫学研究 : 野菜および手指爪垢の寄生虫卵による汚染状況 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 64) 鳥山 寛 , 千馬正敬 , 熊取厚志 , 森内俊之 , 藤田修一 : タイ北部の陰茎癌における HPV 遺伝子型分布の特異性 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 65) 大石和徳 , 中村哲也 : シンポジウム I 0 熱帯現地で学ぶ臨床熱帯医学「司会の言葉」 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 . P27
- 66) 齊藤麻理子 , 大石和徳 : シンポジウム I 5 デング重症化機序の解明を目指して . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 . P32
- 67) 加地千春 , 渡辺 浩 , 渡辺貴和雄 , 大石和徳 , 永武 毅 : 15 ベトナムにおける小児上気道由来と髄液由来インフルエンザ菌に対する分子疫学的検討 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 . P75
- 68) 浜田芳樹 , 嶋田雅暁 , 門司和彦 : ビルハルツ住血吸虫症の虫卵排泄数変動を予測する数理モデルとシミュレーション . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .
- 69) 安高雄治 , 門司和彦 , Ali Foum Mgeni , Alipo Naim Khamis , 嶋田雅暁 : ザンジバル北部住民における水接触行動と住血吸虫症に関する知識 . 第45回日本熱帯医学会大会 , 東京 , 2004年10月15 - 16日 .



- 70) David Warunge Muriu, Kazuhiko Moji: Daily Variation of Schistosoma haematobium Egg Excretion. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 71) 藤巻康教, Hoa Nguyen Thi Viet, 野田伸一, 宇賀昭二, Thuan Le Khanh, Cong Le Dinh, 青木克己, 門司和彦: ベトナムハノイ近郊における土壌媒介寄生虫の伝播疫学研究: 野菜および手指爪垢の寄生虫卵による汚染状況. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 72) Yawo Dotse Afetse, Kazuhiko Moji: Problems in Dracunculiasis Eradication Activities in Ogou District, Togo. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 73) 中澤秀介, Le Duc Dao, Nguyen Van Tuan, Nguyen Duc Giang, Truong Van Hanh, 砂原俊彦, 山本太郎, 門司和彦: ベトナム少数民族居住地における5週間のマラリア累積罹患リスク. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 74) 徳永瑞子, 門司和彦, 大石和代, 中尾優子, 山崎真紀子: 中央アフリカ共和国の出生児体重の軽量化とHIVの影響. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 75) 蔡 国喜, 金田英子, 嶋田雅暁, 門司和彦: 性行為感染症及びHIV/AIDSに関する中国福建省福州市の臨床医を対象にしたKAP研究. 第45回日本熱帯医学会大会, 東京, 2004年10月15 - 16日.
- 76) 大石和徳: シンポジウム3 肺炎球菌ワクチンの現状と課題. 第53回日本感染症学会東日本地方総会 第51回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 新潟市, 2004年10月21 - 22日.
- 77) 渡邊 浩: シンポジウム [ I ] 新興感染症の予防と対策. 第42回日本社会保険医学会総会, 熊本市, 2004年11月11日.
- 78) 吉嶺裕之: シンポジウム2 1 成人市中肺炎の現状と問題点 肺炎球菌の薬剤耐性の推移. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P50
- 79) 古本朗嗣, 大石和徳, 永武 毅, 末安禎子, 相澤久道, 岩永知秋: A 2 2 慢性呼吸器疾患患者の急性増悪に対する肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの併用効果の検討. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P57
- 80) 松木 啓, 真崎宏則, 池田秀樹, 鬼塚智子, 光嶋博昭, 倉本剛史, 大石和徳, 永武 毅: A 2 3 Piperacillin-Amoxicillin スイッチ療法の有用性に関する検討. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P58
- 81) 中間貴弘, 田代尚樹, 天野秀明: B 1 5 結節影と湿潤影の混在した画像所見を呈した

- 肺クリプトコッカス症の1例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P63
- 82) 川上健司，小山和彦，原田義高，黒木麗喜，高橋孝郎：B 6 4 長期間の増大する経過が明らかであった慢性結核性膿胸の1例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P75
- 83) 石田正之，鈴木 基，天野秀明，川原史生，北市正則，大石和徳：C 5 1 PCPS(V-V ECMO)を用い救命しえた ARDS の一例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P86
- 84) 石田正之，米田 愛，土橋佳子，大石和徳：C 5 2 Mycoplasma pneumoniae 感染により生じたと考えられる ARDS の一例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P86
- 85) 本田章子，本村和嗣，土橋佳子，大石和徳：C 6 1 特発性肺胞蛋白症に GM-CSF 吸入療法を行った2症例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P88
- 86) 高木理博，栗田伸一，森 良孝，池田喜彦，竹林茂夫，大石和徳，永武 毅：C 6 2 透析治療中に両側肋骨転移で発見された混合型肝癌の一例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P88
- 87) 寺田真由美，土橋佳子，大石和徳：C 6 3 慢性咳嗽を契機に発見されたランゲルハンス細胞組織球症の一例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P89
- 88) 古本朗嗣，大石和徳，永武 毅，立石洋平：C 7 1 多発反復する肺血栓症を合併したクローン病の一例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P90
- 89) 中間貴弘，田代尚樹，天野秀明：C 7 2 肺結節影にて精査し Pseudolymphoma と診断した1例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P90
- 90) 小山和彦，原田義高，黒木麗喜，川上健司，高橋孝郎：C 7 3 嚥下障害に対し喉頭気管離断術を施行した2症例．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P91
- 91) 倉本剛史，土橋佳子，吉嶺裕之，山領 豪，渡辺貴和雄，渡辺 浩，大石和徳：A 6 2 COPD の急性増悪に関する臨床的検討．第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会，福岡，2004年11月11 - 12日．P103

- 92) 中間貴弘, 田代尚樹, 天野秀明: A 6 3 人工鼻を用いた人工呼吸器管理中の患者の気道内加湿についての検討. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P104
- 93) 中間貴弘, 田代尚樹, 天野秀明: B 8 5 慢性咳嗽を主訴に来院した夏型過敏性肺臓炎の1例. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P110
- 94) 中間貴弘, 田代尚樹, 天野秀明: B 9 5 当院のNSIP 2症例の治療経験. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P113
- 95) 中間貴弘, 田代尚樹, 天野秀明: B 12 1 肺癌診療における超音波検査の有用性. 第56回日本結核病学会九州地方会総会 第53回日本呼吸器学会九州地方会総会, 福岡, 2004年11月11 - 12日. P118
- 96) 門司和彦, 浜田芳樹, 嶋田雅暁, 青木克己, 渡部幹次, N.Muhoho, M.Karama: ケニア沿岸州の1村落におけるビルハルツ住血吸虫虫卵排泄数の月間変動. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 97) 金田英子, Bounngong Boupna, Tiengkham Pongvongsa, 嶋田雅暁, 門司和彦: ラオス・ドンバング村での水容器中デングウイルス媒介蚊幼虫発生の季節変化. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 98) 鷹居樹八子, 本田純久, 高村 昇, 草野洋介, 安部恵代, 金ヶ江光生, 門司和彦, 青柳 潔: 訪問看護サービスを利用している高齢女性における転倒恐怖感に関する要因. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 99) 阿部朋子, 安高雄治, 門司和彦, 嶋田雅暁, 森 淑江: パキスタン・パンジャーブ州農村部における女性の生活パターンと社会的役割. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 100) 中尾優子, 門司和彦, 大石和代: 出産後初回授乳時間の母乳栄養継続等への影響. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 101) 中尾理恵子, 田原靖昭, 門司和彦: 青少年期における喫煙行動と認識の関連. 第69回日本民族衛生学会総会, 東京, 2004年11月11 - 12日.
- 102) 北畠正大, 安井文彦, 井上真吾, 森田公一, 鮫島由紀恵, 村井 深, 水野喬介, 木所 稔, 志田壽利, 橋本真一, 松島綱治, 小原道法: ワクシニアウイルス弱毒株 LC16m 8株を用いた SARS ワクチンの開発. 第52回日本ウイルス学会, 横浜, 2004年11月21 - 23日.
- 103) 名和 優, 赤塚俊隆, 高崎智彦, 倉根一郎, 森田公一, 只野昌之: 日本脳炎ウイルス

- Edomain I および II の境界領域のエピトープに対する中和単クローン抗体は、弱酸性条件での分子構造変化を制御した。第52回日本ウイルス学会，横浜，2004年11月21 - 23日。
- 104) **馬 紹平，森田公一，只野昌之，牧野芳大**：日本で伝播している日本脳炎ウイルスの変遷1935 - 2002 第52回日本ウイルス学会，横浜，2004年11月21 - 23日。
- 105) Parida Manmohan , Inoue Shingo , Morita Kouichi: Rapid Detection and Differentiation of Dengue Virus Serotypes Real-Time Reverse Transcription Loop Mediated Isothermal Amplification . 第52回日本ウイルス学会，横浜，2004年11月21 - 23日。
- 106) Thai Hong Thi Cam , Parida Manmohan , Hasebe Futoshi , Morita Kouichi: Development and Evaluation of a Novel Loop Mediated Isothermal Amplification (LAMP) Method for Rapid Detection of SARS Corona Virus . 第52回日本ウイルス学会，横浜，2004年11月21 - 23日。
- 107) Yu Fuxun , Inoue Shingo , Thai Hong Thi Cam , Hasebe Futoshi , Morita Kouichi: Identification of in-apparent infection of SARS corona virus among close contactors of SARS patients in Vietnam . 第52回日本ウイルス学会，横浜，2004年11月21 - 23日。
- 108) **永武 毅，吉田真一**：シンポジウム これから問題となる感染症の集団発生にどう対応するか。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P33
- 109) **大石和徳**：シンポジウム これから問題となる感染症の集団発生にどう対応するか 1。SARS 対策。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P34
- 110) **古本朗嗣，山領 豪，渡辺 浩，大石和徳，永武 毅**：1 慢性呼吸器疾患患者における肺炎球菌ワクチン(PV)接種前後の経時的血清型特異的莢膜ポリサッカライド(CPSIgG)濃度の推移の検討。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P45
- 111) **土橋佳子，吉嶺裕之，渡辺 浩，大石和徳，永武 毅**：13 治療に難渋した MRSA 化膿性脊椎炎。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P51
- 112) **齊藤麻理子，本田章子，大石和徳，永武 毅**：20 デング二次感染症の重症化と PAIgM。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P54
- 113) **石田正之，寺田真由美，池田秀樹，土橋佳子，吉嶺裕之，麻生憲史，大石和徳，永武 毅**：31 当院における最近5年間のマラリア症例の検討 - 血小板減少を中心として - 。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P60
- 114) **石田正之，吉嶺裕之，渡辺 浩，大石和徳，永武 毅**：33 当院における travel clinic の現状と問題点。第74回日本感染症学会西日本地方会総会，島根，2004年11月25 - 26日。P61

- 115) **土橋佳子, 石田正之, 渡辺 浩, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅, 弦本敏行**: E.coli による壊死症筋膜炎の一例. 第74回日本感染症学会西日本地方会総会, 島根, 2004年11月25 - 26日. P71
- 116) **大石和徳**: 特別講演 新興呼吸器ウイルス感染症とその対応. 第56回日本気管食道科学会総会, 東京, 2004年11月25 - 26日. P41
- 117) **森田公一**: ベトナムにおける新しい神経病原性アルボウイルスの発見. 第39回九州微生物研究会, 福岡, 2004年12月17日.
- 118) **森田公一, 福家 功**: 西ナイルウイルスのワクチン開発, 特定研究班会議, 東京, 2005年1月7 - 9日.
- 119) **小山 純, 鬼塚正三郎, 栗田伸一, 大石和徳**: インフルエンザ桿菌による気道免疫誘導機構の解明. 第4回肺分子病態研究会, 福岡, 2005年1月15日.

### 9 . 3 国際会議における研究発表

- 1 ) Koyama J, Oishi K, Onizuka S, Kurita S, Nagatake T: Dendritic Cell Influx and P 6-Specific Adaptive Immunity in the Lung after Air Way Challenge of H. influenzae outer Membrane Protein. American Thoracic Society International Conference. May 21-26, 2004, Orland, Florida, U. S.A.
- 2 ) Watanabe H, Asoh N, Watanabe K, Oishi K, Nagatake T: Antimicrobial Susceptibility and Genetic Characteristics of Haemophilus influenzae Isolated from Sputum from Respiratory Tract Infections Between 1987 and 2000, Including-Lactamase-Negative Ampicillin-Resistant Strains. 104<sup>th</sup> American Society for Microbiology General Meeting. May 23-27, 2004, New Orleans, Louisiana, U.S.A.
- 3 ) Toshiya Hirayama, Blanquita B. De Guzman, Masaaki Nakayama, Kinnosuke Yahiro, Akihiro Wada, Yoshito Nishi, Takeshi Azuma, and Joel Moss: Acid and alkali-treatments of Helicobacter pylori m 2 VacA increased its receptor binding and enhanced toxicity on gastric cell line AZ-521. 104 th General Meeting of American Society for Microbiology, May 23-27, 2004, New Orleans, LA, U.S.A.
- 4 ) Kenji Hirayama: Immunogenetic analysis of severe forms of parasitic disease. The 2<sup>nd</sup> Vietnam-Laos-Cambodia Symposium on prevention and control of emerging and reemerging communicable diseases. July 20-21, 2004, Hanoi, Vietnam (Proceedings of The 2<sup>nd</sup> Vietnam-Laos-Cambodia Symposium, July 20-21, 2004, Hanoi, Vietnam, p.252.)
- 5 ) Kawada,H. & Takagi,M: A new device for recording host-seeking rhythms of mosquitoes using a photoelectric sensor. XXII International Congress of Entomology, August, 15-21, 2004, Brisbane, Australia
- 6 ) Kawada,H. & Takagi,M.: Comparative study on the nocturnal behavior of Aedes mosquitoes using a new device equipped with photoelectric sensor. XXII International Congress of Entomology, August, 15-21, 2004, Brisbane, Australia
- 7 ) Kenji Hirayama: GCP Refresher Course for Clinical Monitors.  
August 18-20, 2004, Sofitel Center Hua Hin Resort, Prachuab Khirikhan, Thailand
- 9 ) Morita K.: Development and evaluation of a novel loop mediated-isothermal Amplification (LAMP) method for Rapid Detection of SARS Corona virus. Sino-Japanese International Symposium on Public Health in the 21<sup>st</sup> Century. August 19-21, 2004, Hefei, China.
- 10 ) Morita K, Inoue S, Ishikawa K, Fuke I. Development and evaluation of newly developed WN vaccine. The 4th Awaji International Forum on *Infection and Immunity*, August 30-September 2, 2004,

Hyogo, Japan.

- 11 ) Kenji Hirayama, Ratawan Ubalee, Takahiro Tsukahara, Mihoko Kikuchi, Koji J. Lum, Akira Kaneko: Malaria pressure influenced the frequency of a susceptible allele of TNF- $\alpha$  promoter region in Vanuatu. The 4th Awaji International Forum on *Infection and Immunity*, August 30 -September 2, 2004, Hyogo, Japan. (The 4th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Abstract and Program, p.107))
- 12 ) Kanbara H., Yoshinaga K., Takagi M., Maekawa Y., Moji K., Suryanata AAN, Yam I., Sekarningrat H. L., Umar Z., Gerudug I. K., Dachlan Y. P.: Malaria control at small endemic areas in Lombok and Sumbawa islands. Indonesia. The 14th German-Japanese Symposium on Protozoan Diseases. September 20-24, 2004, Dusseldorf, Germany
- 13 ) Toshiya Hirayama, Blanquita B. De Guzman, Masaaki Nakayama, Akihiro Wada, Takeshi Azuma, and Joel Moss: *H. pylori* m 1 VacA and m 2 VacA differ in cytotoxicity and recognition of receptors, RPTP $\beta$  and RPTP $\beta$  European Helicobacter Study Group. XVII International Workshop. September 22-24, 2004, Vienna, Austria
- 14 ) Morita K.: Pathogenesis of dengue virus infection. 37<sup>th</sup> Annual Academic Session, Ceylon College of Physicians. September 23-25, 2004, Colombo, Sri Lanka
- 15 ) Kenji Hirayama, Kanji Watanabe, Mihoko Kikuchi, Takeshi Nara, Takeshi Arakawa, Ratawan Ubalee, Masachika Senba, Takuya Iwasaki, Honggen Chen, Yoshiki Aoki: Miniature pig as a unique model for human schistosomiasis japonica vaccines experiments. Forth World Congress on Vaccines and Immunization (WCVI 2004). September 30-October 3, 2004, Tsukuba Science City, Tsukuba, Japan (Forth World Congress on Vaccines and Immunization (WCVI 2004 Japan), Program & Abstract, p.56)
- 16 ) Morita K.: Chip and other new technologies for dengue virus infection. WHO/TDR PDVI Workshop on Dengue diagnosis and dengue classification/ case management. October 4-6, 2004, Geneva, Switzerland
- 17 ) Morita K.: Arboviral encephalitis in Asia; The old and the new. International Symposium on Emerging Viral Infections. October 11-13, 2004, Pune, India
- 18 ) Toshiya Hirayama, Akihiro Wada, Masaaki Nakayama, Junzou Hisatsune, Eiki Yamasaki, Yoshito, Nishi, and Joel Moss: *Helicobacter pylori* VacA activates the p 38 MAPK in AZ 521 cells independent of its chloride channel activity. 7<sup>th</sup> Korea-Japan International Symposium on Microbiology, Oct. 22, 2003, Seoul, Korea
- 19 ) Parida M., Minekawa H., Notomi T., Inoue S., Hasebe F., and Morita K.: Real-Time Reverse Transcription Loop Mediated Isothermal Amplification (RT-LAMP) Assay as a rapid diag-

- nostic tool for Emerging Viruses. 53 rd Annual Meeting of American Society of Tropical Medicine and Hygiene. November 7-11, 2004, Miami, Florida, U.S.A
- 20 ) Ratawan Ubalee, Takahiro Tsukahara, Mihoko Kikuchi, Koji Lum, Mauli Dzodzomenyo, Akira Kaneko, Kenji Hirayama: Malaria pressure influenced the frequency of a susceptible allele of TNF- $\alpha$  promoter region in Vanuatu. The 53 rd Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene, November 7-11, 2004, Fontainebleau Hilton (Miami Beach), Florida, U.S.A.(ASTMH 7(4): 61)
- 21 ) Kenji Hirayama, Mihoko Kikuchi, Honggen Chen, Ratawan Ubalee, Kesera Nangchang, Akira Kaneko, Vu Thi Que Huong, Kouichi Morita, Tran van Dat, Vo Dih Tham: Cytokine Promoter SNP haplotype associated with severe form of Tropical Infectious Diseases. The 10 th Japan-Korea Parasitologist's Seminar Forum Che ju 10, November 18-20, 2004, Pome Hall, School of Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, Japan (The 10 th Japan-Korea Parasitologist's Seminar Forum Che ju 10, Program and Abstract, p.16)
- 22 ) Morita K: Pathogenesis of dengue virus infection. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infections Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27 2004, Nagasaki, Japan
- 23 ) Mathenge G.M.M., Parquet M.C., Funakoshi Y., Houhara S., Wong P.F., Ichinose A., Hasebe F., Inoue S., Morita K.: Construction of dengue 4 virus and Japanese encephalitis virus chimera and biological characterization. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infections Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27 2004, (Nagasaki, Japan
- 24 ) Hong T.C.T., Mai Q.L., Cuong D.V., Parida M., Minekawa H., Notomi T., Hasebe F. and Morita K.: Development and evaluation of a novel loop mediated isothermal amplification (LAMP) method for rapid detection of SARS Corona virus. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infections Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 25 ) Parquet M.C.: Ecology of Japanese encephalitis virus in East Asia. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infections Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 26 ) Hirayama K., Kikuchi M., Chen H., Ubalee R., Nangchang K.N., Kaneko A., Huong V.T. Q., Morita K., Dat T.V., Tham V.D.: TNF- $\alpha$  gene polymorphism and cerebral malaria in Asia. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan



- 27) Nga P.T., Thuy N.T., Suu P.T., Parida M., Morita K.: Isolation of new arboviruses from cerebrospinal fluids of acute encephalitis syndrome patients in the North Vietnam. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 28) Parquet M.D.C., Nga P.T., Cuong V.D., Ma S.P., Hasebe F., Inoue S., Makino Y., Takagi M., Nam V.S., Morita K.: Ecology of Japanese encephalitis virus in East Asia. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 29) Huong V.T.Q., Parquet M.D.C., Mai L.T.Q., Ha D.Q., Hasebe F., Inoue S., Morita K.: Molecular epidemiology of dengue-4 viruses in Vietnam; Implication of local evolution. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 30) Hirayama K., Kikuchi M., Huong V.T.Q., Ngu V.T.T., Tham V.D., Dat T.V., Ha D.Q., Morita K.: TNF- $\alpha$  promoter polymorphism and DHF in Vietnam. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 31) Oishi K., Saito M., Inoue S., Dimaano E.M., Alera M.T.P., Robles M.P., Estrella, Jr. B.D., Kumatori A., Moji K., Alonzo B.M., Buerano C.C., Matias R.R., Morita K., Natividad F. F., Nagatake T.: Association of increased platelet-associated immunoglobulins with thrombocytopenia and the severity of disease in secondary dengue virus infections. Nagasaki Symposium on Tropical Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 32) Fujimaki Y., Aoki Y., Moji K., Hoa N.T.V., Cong L.D., Noda S., Uga S.: Mode of transmission of soil-transmitted helminthiasis in Vietnam. JSPS Workshop on Infectious diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 33) Hoa N.T.V., Fujimaki Y., Noda S., Uga S., Cong L.D., Aoki Y., Moji K.: Parasitic contamination of vegetables, fingers and nail dirt in the suburb of Hanoi, Vietnam. JSPS Workshop on Infectious diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 34) Oishi K, Saito M, Inoue S, Dimaano EM, Alera MTP, Robles MP, Estrella BDJ, Kumatori A, Moji K, Alonzo BM, Buerano CC, Matias RR, Morita K, Natividad FF, Nagatake T: Association of increased platelet-associated immunoglobulins with thrombocytopenia and the severity of disease in secondary dengue virus infections. Nagasaki COE 21 Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam.

November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan (J 18)

- 35 ) Nakazawa S, Le Duc Dao, Moji K, Nguyen Van Tuan, Sunahara T, Nguyen Duc Giang, Maeno Y, Bui Quang Phuc, Uemura H, Yamamoto T, Nishikiori N (2004. 11): Malaria research project focusing on transmission in Binh Phuoc Province. Nagasaki COE 21 Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan (J 24)
- 36 ) Nguyen Thi Viet Hoa, Fujimaki Y, Noda S, Uga S, Le Dinh Cong, Aoki Y, Moji K.: Parasitic contamination of vegetables, fingers and nail dirt in the suburb of Hanoi, Vietnam. Nagasaki COE 21 Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan (J 28)
- 37 ) Fujmaki Y, Aoki Y, Moji K, Nguyen Thi Viet Hoa, Le Dinh Cong, Noda S, Uga S.: Mode of transmission of soil-transmitted helminthiasis in Vietnam. Nagasaki COE 21 Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop on Infectious Diseases in Vietnam. November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan (J 29)
- 38 ) Kenji Hirayama: TNF- $\alpha$  gene polymorphism and cerebral malaria in Asia. Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21 c COE Program Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan. (21 c COE Program Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases, p.38)
- 39 ) Jongwutiwes S., Putaporntip C., Iwasaki T., Sata T., Kanbara H.: First case of zoonotic malaria in human, Thailand. The 12 th ASEAN Pediatric Federation Conference & The 58 th Thai Congress of Pediatrics, November 26-28, 2004, Pattaya, Thailand
- 40 ) Kanbara H.: Malaria control at two subdistricts in NTB province. Symposium of Malaria Control in Indonesia, November 29-30, 2004, Surabaya, Indonesia
- 41 ) Kazuhiko Moji , Kazumi Yoshinaga, Yoes P. Dachlan, I. Ketut Artastra, I. K. Gerudug, Herman Budasi, Agun P. Suryanatha, Nyoman Suarsana, Iskandarsyah, Masahiro Takagi, and Hiroji Kanbara: Towards planning and implementation of effective and sustainable malaria health education and community participation in east Indonesia: An experience in Lombok and Sumbawa. Symposium of Malaria Control in Indonesia, November 29-30, 2004, Surabaya, Indonesia
- 42 ) Susumu Tanimura, Mai Quyuh Le, Troung Uyen Ninh, Tomoki Nakaya, and Tsutomu Mizota.: Geographical clustering and seasonal variation in dengue morbidity and mortality from 1999 to 2003 in vietnam. In Core University Program JSPS-Vietnam Academy of Science Tech-

- nology, Nagasaki, November 25-27, 2004, Nagasaki, Japan
- 43 ) Parquet M.D.C., Huong V.T.Q., Mai L.T.Q., Hasebe F., Inoue S., Morita K.: Molecular Epidemiology of Dengue 4 Virus in Vietnam; Identification of New Genotypes and Evidence of Local Independent Evolution. Fortieth U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan
- 44 ) Tafuku S., Tadano M., Arakawa T., Komesu A., Arakaki S., Sugawa H., Takashima I., Morita K., Mori N.: Protective Effects of DNA Vaccine Encoding West Nile Virus prM-E Glycoproteins in Mice. Fortieth U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan
- 45 ) Ma S.P., Morita K., Makino Y., Tadano M., Yoshida Y., Ogawa M., Kanemura K.: Shift of Dominant Genetic Clusters of Japanese Encephalitis Virus in Japan During 1935-2002. Fortieth U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan
- 46 ) Watanabe H, Kaji C, Anh D D, Huong P L T, Anh N T H, Huong V T, Phuong H V M, Thi N T T, Suu P T, Nguyet N T T, Rusizoka O S, Watanabe K, Nagatake T, Oishi K: A comparative molecular analysis of *Haemophilus influenzae* among children less than 5 year old with acute lower respiratory tract infection and meningitis in Hanoi, Vietnam. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan.
- 47 ) Oishi K, Yoshimine H, Watanabe H, Watanabe K, Nagatake T and the Pneumococcal respiratory tract infection study group: Antibiotic sensitivity in relation to penicillin-binding protein genes and serotype-distribution of *Streptococcus pneumoniae* strains responsible for pneumonia among adults in Japan, 2001 to 2003. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan.
- 48 ) Koyama J, Oishi K, Watanabe H, Nagatake T: Regulation of dendritic cell migration into the pulmonary lymph nodes and the induction of P 6-specific immunity after repeated airway challenge of nontypable *Haemophilus influenzae* outer membrane protein. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program. December 7-10, 2004, Kyoto, Japan.
- 49 ) Kanji Watanabe, Mihoko Kikuchi, Ekhlas Hamed, Ratawan Ubalee, Takeshi Nara, Takeshi Arakawa, Kazunari Ishii, Masachika Senba, Takuya Iwasaki, Yoshiki Aoki, Kenji Hirayama: The miniature pig as a unique experimental model for human Schistosomiasis japonica. Parasitic Diseases Panel 39<sup>th</sup> Annual Meeting, Japan-United States Cooperative Medical Science Program, Decemver 7-9, 2004, Kyoto, Japan (Japan-United States Cooperative Medical Science Program, WII-6)
- 50 ) Ratawan Ubalee, Takahiro Tsukahara, Mihoko Kikuchi, Koji J. Lum, Mauli.

- Dzodzomenyo, Akira Kaneko, Kenji Hirayama: Association between a susceptible TNF- $\alpha$  promoter allele and malaria endemicity in Vanuatu. Parasitic Diseases Panel 39<sup>th</sup> Annual Meeting, Japan-United States Cooperative Medical Science Program, Decemver 7-9, 2004, Kyoto, Japan (Japan-United States Cooperative Medical Science Program, P-3)
- 51 ) Ratawan Ubalee, Noor Azian Md Yusuf, Mihoko Kikuchi, Lokman Hakim Sulaiman, Kenji Hirayama: Identification of HLA-B\*1513 restricted T cell epitopes of *P. falciparum* in the indigenous persons in peninsular Malaysia. Parasitic Diseases Panel 39<sup>th</sup> Annual Meeting, Japan-United States Cooperative Medical Science Program, Decemver 7-9, 2004, Kyoto Japan (Japan-United States Cooperative Medical Science Program, P-4)
- 52 ) Kanji Watanabe, Mihoko Kikuchi, Ekhlash Hamed, Ratawan Ubalee, Takeshi Nara, Takeshi Arakawa, Kazunari Ishii, Masachika Senba, Takuya Iwasaki, Yoshiki Aoki, Kenji Hirayama: The miniature pig as a unique experimental model for human Schistosomiasis japonica. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science, Decemver 7-10, 2004, Kyoto Japan (Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program, p 233 &p.284)
- 53 ) Ratawan Ubalee, Takahiro Tsukahara, Mihoko Kikuchi, Koji J. Lum, Mauli. Dzodzomenyo, Akira Kaneko, Kenji Hirayama: Association between a susceptible TNF- $\alpha$  promoter allele and malaria endemicity in Vanuatu. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science, Decemver 7-10, 2004, Kyoto Japan (Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program, p.237)
- 54 ) Ratawan Ubalee, Noor Azian Md Yusuf, Mihoko Kikuchi, Lokman Hakim Sulaiman, Kenji Hirayama: Identification of HLA-B\*1513 restricted T cell epitopes of *P. falciparum* in the indigenous persons in peninsular Malaysia. Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science, Decemver 7-10, 2004, Kyoto, Japan(Fortieth Anniversary United States-Japan Cooperative Medical Science Program, p.238)
- 55 ) Akihiro Wada, Junzou Hisatsune, Masaaki Nakayama, Eiki Yamasaki, Yoshito Nishi, Blanquita B.De Guzman, Kinnosuke Yahiro, Joel Moss, and Toshiya Hirayama: Cytotoxicity and recognition of receptor-like protein tyrosine phosphatases by *Helicobacter pylori* m 2 VacA. 39<sup>th</sup> U.S.-Japan Joint Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections panel, Dec. 8-9, 2004, Kyoto, Japan
- 56 ) Toshiya Hirayama: *Helicobacter pylori* vacuolating cytotoxin VacA binds to mammalian cells through interaction with receptor type protein tyrosine phosphatases, RPTP $\alpha$  and RPTP $\beta$ . 39<sup>th</sup> U. S.-Japan Joint Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections panel, Dec. 8-9,

2004, Kyoto, Japan

- 57 ) Hirayama, T., Yahiro, K, Wada, A., and Moss, J.: *Helicobacter pylori* VacA binds to mammalian cells through interaction with receptor type protein tyrosine phosphatase (RPTP) alpha and beta, 44 th Annual Meeting The American Society for Cell Biology, Dec. 10-14, 2004, San Francisco, USA
- 58 ) Kenji Hirayama: FERCAP Ethical Review Committee Standard Operating Procedure (SOP) Workshop. March 28-29, 2005, The Chi The Building, Taipei, Taiwan
- 59 ) Kenji Hirayama: WHO / TDR Meeting on Clinical Data Management, March 31-April 2, 2005, Sofitel Center Hua Hin Resort, Thailand

## 9.4 報告書等印刷物

- 1) 森田公一：節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立，疫学およびワクチン開発に関する研究 厚生労働科学研究費 平成16年度研究成果報告書
- 2) 森田公一：SARS コロナウイルス検査法の精度向上および迅速化に関する研究 厚生労働科学研究費 平成16年度研究成果報告書
- 3) 森田公一：国際的な健康危機管理に必要なスキル獲得のための人材育成のあり方に関する研究 厚生労働科学研究費 平成16年度研究成果報告書
- 4) 青木克己：Proceedings of the 10<sup>th</sup> Japan Korea Parasitologists Seminar. Forum Cheju 10 Approach to the Important Research Subjects Wrapped in Mystery. 2005.
- 5) 鳥山 寛：慢性肝疾患の癌化にいたる肝組織像の変化およびウイルス学的研究 平成15年度共同研究報告 41 - 42, 2004年
- 6) 久保嘉直：エズリンの関与．平成16年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 HIV の増殖・変異の制御に関する研究 総括・分担研究報告書
- 7) 谷村 晋：保健医療計画における GIS の応用．地理情報システム学会（編），地理情報科学事典，pp 270 - 271．朝倉書店，4 2004．ISBN：4 254 16340 1．
- 8) 谷村 晋：R による空間疫学分析．岡田昌史（編），The R Book データ解析環境 R の活用事例集，pp 243 - 263．九天社，6 2004．ISBN：4 901676 97 0．
- 9) 谷村 晋：R と LaTeX．岡田昌史（編），The R Book データ解析環境 R の活用事例集，pp 410 - 416．九天社，6 2004．ISBN：4 901676 97 0．
- 10) 谷村 晋：保健医療計画と GIS．中谷友樹，谷村 晋，二瓶直子，堀越洋一（編），保健医療のための GIS．古今書院，10 2004．ISBN：4 7722 7014 0．
- 11) 谷村 晋：保健医療における情報配信と WebGIS．中谷友樹，谷村 晋，二瓶直子，堀越洋一（編），保健医療のための GIS．古今書院，10 2004．ISBN：4 7722 7014 0．
- 12) 谷村 晋：GPS で地図を作りたい．中谷友樹，谷村 晋，二瓶直子，堀越洋一（編），保健医療のための GIS．古今書院，10 2004．ISBN：4 7722 7014 0．
- 13) 谷村 晋：R と DCluster．中谷友樹，谷村 晋，二瓶直子，堀越洋一（編），保健医療のための GIS．古今書院，10 2004．ISBN：4 7722 7014 0．
- 14) Liang Qin, 古川孝明, 谷村 晋, 溝田 勉：Measures of combating against HIV/AIDS in mainland China．長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」予稿集，p .13, 8月 2004．長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」，長崎市，2004年 8月26日 - 28日．

- 15) **谷村 晋**：AIDS 患者の地理的分布とその地域要因に関する検討 - ホンジュラス共和国の事例から - . 長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」予稿集, p .13, 8月 2004 . 長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」, 長崎市, 2004年 8月26日 - 28日 .
- 16) **依田健志, 楽得康之, 溝田 勉**：Epidemiology and natural history of HIV/AIDS in USA  
長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」予稿集 p .69, 8月 2004 . 長崎大学熱帯医学研究所共同研究事業研究集会「開発途上国におけるエイズ流行と我が国の対応」, 長崎市, 2004年 8月26日 - 28日 .
- 17) **平山謙二**：マラリアワクチン及び薬剤開発に関する研究 . 平成15年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告集, 国立国際医療センター, pp 415 - 416, 2004 ,
- 18) **平山謙二, 菊池三穂子, 柳 哲雄, 北 潔, 木村彰方, 安波道郎, 中西憲司, 猪子英俊, 松田 肇, 千種雄一, 奈良武司, 金子 明, 新川 武**：シャーガス病の病態に関する免疫遺伝学的研究 . 長崎大学熱帯医学研究所 (全国共同利用研究所) 平成15年度 (2003) 共同研究報告集, pp 87 - 92, 2004 .
- 19) **大渡 伸, 藤巻康教, 熊取厚志, 鳥山 寛, 金田英子, 奥村 寛**：紫外線 (UV - B) 照射と生体免疫能の関連 . 長崎大学熱帯医学研究所 (全国共同利用研究所) 平成15年度 (2003) 共同研究報告集, pp 93 - 95, 2004 .
- 20) **平山謙二**：住血吸虫研究に関する情報交換, 共同研究の推進 アジアの住血吸虫研究ネットワーク会議 . 長崎大学熱帯医学研究所 (全国共同利用研究所) 平成15年度 (2003) 共同研究報告集, pp .122 - 128, 2004 .
- 21) **内田英二, 梅村和夫, 平山謙二, 光石忠敬 (出席者)**：IRB の役割とあり方を考える . 薬事日報 (2004年 9月10日付) : 9965号, pp .12 - 16 . 2004 .

# 10 講演会

## 10.1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) 回虫幼虫の発育・脱皮に必要なブタ回虫無機リン酸ピロフォスファターゼ  
辻 尚利 (独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 動物衛生研究所)  
2005年2月18日, 長崎大学熱帯医学研究書 小会議室
- 2) 1 . Evaluation of risks and benefits  
2 . Organization of ethics review  
3 . Issues in international research ethics  
Reidar K. Lie: (Department of Philosophy, University of Bergen, Bergen, Norway)  
International Course on Research Ethics, Pompe Hall, Nagasaki University, Japan  
July 26-28, 2004
- 3) Principles of Bioethics  
David Wendler: (NIH, Bethesda, MD, USA)  
International Course on Research Ethics, Pompe Hall, Nagasaki University, Japan  
July 26-28, 2004
- 4) International Course on Research Ethics にて生命倫理・安全対策等についての討論会  
中村秀文 (国立成育医療センター)  
佐藤 博 (新潟大学医学部)  
楊河宏章 (徳島大学医学部臨床試験管理センター)  
松井健志 (滋賀医科大学)  
2004年7月26日 - 28日
- 5) Analysis of patients with SARS in Vietnam  
Takehiko Sasazukin: (International Medical Center of Japan)  
November 25-27, 2004, Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and  
JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21c COE Program Global Control Strategy  
of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.
- 6) Identification of novel gene from *Schistosoma japonicum* by EST strategy and DNA vaccination  
Zhong-dao Wu: (Department of Parasitology, the Pre-Clinical School, Sun Yat-Sen University,  
Guangzhou 510089, China)  
November 25-27, 2004, Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and  
JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21c COE Program Global Control Strategy



of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.

7 ) Malaria research and the requirements of disease control

Walther H. Wernsdorfer: (Division of Specific Prophylaxis and Tropical Medicine, Center for Physiology and Pathophysiology, Medical University of Vienna, Austria)

November 25-27, 2004, Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21c COE Program Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.

8 ) A better understanding of the pathogenesis of severe malaria is essential to reducing malaria-associated mortality in African children

Bartholomew D. Akanmori: (Immunology Unit, Noguchi Memorial Institute for Medical Research, University of Ghana, Ghana)

November 25-27, 2004, Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21c COE Program Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.

9 ) Plasmodium mitochondria as a target of chemotherapy.

Kiyoshi Kita: (Department of Biomedical Chemistry, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo)

November 25-27, 2004, Nagasaki Symposium On Tropical and Emerging Infectious Diseases and JSPS Workshop On Infectious Diseases in Vietnam, 21c COE Program Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.

10 ) What is Product Development and why it is important of TDR?

Juntra Karbwang (Clinical Coordinator WHO/TDR)

第29回日本熱帯医学会九州支部大会 ( - 熱帯病の地球規模制御戦略 - ) シンポジウム ,  
2005年 1 月21日 - 22日 , 長崎大学医学部ポンペ会館 , 長崎

11 ) Malaria transmission-blocking vaccine development: Post-genome approach (Cell-Free Science and Technology Research Center, Ehime University, Japan)

Takafumi Tsuboi

2005年 1 月21日 - 22日 ( 金 ) , 第29回日本熱帯医学会九州支部大会 ( - 熱帯病の地球規模制御戦略 - ) 長崎大学 , 長崎

12 ) インターロイキン18と自然型アトピー

中西憲司 ( 兵庫医科大学・免疫学医動物学 )

2005年 2 月18日 , 長崎大学ポンペ会館 , 長崎

## 10.2 熱帯医学研究所教官による講演

- 1) 呼吸器感染症における今日の問題と予防・治療～小児から高齢者まで～

**永武 毅**

第132回筑豊小児科医会勉強会

2004年4月8日, 飯塚市

- 2) 呼吸器感染症の今日の問題と対応 - 小児から高齢者まで -

**永武 毅**

鹿児島市医師会学術講演会

2004年5月7日, 鹿児島市

- 3) 熱帯医学とケニアに於ける住血吸虫症対策

**青木 克己**

愛媛大学医学部特別講義

2004年5月18日, 松山

- 4) 熱帯医学と住血吸虫症対策

**青木 克己**

九州大学医学部特別講義

2004年5月31日, 福岡

- 5) 新興・再興感染症研究の現状と課題

**森田 公一**

科学技術研究に関する報告会

2004年6月3日, 財務省, 東京

- 6) A new strategy for control of schistosomiasis studies on a trap for miracidia

**青木 克己**

帯広畜産大学原虫病研究センター特別講義

2004年6月10日, 帯広

- 7) Genetic study on Dengue Hemorrhagic Fever in Viet Nam

Hirayama Kenji

Pasteur Institute HochMinh City Seminer

June 13-19, 2005, Pasteur Institute Ho Ch Minh City, Viet Nam

- 8) 食品と寄生虫

**藤巻 康教**

徳島大学医学部栄養学科, 講義と実習

- 2004年 6月23日，徳島
- 9) Synergistic Effect of two susceptible genetic markers of Schistosomal liver fibrosis in China  
Hirayama Kenji  
中国江西省寄生虫研究所セミナー  
2004年 7月13 - 16日，南昌，中華人民共和国
- 10) 日本脳炎ウイルスをとりまく最近の知見  
**森田 公一**  
日本脳炎に関する専門家ヒアリング会議  
2004年 7月23日，東京
- 11) 熱帯病の脅威とその対策  
**青木 克己**  
八幡医師会講演会  
2004年 8月 5日，八幡
- 12) Genetic Susceptibility to Parasitic Infectious Diseases  
Kenji Hirayama  
August 7, 2004, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand
- 13) Genetic Susceptibility to Parasitic Infectious Diseases  
Kenji Hirayama  
特別講義  
August 11, 2004, Faculty of Allied Health Sciences, Thammasat University, Bangkok, Thailand
- 14) 理容業における公衆衛生と感染症対策  
**渡邊 浩**  
理容業における公衆衛生と感染症対策についての勉強会  
2004年 8月20日，長崎
- 15) IRB の役割とあり方を考える（座談会）  
**平山 謙二**  
2004年 8月24日，山の上ホテル，東京
- 16) 感染症の重症化遺伝子  
**平山 謙二**  
第41回日本ウイルス学会九州支部総会  
2004年 9月 3 - 4日，福岡県歯科医師会館，福岡
- 17) 空間疫学分析における統計解析環境 R の活用  
**谷村 晋**

東京大学空間情報科学研究センター第7回年次シンポジウム

2004年9月10日，東京

18) 熱帯医学総論と住血吸虫症対策

**青木 克己**

京都大学医学部特別講義

2004年9月13日，京都

19) 慢性呼吸器疾患患者の急性増悪に対する肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの併用効果の検討

**古本 朗嗣**

第2回長崎感染症予防研究会

2004年10月1日，長崎

20) 肺炎球菌の耐性化と血清型分布 - 成人呼吸器感染症共同研究グループの成績を中心として -

**吉嶺 裕之**

第5回肺炎球菌ワクチン研究会

2004年10月15日，東京

21) 熱帯感染症の重症化遺伝子

**平山 謙二**

4大学感染症連絡会議

2004年10月21日，九州大学，福岡

22) 熱帯病：無視された病気

**青木 克己**

国立大学附置研究所・センター シンポジウム

日本と世界に於ける感染症の現状と日本の研究活動

2004年10月29日，大阪

23) 感染症疫学について感染症疫学，海外渡航の心構え

**渡邊 浩**

長崎県看護協会研修会

2004年11月6日，諫早

24) 東南アジアにおける熱帯病の現状と対策

**平山 謙二**

2005年11月15日，京都府立医科大学，京都

25) ウエストナイル熱について

**森田 公一**

平成16年度大村市医師会学術講演会，  
2004年11月17日，大村

26) 呼吸器感染症の最近の話題～インフルエンザと SARS の見分け方～

**渡邊 浩**

中部地区医師会学術講演会  
2004年11月18日，沖縄

27) 最近のインフルエンザの動向について

**大石 和徳**

管内地域保健関係者研修会  
2004年11月19日，長崎（西彼保健所）

28) いまどきの感染症について - インフルエンザ，SARS，HIV，結核など -

**大石 和徳**

平成16年度長崎市民健康大学  
2004年11月24日，長崎

29) 新興ウイルス性呼吸器感染症への対応

**大石 和徳**

山口県呼吸器感染・院内感染研究会  
2004年11月26日，山口

30) Field evaluation of spatial repellency with metofluthrin impregnated resin strip against mosquito in Hai Phong City, Viet Nam

**川田 均**

First Symposium of Yangming and Nagasaki Universities, 2004  
2004年11月29日，長崎

31) Tropical disease threat to global health Role of Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

**青木 克己**

第一回陽明大学 - 長崎大学学術交流シンポジウム  
2004年11月29日，長崎

32) 現代ウイルス感染症

**森田 公一**

国際保健医療交流センター，第1回 薬剤耐性病原体の実験診断（Ⅱ）コース  
2004年12月14日，熊本

- 33) 現代細菌感染症，肺炎に対する抗生物質の適正使用ガイドライン  
**大石 和徳**  
第1回 薬剤耐性病原体の実験必診断（Ⅱ）コース  
2004年12月16日，熊本
- 34) 空間疫学の手法と将来の展望  
The Applied Statistics Workshop 2004  
**谷村 晋**  
2005年1月7日，東京
- 35) 熱帯における新しい脳炎ウイルスの発見  
**森田 公一**  
日本学術会議九州・沖縄地区学術講演会（21世紀の日本と長崎の科学研究～最前線の科学者から若者たちへ～）  
2005年1月16日，長崎大学医学部記念講堂，長崎
- 36) 西ナイル熱ワクチン  
**森田 公一**  
第29回日本熱帯医学会九州支部会  
2005年1月21～22日，長崎大学医学部ポンペ会館，長崎
- 37) Vaccine and Diagnostic tool development for *Schistosomiasis* control.  
**平山 謙二**  
第29回日本熱帯医学会九州支部大会（-熱帯病の地球規模制御戦略-）シンポジウム，  
（プログラム p5）  
2005年1月21 - 22日，長崎大学医学部ポンペ会館，長崎
- 38) ウエストナイル熱の臨床，治療，ワクチン  
**森田 公一**  
北部九州三県動物由来感染症研修会  
2005年1月27日，ホテルレガロ福岡，福岡
- 39) 熱帯医学と住血吸虫症対策  
**青木 克己**  
東京医科歯科大学医学部特別講義  
2005年2月4日，東京
- 40) Liver Pathology  
Toriyama Kan  
Dept. of Pathology, Chiang Mai University

February 8, 2004, Chiang Mai

41) ウエストナイル脳炎ワクチンの開発について

**森田 公一**

長崎県平成16年度結核・感染症研修会，  
2005年2月9日，長崎（西彼保健所）

42) 倫理委員会と PGx 治療

**平山 謙二**

フォーラム「ファーマコゲノミクス治療の問題と解決法」  
2005年2月21日，東京大学，東京

43) Genetic Susceptibility to parasitic infectious diseases in human.

**平山 謙二**

JICA 上級原虫病コースに係る特別講義（長崎大学熱帯医学研究所）  
2005年2月24日，長崎

44) 気道感染症の病態と予防・治療戦略

**大石 和徳**

呼吸器感染症フォーラム  
2005年2月24日，堺

45) 気道感染症の病態と予防・治療戦略

**大石 和徳**

第32回 関東喀痰研究会  
2005年2月25日，東京

46) 新興感染症

**渡辺 浩**

上五島病院学術講演会  
2005年3月10日，南松浦郡

47) SARS の経験から考える今後の国際感染症アウトブレイクへの対応

**大石 和徳**

平成16年度厚生労働科学研究 国際危機管理ネットワーク強化研究推進事業シンポジウム  
2005年3月11日，東京

48) 大洋州予防接種事業における日本の貢献

**森田 公一**

2005年度大洋州保健大臣会議  
2005年3月16日，サモア

## 11 主要な研究設備

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1 バイオハザード セーフティフード | 22 原虫遺伝子 DNA 解析システム        |
| 2 超マイクロトーム         | 23 レーザースキャン顕微鏡             |
| 3 回転電動万能マイクロトーム    | 24 医用サーモグラフィ装置             |
| 4 分析電子顕微鏡システム      | 25 蛋白細胞相互作用解析システム          |
| 5 クリスタットマイクロトーム    | 26 白血球機能解析システム             |
| 6 反射型蛍光顕微鏡         | 27 核酸蛋白質解析合成システム           |
| 7 ウルトラマイクロトーム      | 28 宿主・寄生体相互作用解析システム        |
| 8 落射蛍光位相差顕微鏡       | 29 プラスミド自動分離調整システム         |
| 9 分離用超遠心機          | 30 遺伝子検出システム               |
| 10 真空高速冷却遠心機       | 31 感染症病原性解析システム            |
| 11 クリオスタット         | 32 コロニーアナライザー画像解析装置        |
| 12 万能倒立顕微鏡         | 33 熱帯性病原体成分機能解析システム        |
| 13 走査電子顕微鏡装置       | 34 多機能ぜん虫行動解析システム          |
| 14 プロテインシステム       | 35 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム    |
| 15 生態機能解析装置        | 36 蛋白質精製システム               |
| 16 高圧蒸気滅菌装置        | 37 病原性ウイルス遺伝子及び蛋白質機能解析システム |
| 17 病理組織標本作製システム    | 38 自動炭酸ガス細胞培養装置            |
| 18 超高速ビデオ          | 39 超遠心機                    |
| 19 DNA シンセサイザーシステム | 40 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム     |
| 20 微生物全自動増殖解析装置    | 41 生物顕微鏡                   |
| 21 細胞自動解析分離システム    | 42 細菌毒素活性測定解析システム          |



# 12 刊 行 物

## 1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときに Tropical Medicine (熱帯医学) と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

## 2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成15年度年次要覧は平成16年11月に発行された。

## 3) 長崎大学熱帯医学研究所 Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内および外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内 (A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University) が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成17年度版は、17年7月に発行された。

## 4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成16年度の報告集は、平成17年8月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧  
平成16年度（2004）

平成17年12月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所  
附属熱帯感染症研究センター

発行者：長崎大学熱帯医学研究所  
〒852 8523 長崎市坂本1丁目12-4  
☎(095)849 7800（総合案内）

印刷所：株式会社 昭和堂  
〒850 0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル  
☎(095)821 1234